

ダイバーシティ推進のための
アンケート

2023

調査報告書

2024年 3月

CHUO
UNIVERSITY
DIVERSITY
CENTER

中央大学ダイバーシティセンター

目次

はじめに	4
調査主体	5
報告書を読むにあたっての留意点	5
報告書の引用について	5
I 調査の概要	6
背景、調査の目的・設計	6
方法	8
回収状況	9
項目の統合	10
性別	12
自由記述の選定	13
II 調査の結果	14
結果の概要	14
取り組みの認知度	16
【学生】「ダイバーシティ宣言」の認知度（問 1）	16
【教職員】「ダイバーシティ宣言」の認知度（問 1）	18
【学生】ダイバーシティセンターに対する認知度（問 2）	20
【教職員】ダイバーシティセンターに対する認知度（問 2）	22
【学生】ダイバーシティセンターのイベントに対する認知度（問 3）	24
【教職員】ダイバーシティセンターのイベントに対する認知度（問 3）	26
【学生】「障害学生支援に関するガイドライン」に対する認知度（問 4）	28
【教職員】「障害学生支援に関するガイドライン」に対する認知度（問 4）	30
【学生】「GS ハンドブック・ガイドブック」に対する認知度（問 5）	32
【教職員】「GS ハンドブック・ガイドブック」に対する認知度（問 5）	34
学内環境への意識	36
【学生】中央大学は障害のある方が不自由なく学ぶ／働くことができる環境だと思うか（問 6）	36
【教職員】中央大学は障害のある方が不自由なく学ぶ／働くことができる環境だと思うか（問 6）	38
【学生】中央大学は性別や性のあり方に関係なく安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか（問 7）	40
【教職員】中央大学は性別や性のあり方に関係なく安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか（問 7）	42
【学生】中央大学は外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか（問 8）	44
【教職員】中央大学は外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか（問 8）	46
【学生】認知度・意識に関する質問に対する自由記述（問 9）	48
【教職員】認知度・意識に関する質問に対する自由記述（問 9）	52

属性	56
学生か教職員か（問 11）	56
【学生】 学年（問 12a）	56
【学生】 学部（問 13a1）	57
【学生】 研究科（問 13a2）	57
【学生】 留学生（問 14a）	58
【教職員】 学内の立場（問 12b）	58
【教職員】 勤務地（問 13b）	59
【教職員】 年齢（問 14b）	59
【学生】 性別（問 15、16）	60
【教職員】 性別（問 15、16）	60
【学生】 性的指向（問 17）	61
【教職員】 性的指向（問 17）	61
【学生】 外国ルーツ（問 18）	62
【教職員】 外国ルーツ（問 18）	62
【学生】 障害（問 19）	63
【教職員】 障害（問 19）	63
調査への意見等	64
【学生】 本調査に対する自由記述（問 20）	64
【教職員】 本調査に対する自由記述（問 20）	65
Ⅲ 結果から見えること	66
Ⅳ 質問票	68

はじめに

本報告書は、2023 年 10 月におこなった『中央大学ダイバーシティ推進のためのアンケート 2023』（以下、本調査）の集計結果をまとめたものです。

学校法人中央大学（以下、本学）は、2017 年に「中央大学ダイバーシティ宣言」（以下、宣言）を公表し、障害、病歴、経済状況、家庭環境、性別、性自認、性的指向、年齢、国籍、人種、言語、信念、宗教など、多様な背景をもつ人びとが、ともに学び、ともに働くことのできる環境を創り出すことを宣言しました。その中心的な役割を担う組織として、ダイバーシティセンターが 2020 年に設置されました。

ダイバーシティセンターは、「グローバル、多文化共生」、「ジェンダー・セクシュアリティ（性のあり方や性別）」、「障害学生等支援」の 3 領域を重点領域とし、ダイバーシティ推進のために啓発・情報発信・環境整備・個別相談／支援・居場所づくりなど様々な活動をしてまいりました。各領域を所管する部会・コーディネーターを中心とした取り組みはもとより、本学のセンターの特徴である、領域横断性・交差性をいかして、ダイバーシティウィーク、Diversity Days、D トーク、D café などのイベントの実施、バリアフリーマップの作成、授乳室・礼拝室等の設置提案、施設建設および補修等に関する要望等の資料作成、通称名使用の基準改定、新入生オリエンテーション、附属校ウェルカムイベント、教職課程学生対象研修、教職員研修などの啓発活動、オープンキャンパスでの相談対応をセンター全体で行ってきました。その中で少しずつですが、本学の様々な学生や教職員などの構成員との繋がり、学部事務室・入学センター・キャリアセンター・学生相談室、各 CSW と CSW 連絡会、学生団体など、関係する部課室やグループ、そして、他大学との連携をつくることのできてきました。

しかし、ダイバーシティセンターの情報が全ての構成員に届いているかどうか、課題も感じていました。また、繋がりができた構成員・組織以外の声をどのように集め、学内に共有していくかという課題もありました。

そこで、より広く本学の現状を把握し、その結果を学内で共有し、ダイバーシティ推進への意識を高めていくことを目的に、ダイバーシティセンターで本調査を実施することにしました。結果については本報告書のなかで、詳しく述べられていますが、回答数が 1,800 件、回収率は全体の 5.1% と決して高いとはいえない値でしたが、多くの方々にご協力いただくことができました。調査にご協力、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

本調査で得られた結果を、今後のダイバーシティ推進の取り組みにいかしていきます。現在、センターでは、学生支援を優先的に行っていますが、宣言は、教職員の教育・研究・就労環境に言及しており、既に、いくつかの指摘や相談が教職員からセンターに寄せられ、そのたびごとに対応してきました。この全学調査を契機に、教職員にかかわる取り組み、環境整備にも着手したいと考えています。また、ダイバーシティセンターの取り組みを評価する一つの方法として、本調査を定期的に行い、結果を比較するということも視野に入れて検討しています。その際、回答数・回収率を上げることも検討項目の一つです。

あらためて、ご協力いただいたすべての方にお礼申し上げます。本学における「ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョン（DE&I）」推進に、多くの方々が、我がこととして参画するためのハブの機能をダイバーシティセンターが担えるよう活動していきます。

2024 年 3 月

中央大学ダイバーシティセンター所長 中島康予

調査主体

調査実施主体：中央大学ダイバーシティセンター

業務委託先：株式会社トリッド（集計、グラフ作成、報告書デザイン等）

【調査設計の立案、データの管理について】

調査設計および分析方針の立案・決定は、ダイバーシティセンターのグローバル部会、ジェンダー・セクシュアリティ部会、障害学生等支援部会の各部長および社会調査に専門的な知見がある部会員から選出されたワーキンググループが行いました。データの管理はダイバーシティセンター事務室の職員が担当しました。個票データはダイバーシティセンター事務室の職員および上記業務委託先のみが閲覧できるようにしましたが、業務委託先に共有する前に、ダイバーシティセンター事務室の職員によって個票データ上の個人が特定される恐れのある情報は削除・編集しました。

報告書を読むにあたっての留意点

- 本報告書で示す結果は、任意の協力により提出された回答を集計したもので、中央大学の構成員全体に一般化できるものではありません。
- 本報告書は、調査票の各問の単純集計（％）と属性による集計結果を示すものですが、属性と属性を掛け合わせた結果は本調査の回収数が少ないことから個人の特定につながる恐れがあると判断し、非公表としました。
- 問 11 の設問以外は全て任意回答のため、設問により回答数が異なります。
- 割合（％）は小数点第二位で四捨五入するため、全てを足しても 100％ にならないことがあります。
- 選択肢が長い場合は図表上では短縮して掲載している場合があります。実際に用いられた選択肢については、付録の調査票をご覧ください。
- 図表の題名は可能な限り簡潔にしています。例えば、「学年別にみた、学生のダイバーシティ宣言に対する認知度の分布」は、「学年別、学生の認知度（宣言）」に短縮して記載しています。
- 複数回答の質問は割合（％）を各選択肢 / 該当する質問への回答数で算出しています。
- 本報告書は調査結果を問 11 の回答によって学生と教職員に分けて記載しています（問 11 の結果を除く）。
- 本調査は日本語と英語併記で実施しましたが、本報告書は質問票を除き日本語のみで記載し、英語については別途英語版の報告書を作成する予定です。
- 他の調査と同様に、今後の研究でさまざまな検討をした結果、分類の方法が変更されたり、無効とすべき回答が見つかったりすることが考えられ、そのため本調査で示された数値は修正される可能性があります。万が一、大きな変更や修正をすることになった場合は、その旨を周知します。

報告書の引用について

本報告書からの引用にあたっては、以下の情報を含めていただきますようお願いいたします。

中央大学ダイバーシティセンター（2024）『中央大学ダイバーシティ推進のためのアンケート 2023 調査報告書』

【本報告書に関する問い合わせ】 中央大学ダイバーシティセンター事務室

Tel. 042-674-4554

E-mail : dc-soudan-grp[アット]g.chuo-u.ac.jp [アット]を@に置き換えてください

I 調査の概要

背景、調査の目的・設計

本調査は、次の目的で本学のダイバーシティ推進に関する認知度や本学の学内環境に対する認識、回答者の属性などを尋ねたものです。

- ①ダイバーシティに関連する学内の取り組みに関する認知度を把握する
- ②ダイバーシティに関連する学内環境に対する意識を把握する

この調査を実施した背景と、調査の目的に基づいた設問の設計は以下のとおりです。

背景

ダイバーシティセンターが発足した 2020 年から現在まで継続する課題の一つとして、学内全体の現状把握があります。これまでに、研修やイベント等の啓発活動や学生の個人支援を行う中で、一定数の学生や教職員とつながることはできており、学内で連携する部署も増えていますが、その一方、全学として「宣言」やセンターの存在と取り組みがどの程度認知されているのかなどの把握は十分にできないままとなってきました。

ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョン（DE&I）の実現においては、組織の構成員の多様性を認識し、組織内の制度や資源の配分に関して、一部の構成員を排除することのない公平・公正な仕組みを整えることが不可欠です。つまり、すでに差別や不公正を経験している人たちへの支援（個別支援）と、そもそもそうした差別や不公正が生まれてしまう全体的な仕組みを作っている文化や意識、制度の変革（環境整備）の両方を行っていく必要があります。特定の人たちのニーズを把握して必要な情報や支援を届けるだけでなく、幅広く組織全体にも働きかけをする必要があるのです。

ダイバーシティセンターは、設立当初の段階における取り組みの主な対象を学生に定めました。しかし、学生にとってもっとも身近な環境の一部でもある教職員へのアプローチも重要性が劣るわけではありません。日々の活動の中で、学生・教職員どちらについても、DE&I に関して知識や関心のある人にはセンターの活動が届きやすい一方で、情報が得にくい状況にある人もいるのではないかと、また多数派の人々に対して幅広く効果的なアプローチができていないのではないかとという問題意識が共有されてきました。そこから、できるだけ多くの構成員を対象とした量的な調査による現状把握が提案され、ワーキンググループを中心とした準備期間を経て、本アンケートの実施に至りました。

設問の設計

ワーキンググループでは、調査を設計する最初の一步として、差別や不公正を実際に経験しているであろう少数の人たちに経験を尋ねるニーズ調査と、構成員全体の意識や認知度調査の、双方の可能性が検討されました。議論の中ではニーズの把握がより切実であるという声も上がりましたが、環境整備が進んでいない段階で少数派の構成員に安心して経験を共有してもらえるのかという疑問や、調査の実施がかえって差別的な経験につながってしまうといういわゆる調査公害の可能性にも留意した結果、最終的に、細かく具体的な経験やニーズについて問う調

査票ではなく、広く認識と意識を尋ねる調査票の設計となりました。その上で、属性に関する設問も組み入れることで属性による経験の違いが一定程度回答に表れることも想定し、全体で大きく「認知度」「環境に対する意識」「属性」の3つのパートに分かれた設問を準備しました。準備期間には、学生や教職員にボランティアとしての協力を依頼して試験的に回答をしてもらう形で予備調査も行い、その結果を踏まえてより回答しやすい調査票を目指しました。

調査票はまず日本語で作成し、英訳を併記して、日本語または英語での回答を可能にしました。調査結果については、実施年度である2023年度に日本語での報告をまとめ、翌2024年度に英語での報告をまとめることとしました。

「認知度」に関する設問について

中央大学におけるDE&Iの取り組みの起点は「ダイバーシティ宣言」です。この宣言は常に学内でのDE&Iの取り組みの根拠となっており、ダイバーシティセンターも宣言の精神を具現化する組織として設立されました。そこで、まず「ダイバーシティ宣言」自体について、またそれに基づく本学およびダイバーシティセンターの取り組みについて、認知度を広く学内構成員に聞くことにしました。

「ダイバーシティ宣言」および関連する取り組みの認知度から、ダイバーシティセンターの啓発・情報発信がどの程度学内に届いているか、または届いていないのかを知ることができると考えました。

「環境に対する意識」に関する設問について

ダイバーシティ宣言や関連する取り組みの認知度に加えて、本学の環境が構成員からどのような場所として捉えられているかも重要だと考えました。ダイバーシティ宣言の根幹にあるのは環境整備の推進であり、その実現のためには、現在の環境が構成員にどう意識されているかを知る必要があるのです。

具体的な設問としては、本学の環境に対する構成員の意識について、ダイバーシティセンターの活動領域と関連させて、「障害」「ジェンダー、セクシュアリティ」「グローバル、多文化共生」の三つの観点から尋ねました。これによって、構成員が本学の環境をどう受け止め、どのような問題意識を持っているかを把握することができると考えました。

なお、認知度と意識を尋ねた後に、自由記述の設問を設けました。それによって、DE&Iの取り組みへの認識や、大学の環境をどのように経験しているのかについて、より具体的な情報を集めることを目的としています。

「属性」に関する設問について

DE&Iの取り組みにおいて、同じ組織内の構成員であっても、その人の立場や属性などの背景によって、組織内での経験が異なるという前提があります。実際、ダイバーシティセンターでさまざまな取り組みを続ける中で、取り組みへの認知度や学内環境への意識がその人の背景によって異なる傾向が見られました。

細かいニーズを把握する調査設計は断念したものの、認知度や環境への意識が実際に属性や背景によって異なるのか、また異なるとしたらどのように異なるのかを計量的に把握できれば、ダイバーシティセンターの活動方針を検討する上でも、結果を学内に共有し啓発する上でも有意義だと考え、本調査では、属性についてもある程度詳細に尋ねることにしました。

ただし、属性や背景についての設問は、見えにくい存在や聞こえにくい意見を可視化する可能性がある一方で、

回答をする人に不安を生み、負担を感じさせる恐れもあります。現状では、少数派の属性の構成員について「そうした人は学内に本当に存在するのか」という疑問の声をぶつけられることさえあります。個別の属性を尋ねられることへの忌避感が生じたり、それによって回答をしてもらえなかったり、実態と異なる回答がなされたりする可能性への懸念を踏まえて、属性の尋ね方については何度も検討を重ねました。最終的に本調査では、調査への協力自体が任意であることはもちろん、冒頭の説明で属性について尋ねることを明示し、答えたくない質問には答えなくてよいことを繰り返し記載しました（必須項目は学生か教職員かを確認するのみとなっています）。

さらに、属性について聞く際は、そのテーマごとに毎回、「あなたの属性や所属などについて伺いますが、ここまでの問いと同様に、答えたくない、わかりづらい質問は飛ばして問題ありません。」というメッセージを加えました。

最後に、属性に関する質問の後にもう一度自由記述欄を設け、アンケート自体や大学の取り組み全体に関するコメントをもらう機会としました。

このように、本調査は「ダイバーシティに関連する学内の取り組みに関する認知度を把握する」「ダイバーシティに関連する学内環境に対する意識を把握する」ことを目指し、さらにそうした認知度と意識において回答者の属性による差異があるのか、もしあるならどのような差異なのかを知ることを目的に設計しました。

方法

本調査は、2023 年 10 月 1 日から 10 月 31 日にかけて、インターネット上のアンケートフォームを利用して実施しました。対象は中央大学に所属する学生（院生、留学生含む）および教職員です。使用言語は日本語および英語とし、調査票は日英併記にしました。

* 本学には附属校が 4 校あり、中央大学の教職員が勤務していることから、附属校の生徒は対象としないものの、教職員は対象に含めました。そのため、問 11 の選択肢は「学校法人中央大学の教職員」としています。

アンケートフォーム（調査票）は以下の方法で配布しました。

- 学内各所に本調査のポスターを掲示
- 学内各所に本調査のチラシを設置
- ダイバーシティセンターのサイトに調査ページを作成
- ダイバーシティセンターのメーリングリスト（過去にダイバーシティセンターのイベント等に参加し、メーリングリストに追加を了承した人のメールアドレスが登録されている）に本調査に関する情報を送付
- ダイバーシティセンターの障害学生支援のアルバイトに登録している学生（SA）のメーリングリストに本調査に関する情報を送付
- ダイバーシティセンターの推進委員、運営委員、部会員のメーリングリストに本調査に関する情報を送付
- 学内システム（Cplus、manaba）に本調査に関する情報を掲載
- SNS（X、Instagram）に投稿
- ダイバーシティセンター職員による校内でのチラシの配布（手渡し）
- 教授会等に対して本調査の周知を依頼
- 各部課室にチラシを送付
- 事務イントラネットに掲載

配布の際は、本調査が任意であり、強制ではないことを伝えた上で協力を呼びかけました。教職員に周知への協力を依頼する場合も、回答が任意であることをあわせて周知してもらうよう伝えました。なお、チラシ等を配布する場合はアンケートフォームの URL を QR コードの形で記載し、メールやサイト等の電子媒体の場合は直接アンケートフォームの URL を記載しました。

回収状況

本調査には、1,800 件の回答が集まりました。学生が1,414 件、教職員が386 件でした。回収率は全体で5.1%、学生が4.4%、教職員が10.2% でした。回答数は学生の方が多いですが、回収率は教職員の方が高い結果でした。上述のように、本調査は任意の協力により回答を集めたものであり、本調査で得られた結果は中央大学の構成員全体に一般化できるものではありません。回答のさらに詳しい属性については、問 11 ～問 19 の結果をご覧ください。

	学生数／教職員数	回答数	回収率
全体	35,523	1,800	5.1%
学生	31,869	1,414	4.5%
教職員	3,784	386	10.2%

*本調査では、問 12b で教職員の分類として「派遣・委託業者の職員」を含めているように、中央大学に直接雇用されている職員だけでなく、広く「学内で働いている人」を対象としました。そのため、正確な教職員の母数の計算が困難であり、その結果、回収率を過剰に計上している可能性もあります（母数を実際よりも小さく計上している可能性がある）。

参考資料：

中央大学（2023）「学部在籍学生数（2023 年 5 月 1 日現在）」

（最終閲覧 2024 年 2 月 1 日：https://www.chuo-u.ac.jp/uploads/2023/05/aboutus_overview_head_count_head_count01_2023.pdf?1703482678476）

中央大学（2023）「大学院在籍学生数（2023 年 5 月 1 日現在）」

（最終閲覧 2024 年 2 月 1 日：https://www.chuo-u.ac.jp/uploads/2023/05/aboutus_overview_head_count_head_count02_2023.pdf?1703482877453）

中央大学（2023）「専門職大学院在籍学生数（2023 年 5 月 1 日現在）」

（最終閲覧 2024 年 2 月 1 日：https://www.chuo-u.ac.jp/uploads/2023/05/aboutus_overview_head_count_head_count03_2023.pdf?1703483495355）

中央大学（2023）「法学部通信教育課程在籍学生数（2023 年 5 月 1 日現在）」

（最終閲覧 2024 年 2 月 1 日：https://www.chuo-u.ac.jp/uploads/2023/05/aboutus_overview_head_count_head_count04_2023.pdf?1703483552400）

中央大学（2023）「教職員数（2023 年 5 月 1 日現在）」

（最終閲覧 2024 年 2 月 1 日：https://www.chuo-u.ac.jp/uploads/2023/06/aboutus_overview_head_count_head_count06_01.pdf?1703483616745）

中央大学（2023）「大学基礎データ（2023 年 5 月 1 日現在）」

（最終閲覧 2024 年 2 月 1 日：https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/overview/evaluation/result/2023basic_data/）

中央大学（2023）「外国人留学生数（2023 年 5 月 1 日現在）」（国際センター提供）

項目の統合

本報告書では、視認性に鑑み、属性による集計結果（クロス集計）では以下のように各問の項目を統合しました。
また、統合していない項目も表記を一部編集しています。

■ 学年

質問番号	質問紙の選択肢	統合後の選択肢
問 12a	学部 1 年生／ First-year undergraduate student	1 年生
〃	学部 2 年生／ Second-year undergraduate student	2 年生
〃	学部 3 年生／ Third-year undergraduate student	3 年生
〃	学部 4 年生以上／ Fourth-year or above undergraduate student	4 年生以上
〃	博士前期課程 1 年生／ First-year masters student	大学院生
〃	博士前期課程 2 年生以上／ Second-year or above masters student	
〃	博士後期課程 1 年生／ First-year doctoral student	
〃	博士後期課程 2 年生／ Second-year doctoral student	
〃	博士後期課程 3 年生以上／ Third-year or above doctoral student	

■ 学部・研究科

質問番号	元の選択肢	統合後の選択肢
問 13a1	法学部 Faculty of Law	法
問 13a2	法学研究科／ Graduate School of Law	
問 13a1	経済学部 Faculty of Economics	経済
問 13a2	経済学研究科／ Graduate School of Economics	
問 13a1	商学部 Faculty of Commerce	商
問 13a2	商学研究科／ Graduate School of Commerce	
問 13a1	理工学部 Faculty of Science and Engineering	理工
問 13a2	理工学研究科／ Graduate School of Technology and Science	
問 13a1	文学部 Faculty of Letters	文
問 13a2	文学研究科／ Graduate School of Letters	
問 13a1	総合政策学部 Faculty of Policy Studies	総政
問 13a2	総合政策研究科／ Graduate School of Policy Studies	
問 13a1	国際経営学部 Faculty of Global Management	国経
問 13a1	国際情報学部 Faculty of Global Informatics	国情
問 13a2	国際情報研究科／ Graduate School of Global Informatics	
問 13a1	法学部通信教育課程 Distance Learning Division, Faculty of Law	通教

問 13a2	ロースクール／ Law School (Chuo Law School)	専門職
問 13a2	ビジネススクール／ Business School (Chuo Graduate School of Strategic Management)	

■ 学内の立場

質問番号	元の選択肢	統合後の選択肢
問 12b	専任教員・専任研究員（無期雇用）／ Full-time faculty (permanent)	無期専任教員
〃	専任教員・専任研究員（有期雇用）／ Full-time faculty (limited term)	有期・兼任教員
〃	兼任講師（客員教員含む）／ Part-time faculty	
〃	専任職員／ Full-time administrative staff employed by Chuo University (permanent)	専任職員
〃	専任以外の職員（中央大学に直接雇用されている職員：室員・嘱託職員・パートタイム職員・教育技術員等）／ Other types of administrative staff employed by Chuo University (e.g. contract staff, part-time staff, educational engineers)	非専任職員
〃	派遣・委託業者の職員／ Dispatch and outsourced staff	
〃	その他／ Other	（省略）

■ 年齢

質問番号	元の選択肢	統合の選択肢
問 14b	19 歳以下／ 19 years old and under	20 代以下
〃	20-24 歳／ 20-24 years old	
〃	25-29 歳／ 25-29 years old	
〃	30-34 歳／ 30-34 years old	30 代
〃	35-39 歳／ 35-39 years old	
〃	40-44 歳／ 40-44 years old	40 代
〃	45-49 歳／ 45-49 years old	
〃	50-54 歳／ 50-54 years old	50 代
〃	55-59 歳／ 55-59 years old	
〃	60-64 歳／ 60-64 years old	60 代以上
〃	65 歳以上／ 65 years old and above	

■ 障害

質問番号	元の選択肢	統合後の選択肢
問 19	障害・慢性疾患はない／ No. I don't have a disability or chronic illness.	障害ない

E-mail：dc-soudan-grp[アット]g.chuo-u.ac.jp※[アット]を@に置き換えてください-

//	身体障害がある／ Yes. I have a physical disability.	障害ある
//	発達障害がある／ Yes. I have a developmental disability.	
//	知的障害がある／ Yes. I have an intellectual disability.	
//	精神障害がある／ Yes. I have a mental disability.	
//	慢性疾患がある／ Yes. I have a chronic illness.	
//	その他	その他

性別

問 15 および問 16 は、二問で性別を尋ねる質問になっています。回答のパターンにより項目をラベル付けし集計しました。回答のパターンは以下をご覧ください。

＊問 15、問 16 を片方のみ回答していた場合は、本報告書では両方の質問に「無回答」だったものとして集計しました

■ 質問票

問 15 あなたの今の認識にもっとも近い性別を選んでください。

Please select the gender that most closely matches your current perception.

男性／ male

女性／ female

男性・女性に当てはまらない／ neither male or female

問 16 あなたは今の自分の性別を、出生時に判断された性別と同じだと思いますか。

Do you consider your current gender to be the same as the gender you were determined to be at birth?

同じだと思う／ I think it is the same.

同じだと思わない／ I don't think it is the same.

■ 回答のパターン

問 15	問 16	ラベル名
男性／ male	同じだと思う／ I think it is the same.	シスジェンダー男性
男性／ male	同じだと思わない／ I don't think it is the same.	非シスジェンダー
女性／ female	同じだと思う／ I think it is the same.	シスジェンダー女性
女性／ female	同じだと思わない／ I don't think it is the same.	非シスジェンダー
男性・女性に当てはまらない／ neither male or female	同じだと思う／ I think it is the same.	非シスジェンダー
男性・女性に当てはまらない／ neither male or female	同じだと思わない／ I don't think it is the same.	非シスジェンダー

＊シスジェンダーとは、自分の性別の認識(性自認)が出生時に割り当てられた性別と一致している人のことです。したがって、上記のシスジェンダー男性／女性とは、出生時に男性／女性として登録され、自分の性別をそれと同じだと感じている人を指します。非シスジェンダーはシスジェンダーではない人という意味で本報告書では使っていますが、そのあり方は割り当てられた性別と異なる性別で生きている人や、性自認が男女どちらかではない人など、とても多様です。なお、属性による集計結果(クロス集計)では、シスジェンダー男性を「シス男性」、シスジェンダー女性を「シス女性」、非シスジェンダーを「非シス」と省略しています。

自由記述の選定

問 9 および問 20 は自由記述の項目です。本報告書における自由記述欄の回答の掲載に当たっては、本調査のワーキンググループメンバーから各部会ごとに 2 名程度を担当者として選出しました。担当者が、匿名化後の回答全体からいくつかの大きなカテゴリーを抽出した上で、各カテゴリーを代表するコメントを選定しました。その結果をワーキンググループが確認し、承認した上で、掲載しています。スペースの制限上、一部の回答しか掲載できないため、以下の基準で選定をいたしました。なお、記入者の匿名性を確実にし、また報告書として読みやすくするために、文章の一部で抜粋や表記の調整などの加工を行っています。

<公表記述の選定基準>

- 報告書への記載に「不可」のチェックを入れていたものは掲載対象から外す
- 類似の内容が複数ある場合、重要な意見と考えて代表的なものを取り上げる
- 本学の現状を具体的に示しており、DE&I の取り組みに資すると認められる具体的な記述を取り上げる
- 調査の目的との関連性が薄いもの、不明瞭なもの、個人の特定につながる恐れが強いものは掲載対象から外す

Ⅱ 調査の結果

結果の概要

本調査の主な結果は以下のとおりです。

■【取り組みの認知度】

- 全体的に、学生より教職員からの回答の方が本学の取り組みに対する認知度が高い傾向があった。
- 取り組みの中では、ダイバーシティセンターの認知度がもっとも高かった一方（「知らない」の割合が低い）、「学生のためのジェンダーセクシュアリティに関するハンドブック」「教職員のためのジェンダーセクシュアリティに関するガイドブック（配慮と対応）」（以下、GS ハンドガイド）に対する認知度が低かった。
- 学生の回答では、「内容含めて知っている」や「利用したことがあり、知っている」など、取り組みに対する認知度がもっとも高いと思われる選択肢は、いずれも 10% 未満だった。
- 学生の学年別にみると、学年が上がるにつれて「知らない」の割合がやや低くなる傾向がみられた（GS ハンドガイドに対する認知度を除く）。
- 学生の所属別にみると、回答数が 100 以上集まった学部研究科では総合政策学部・研究科が比較的認知度が高い傾向があった。所属による回答の傾向は質問によって大きくは変わらなかった。
- 教職員の学内の立場別にみると、無期専任教員と専任職員における認知度が高く、次に非専任職員で認知度が高い傾向がみられた。しかし、障害学生支援に関するガイドラインおよび GS ハンドガイドに関しては、無期専任教員と専任職員の次に、有期兼任教員における認知度が高かった。
- 教職員の年代別にみると、質問により傾向が異なった。ダイバーシティ宣言や障害学生支援に関するガイドライン、GS ハンドガイドに対して 20 代以下の認知度が低い傾向がある一方、ダイバーシティセンターに対しては 30 代と 60 代以上の認知度がやや低かった（20 代以下は回答数が少なかったことに留意する必要がある）。
- 性別でみると、学生の回答では、非シスジェンダーにおける認知度がもっとも高く、次にシスジェンダー女性が高いという傾向がみられた。教職員ではこのような傾向はみられなかった（教職員の回答では非シスジェンダーの回答数が少なかった）。
- 性的指向別にみると、学生の回答では、おおむね異性愛者の認知度がやや低い傾向がみられた（教職員については異性愛者以外の回答が少ないため傾向が確認できなかった）。
- 外国ルーツの有無で比べると、学生の回答では両者の差はみられなかった。教職員の回答では、質問によって傾向が異なり、外国ルーツがある場合の方が認知度はやや高いこともあれば、低いこともあった。
- 障害の有無で比べると、学生教職員ともに障害がある場合で認知度が高い傾向がみられた。

■【学内環境への意識】

- 学生の回答、教職員の回答どちらも DE&I に関連する学内環境（以下、学内環境）について肯定的な回答の方が多く、約 6 割から 8 割程度だった。
- 障害のある方が不自由なく学ぶ／働くことができる環境だと思うか否か（以下、障害に関連する環境への意識）については、6 割程度が肯定的な回答をしており、学生と教職員で回答の傾向に差はなかった。
- 性別や性のあり方に関係なく安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか否か（以下、性に関連する環境への意識）については、学生の 8 割程度、教職員の 7 割程度が肯定的な回答をしていた。
- 外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか否か（以下、外国ルーツに関連する環境への意識）については、学生の 8 割程度、教職員の 7 割程度が肯定的な回答をしていた。
- 学生の学年別にみると、障害に関連する環境への意識については差がなかったが、性および外国ルーツに関連する環境への意識は、学年が低い方が肯定的な回答がやや多かった。
- 学生の所属別にみると、障害に関連する環境への意識は回答に差があり、肯定的な回答が 4 割から 7 割まで幅があった。性および外国ルーツに関連する環境への意識は、障害に比べると所属による差が小さかった。
- 教職員の学内の立場別にみると、有期兼任教員で肯定的な回答が多い傾向があり、他よりも 10 ポイントほどの差があった。
- 教職員の年代別にみると、DE&I に関連する学内環境への意識は 40 代で肯定的な回答がやや低い傾向があった。また、障害に関連する環境への意識は肯定的な回答が 20 代以下でやや多く、60 代以上（と 40 代）でやや少なかった。性および外国ルーツに関連する環境への意識は、障害に比べると年代による差が小さかった。
- 性別でみると、学生の回答では、シスジェンダーの男性と女性の差は小さい一方で、非シスジェンダーにおける肯定的な回答の割合が 10 ～ 25 ポイントほど低かった。教職員の回答では、シスジェンダーの男性より女性の方が肯定的な回答の割合がやや低かった（教職員の回答では非シスジェンダーの回答数が少なかった）。
- 性的指向別にみると、学生の回答では、おおむね異性愛者における肯定的な回答が多い傾向がみられたが、障害および外国ルーツに関連する環境への意識に比べて、性に関連する環境への意識で差が大きかった。性に関しては、異性愛者における肯定的な回答の割合が 10 ～ 20 ポイントほど高かった（教職員については異性愛者以外の回答が少ないため傾向が確認できなかった）。
- 外国ルーツの有無で比べると、学生の回答では、外国ルーツに関連する環境への意識について外国ルーツがない回答の方が肯定的な回答がやや多かった。教職員の回答では、外国ルーツがある回答の方が、障害および性に関連する環境への意識について肯定的な回答が多かったが、外国ルーツに関連する環境への意識については回答の傾向に差がなかった。
- 障害の有無で比べると、学生の回答では、障害に関連する環境への意識については回答の傾向に差がなかった。性および外国ルーツに関連する環境への意識については、障害がない回答の方が肯定的な回答がやや少なかった。教職員の回答では、障害の有無による回答の傾向に差がなかった。

取り組みの認知度 | 「ダイバーシティ宣言」の認知度 (問 1)

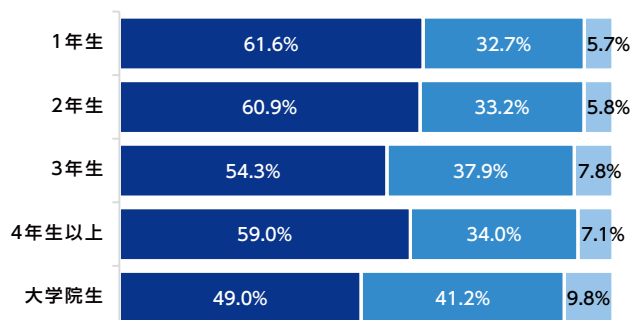
Question

01

あなたは中央大学の「ダイバーシティ宣言」を知っていますか。

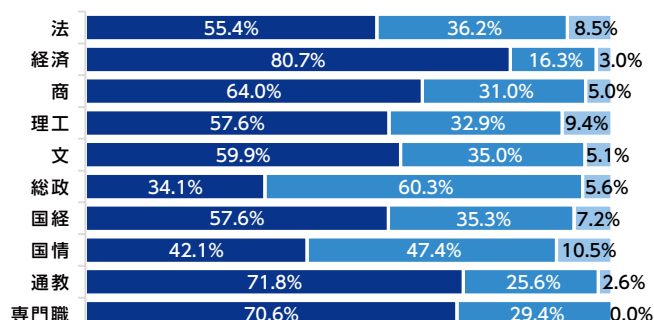
知らない	59.30%
内容は知らないが、あることは知っている	34.30%
内容含めて知っている	6.50% (n=1,409)

学年別、学生の認知度 (宣言)



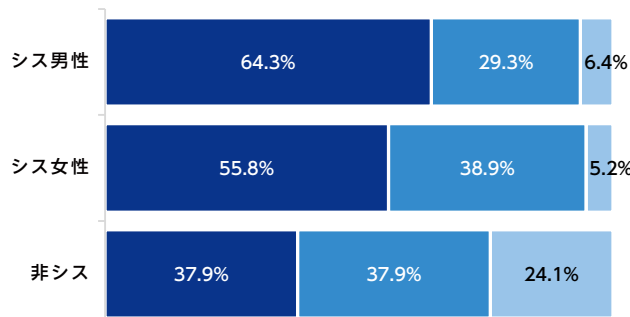
1年生 (n=557)、2年生 (n=343)、3年生 (n=282)、4年生以上 (n=156)、大学院生 (n=51)

学部・研究科別、学生の認知度 (宣言)



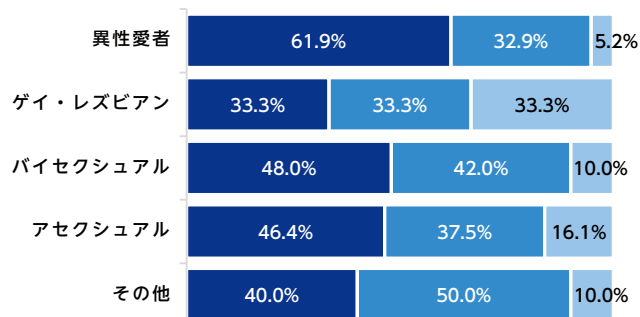
法 (n=426)、経済 (n=202)、商 (n=100)、理工 (n=170)、文 (n=137)、総政 (n=126)、国経 (n=139)、国情 (n=19)、通教 (n=39)、専門職 (n=17)

性別、学生の認知度 (宣言)



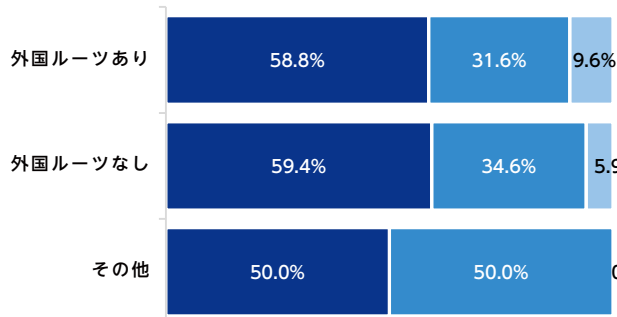
シス男性 (n=689)、シス女性 (n=668)、非シス (n=29)

性的指向別、学生の認知度 (宣言)



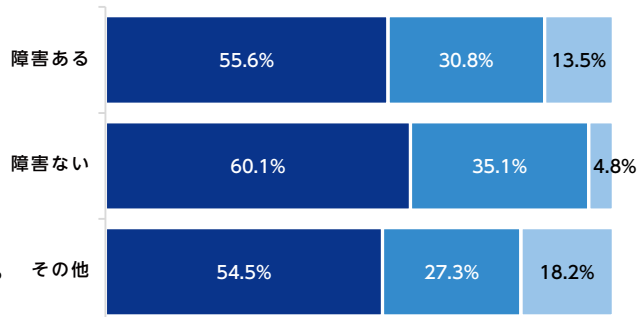
異性愛者 (n=1,053)、ゲイ・レズビアン (n=18)、バイセクシュアル (n=100)、アセクシュアル (n=56)、その他 (n=20)

外国ルーツの有無と学生の認知度 (宣言)



外国ルーツあり (n=187)、外国ルーツなし (n=1,196)、その他 (n=6)

障害の有無と学生の認知度 (宣言)



障害ある (n=133)、障害ない (n=1,057)、その他 (n=22)

全体の集計結果

問1は中央大学が公表している「ダイバーシティ宣言」を知っているかどうかを尋ねました（学生）。「知らない」の割合がもっとも高く、59.3%でした。「内容は知らないが、あることは知っている」は34.3%で、「内容含めて知っている」は6.5%でした。「内容は知らないが、あることは知っている」と「内容含めて知っている」を合わせても5割を超えない結果でした。

属性による集計結果

■ 学年別による集計結果

3年生と大学院生が「知らない」の割合が低く、他の学年と比べると3年生で5ポイント前後、大学院生で11ポイント前後低いです。1年生、2年生よりも3年生、4年生以上、大学院生のほうが「知らない」の割合が低い傾向がありました。大学院生は「内容含めて知っている」が他と比べて3ポイント前後高いです。

学部・研究科別による集計結果

総政で「知らない」の割合が34.1%だった一方で、経済80.7%で差がありました。「内容は知らないが、あることは知っている」は総政が60.3%でもっとも割合が高く、それ以外では国情で47.4%、法、文、国経で35%前後と比較的高いです。「内容含めて知っている」の割合が高いのは国情で10.5%、理工、法で9%前後でした。

■ 性別による集計結果

非シスジェンダーで「知らない」の割合は37.9%、シスジェンダーの女性では55.8%、男性では64.3%と差がありました。非シスジェンダーで「内容含めて知っている」が24.1%で、シスジェンダーの男性と女性と比べて、18ポイント前後高いです。

■ 性的指向別による集計結果

ゲイ・レズビアンで「知らない」の割合は33.3%、アセクシュアルで46.4%、バイセクシュアルで48.0%、異性愛者で61.9%と差がありました。ゲイ・レズビアンで「内容含めて知っている」が33.3%で、他と比べて17ポイント以上高いですが、回答数が少ないため留意が必要です。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、「知らない」の割合に差はほとんどなく、外国ルーツがある回答は「内容は知らないが、あることは知っている」が3ポイント高く、「内容含めて知っている」が4ポイントほど高いです。外国ルーツの有無による回答の傾向に大きな差はみられません。

■ 障害の有無による集計結果

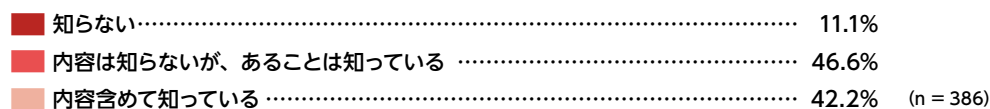
障害の有無で比較すると、障害があるという回答では「知らない」の割合が5ポイントほど低いです。「内容は知らないが、あることは知っている」の割合は4ポイントほど低く、「内容含めて知っている」が9ポイントほど高いです。

取り組みの認知度 | 「ダイバーシティ宣言」の認知度 (問 1)

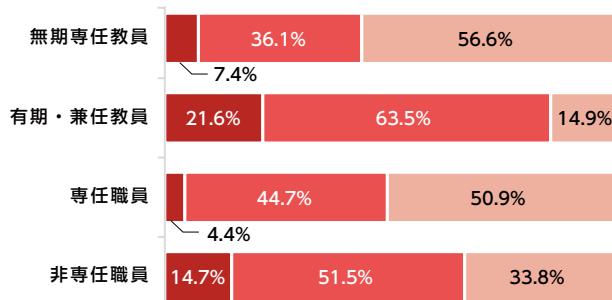
Question

あなたは中央大学の「ダイバーシティ宣言」を知っていますか。

01

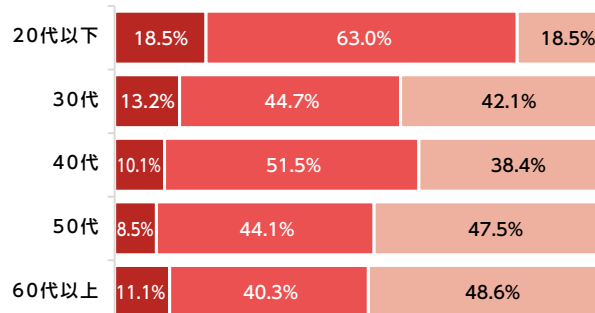


学内の立場別、教職員の認知度 (宣言)



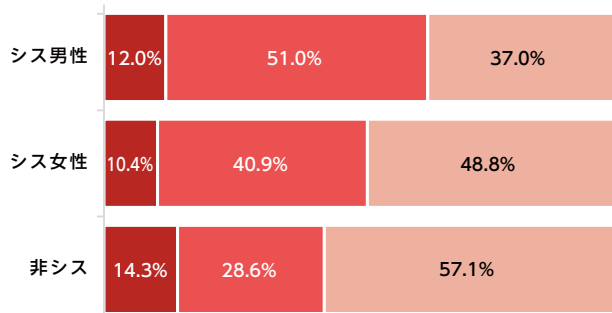
無期専任教員 (n=122)、有期・兼任教員 (n=74)、専任職員 (n=114)、非専任職員 (n=68)

年齢別、教職員の認知度 (宣言)



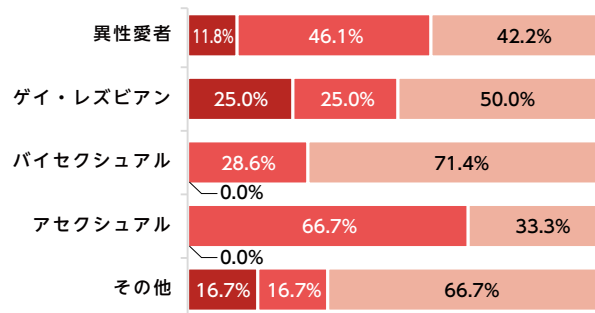
20代以下 (n=27)、30代 (n=38)、40代 (n=99)、50代 (n=118)、60代以上 (n=72)

性別、教職員の認知度 (宣言)



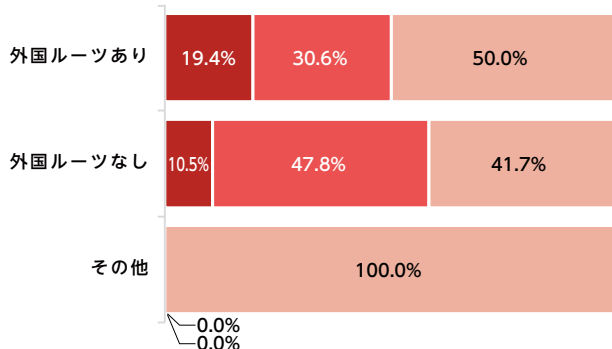
シス男性 (n=200)、シス女性 (n=164)、非シス (n=7)

性的指向別、教職員の認知度 (宣言)



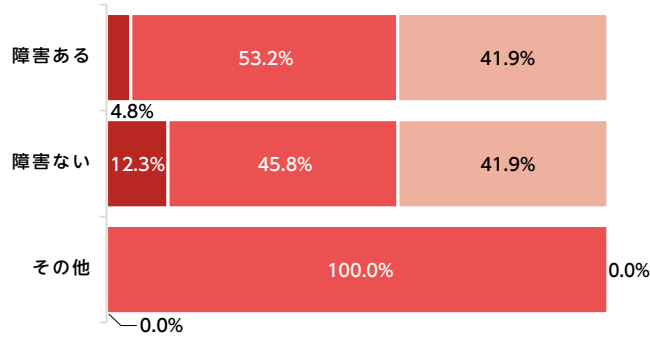
異性愛者 (n=306)、ゲイ・レズビアン (n=4)、バイセクシュアル (n=7)、アセクシュアル (n=3)、その他 (n=6)

外国ルーツの有無と教職員の認知度 (宣言)



外国ルーツあり (n=36)、外国ルーツなし (n=343)、その他 (n=1)

障害の有無と教職員の認知度 (宣言)



障害ある (n=62)、障害ない (n=277)、その他 (n=2)

全体の集計結果

問1は中央大学が公表している「ダイバーシティ宣言」を知っているかどうかを尋ねました（教職員）。「内容は知らないが、あることは知っている」の割合がもっとも高く、46.6%でした。「内容含めて知っている」は42.2%で、「知らない」は11.1%でした。「内容は知らないが、あることは知っている」と「内容含めて知っている」を合わせると9割弱でした。

属性による集計結果

■ 学内の立場別による集計結果

無期専任教員と専任職員では「知らない」の割合が5%前後でしたが、有期・兼任教員で21.6%、非専任職員で14.7%と差がありました。無期専任教員と専任職員では「内容含めて知っている」がもっとも高く50%台でしたが、有期・兼任教員と非専任職員では「内容は知らないが、あることは知っている」がもっとも高く50%以上でした。

■ 年齢別による集計結果

20代以下では「知らない」の割合が18.5%で、他の年代と比べて5ポイントから10ポイントほど高いですが、回答数が少ないため留意が必要です。50代で「知らない」の割合がもっとも低く8.5%でした。「内容含めて知っている」はおおむね40%弱から50%弱でしたが、20代では18.5%と差がありました。

■ 性別による集計結果

「知らない」の割合はおおむね10%台前半で顕著な差はみられませんでした。「内容含めて知っている」は非シスジェンダーがもっとも高く57.1%で、シス女性と約8ポイント、シス男性と約20ポイントの差がありましたが、非シスジェンダーの回答数が少ないため留意が必要です。シス男性では「内容は知らないが、あることは知っている」がもっとも高く、他のカテゴリーでは「内容含めて知っている」がもっとも高いです。

■ 性的指向別による集計結果

異性愛者以外の回答が少ないため傾向を確認することが困難ですが、ゲイ・レズビアン、バイセクシュアルで「内容含めて知っている」の割合が高く、異性愛者、アセクシュアルで「内容は知らないが、あることは知っている」が高い結果でした。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、外国ルーツがあるという回答では「知らない」の割合が約9ポイント高い結果でした。一方で外国ルーツがある回答では「内容含めて知っている」の割合が高く、外国ルーツがない回答と比べ約8ポイントの差がありました。

■ 障害の有無による集計結果

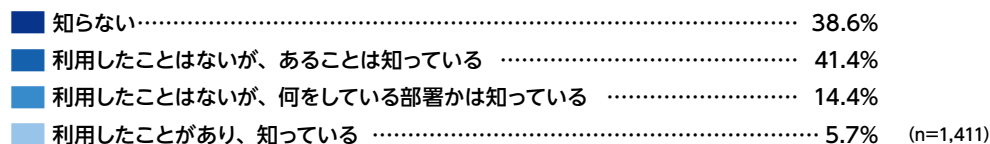
障害の有無で比較すると、障害があるという回答では「知らない」の割合が約8ポイント低い結果でした。「内容含めて知っている」には差はありませんでした。

取り組みの認知度 | ダイバーシティセンターに対する認知度 (問 2)

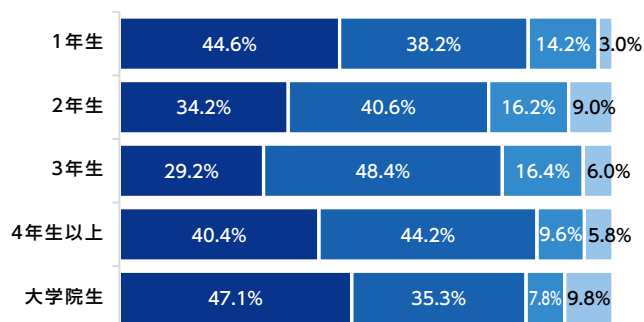
Question

02

あなたは中央大学の「ダイバーシティセンター」を知っていますか。

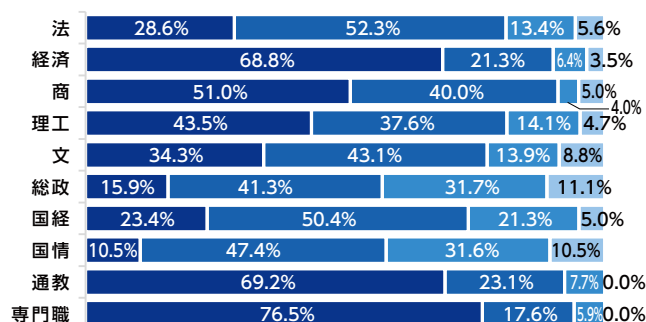


学年別、学生の認知度 (センター)



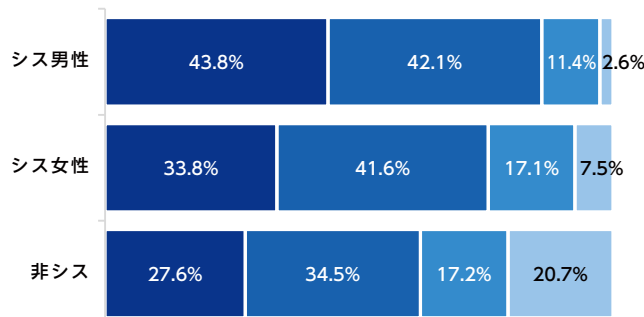
1年生 (n=558)、2年生 (n=345)、3年生 (n=281)、4年生以上 (n=156)、大学院生 (n=51)

学部・研究科別、学生の認知度 (センター)



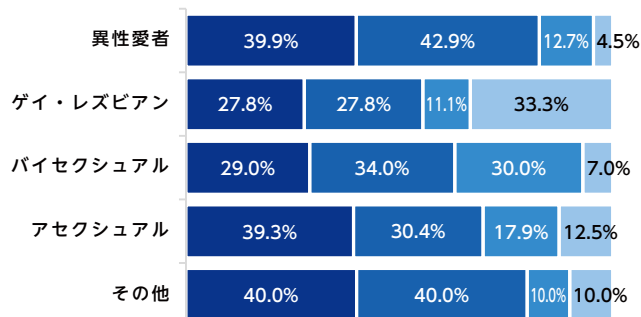
法 (n=426)、経済 (n=202)、商 (n=100)、理工 (n=170)、文 (n=137)、総政 (n=126)、国経 (n=141)、国情 (n=19)、通教 (n=39)、専門職 (n=17)

性別、学生の認知度 (センター)



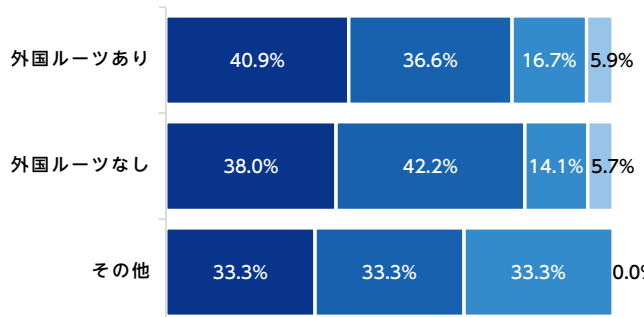
シス男性 (n=691)、シス女性 (n=668)、非シス (n=29)

性的指向別、学生の認知度 (センター)



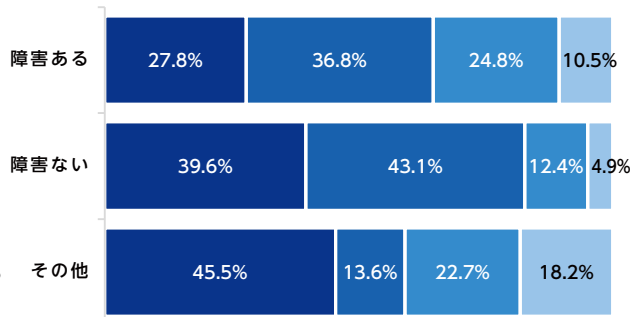
異性愛者 (n=1,054)、ゲイ・レズビアン (n=18)、バイセクシュアル (n=100)、アセクシュアル (n=56)、その他 (n=20)

外国ルーツの有無と学生の認知度 (センター)



外国ルーツあり (n=186)、外国ルーツなし (n=1,199)、その他 (n=6)

障害の有無と学生の認知度 (センター)



障害ある (n=133)、障害ない (n=1,058)、その他 (n=22)

全体の集計結果

問2は中央大学ダイバーシティセンターを知っているかどうかを尋ねました（学生）。「利用したことはないが、あることは知っている」の割合がもっとも高く、41.4%でした。「知らない」は38.6%、「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」は14.4%、「利用したことがあり、知っている」は5.7%でした。「利用したことはないが、あることは知っている」と「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」と「利用したことがあり、知っている」を合わせると6割強という結果でした。

属性による集計結果

■ 学年別による集計結果

1年生から学年が上がるにしたがって「知らない」の割合が低くなる傾向が見られましたが、4年生以上と大学院生では「知らない」の割合が高いです。「利用したことはないが、あることは知っている」で、1年生と2年生よりも3年生と4年生で割合が高くなる一方、大学院生でもっとも割合が低いです。「利用したことがあり、知っている」はもっとも高い大学院生で9.8%、もっとも低い1年生で3.0%と全学年で10%を超えませんでした。

■ 学部・研究科別による集計結果

総政で「知らない」の割合が15.9%だった一方で、専門職で76.5%と差がありました。いずれの学部も「知らない」以外では「利用したことはないがあることは知っている」がもっとも高い傾向が見られ、法、国経、国情、文、総政で40%を超えました。総政、国情、国経で「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」の割合が20%から30%強でしたが、他は15%未満でした。総政と国情で「利用したことがあり、知っている」が10%強で、他は10%未満でした。

■ 性別による集計結果

非シスジェンダーで「知らない」の割合は27.6%、シスジェンダーの女性では33.8%、男性では43.8%と差がありました。シスジェンダー男性で「知らない」がもっとも高く、他は「利用したことはないが、あることは知っている」がもっとも高いです。「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」はいずれも10%台で顕著な差はみられませんでした。非シスジェンダーで「利用したことがあり、知っている」が20.7%で、シスジェンダーの男性より約18ポイント、シスジェンダーの女性より約13ポイント高いです。

■ 性的指向別による集計結果

異性愛者とアセクシュアルで「知らない」の割合が約40%で、他と比べて10ポイント以上高いです。ゲイ・レズビアンでは「利用したことがあり、知っている」がもっとも高く3割を超え、他の性的指向では5%弱から12%強でもっとも低い項目でした。バイセクシュアルで「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」が30.0%で、他は10%台でした。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、外国ルーツがある回答は「知らない」が約3ポイント高く、「利用したことはないが、あることは知っている」が約6ポイント低い結果でしたが、全体的には回答の傾向に大きな差はみられませんでした。

■ 障害の有無による集計結果

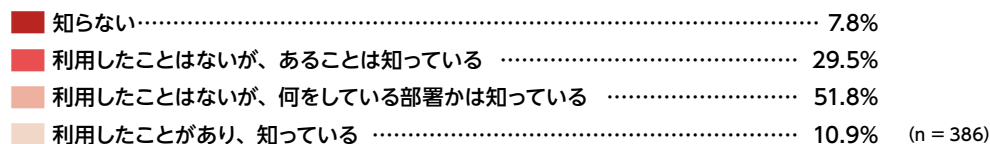
障害の有無で比較すると、障害があるという回答では「知らない」の割合が約12ポイント低いです。また障害があるという回答で「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」が約12ポイント、「利用したことがあり、知っている」が約6ポイント高いです。

取り組みの認知度 | ダイバーシティセンターに対する認知度 (問 2)

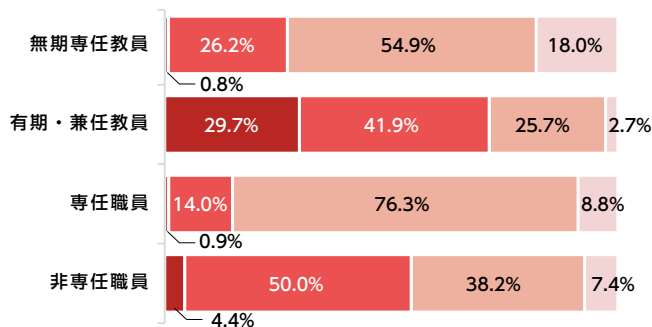
Question

02

あなたは中央大学の「ダイバーシティセンター」を知っていますか。

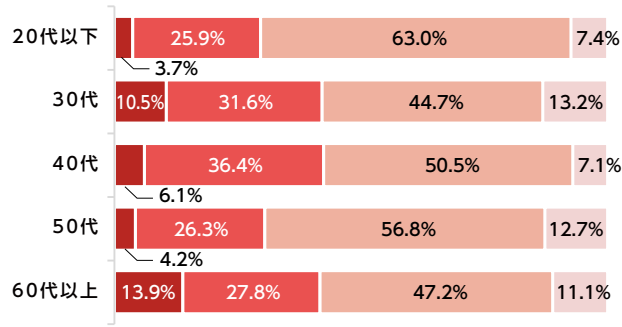


学内の立場別、教職員の認知度 (センター)



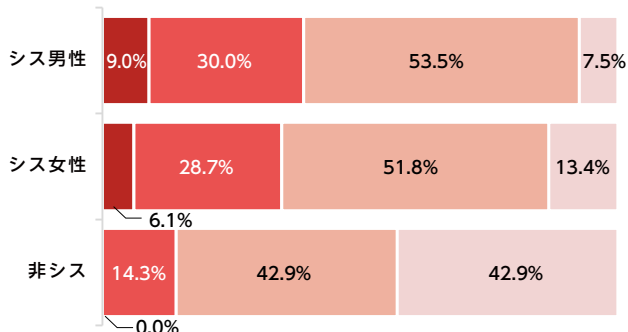
無期専任教員 (n=122)、有期・兼任教員 (n=74)、専任職員 (n=114)、非専任職員 (n=68)

年齢別、教職員の認知度 (センター)



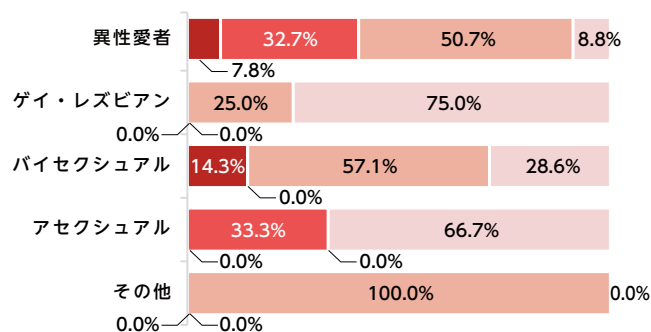
20代以下 (n=27)、30代 (n=38)、40代 (n=99)、50代 (n=118)、60代以上 (n=72)

性別、教職員の認知度 (センター)



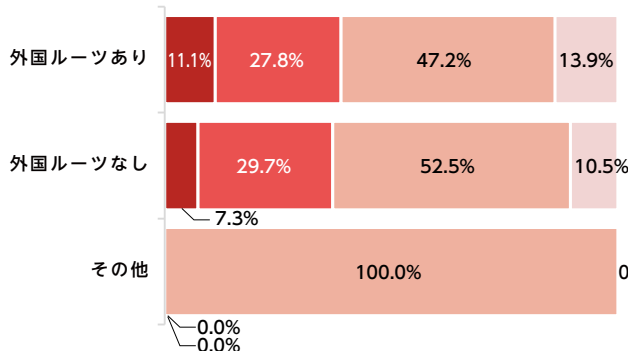
シス男性 (n=200)、シス女性 (n=164)、非シス (n=7)

性的指向別、教職員の認知度 (センター)



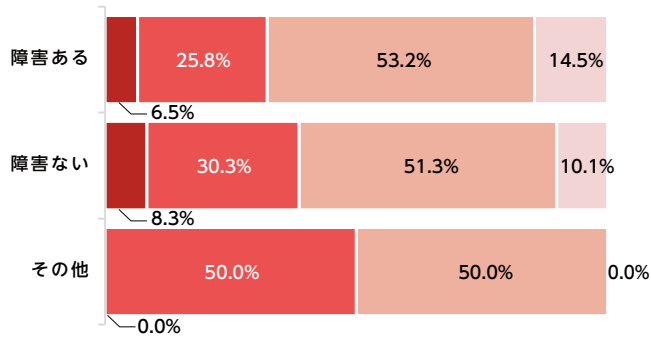
異性愛者 (n=306)、ゲイ・レズビアン (n=4)、バイセクシュアル (n=7)、アセクシュアル (n=3)、その他 (n=6)

外国ルーツの有無と教職員の認知度 (センター)



外国ルーツあり (n=36)、外国ルーツなし (n=343)、その他 (n=1)

障害の有無と教職員の認知度 (センター)



障害ある (n=62)、障害ない (n=277)、その他 (n=2)

全体の集計結果

問 2 は中央大学ダイバーシティセンターを知っているかどうかを尋ねました（教職員）。「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」の割合がもっとも高く、51.8% でした。「利用したことはないが、あることは知っている」は 29.5%、「利用したことがあり、知っている」は 10.9%、「知らない」は 7.8% でした。「利用したことはないが、あることは知っている」と「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」と「利用したことがあり、知っている」を合わせると 9 割強という結果でした。

属性による集計結果

■ 学内の立場別による集計結果

無期専任教員と専任職員、非専任職員では「知らない」の割合が 5% 未満でしたが、有期・兼任教員では 29.7% でした。無期専任教員と専任職員では「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」がもっとも高く、有期・兼任教員と非専任職員では「利用したことはないが、あることは知っている」がもっとも高いです。無期専任教員で「利用したことがあり、知っている」が 18.0% でしたが、他は 10% を超えませんでした。

■ 年齢別による集計結果

20 代以下では「知らない」の割合が 3.7% でもっとも低く、もっとも高い 60 代以上と比べて約 10 ポイントの差がありました。いずれの年代も「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」がもっとも高く、約 45% から 63% という割合でした。「利用したことがあり、知っている」は 7% から 13% 程度でした。

■ 性別による集計結果

いずれも「知らない」の割合は 10% 未満でした。いずれも「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」がもっとも高く 40% 台から 50% 台でした。非シスジェンダーでは「利用したことがあり、知っている」が 42.9% で、他と比べて 30 ポイント前後高いです。

■ 性的指向別による集計結果

異性愛者以外の回答が少ないため傾向を確認することが困難ですが、異性愛者とバイセクシュアルでは「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」の割合がもっとも高いという結果でした。ゲイ・レズビアンとアセクシュアルでは「利用したことがあり、知っている」の割合がもっとも高いです。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、外国ルーツがあるという回答では「知らない」の割合が約 4 ポイント高く、「利用したことはないが、あることは知っている」の割合は約 2 ポイント低いです。また、「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」の割合は約 5 ポイント低い結果でした。一方で外国ルーツがあるという回答では、「利用したことがあり、知っている」の割合が約 3 ポイント高いです。

■ 障害の有無による集計結果

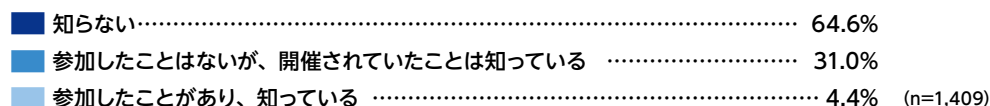
障害の有無で比較すると、障害があるという回答では「知らない」の割合が約 2 ポイント低い結果でした。障害があるという回答で「利用したことはないが、何をしている部署かは知っている」の割合が 2 ポイント高く、「利用したことがあり、知っている」の割合が約 4 ポイント高い結果でした。

取り組みの認知度 | ダイバーシティセンターのイベントに対する認知度 (問 3)

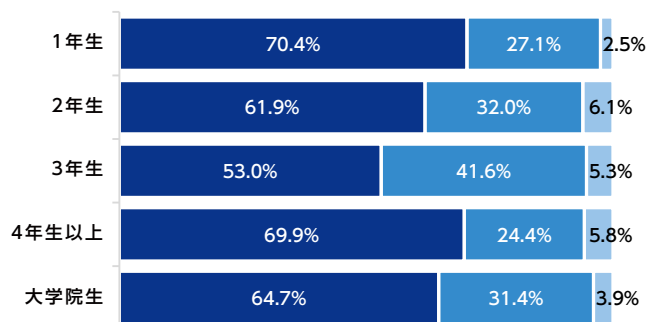
Question

03

あなたはダイバーシティセンターが開催している
イベントについて知っていますか。

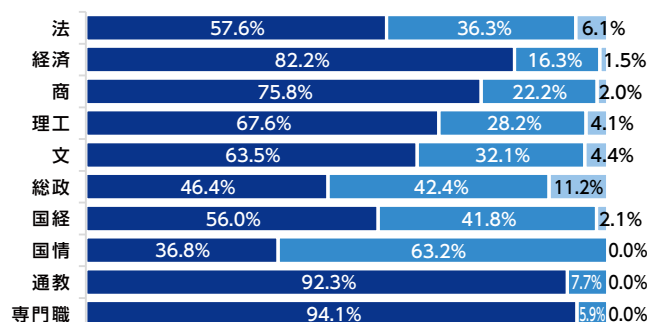


学年別、学生の認知度 (イベント)



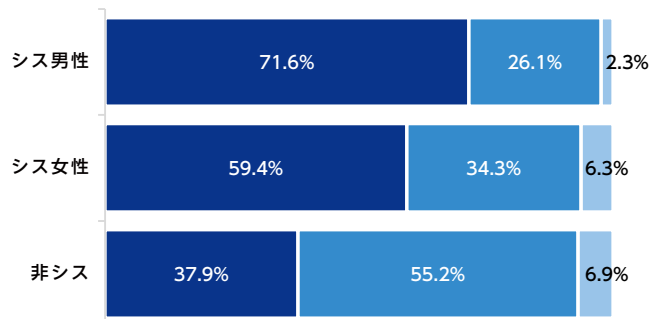
1年生 (n=558)、2年生 (n=344)、3年生 (n=281)、4年生以上 (n=156)、
大学院生 (n=51)

学部・研究科別、学生の認知度 (イベント)



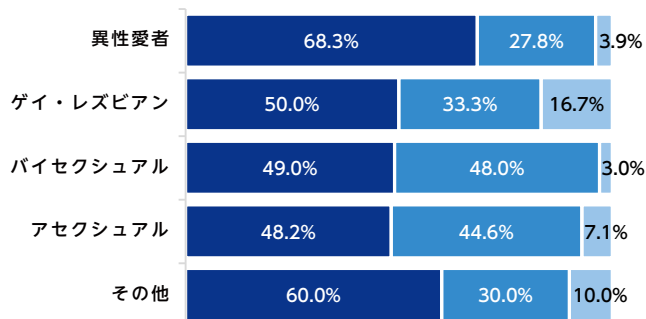
法 (n=427)、経済 (n=202)、商 (n=99)、理工 (n=170)、文 (n=137)、
総政 (n=125)、国経 (n=141)、国情 (n=19)、通教 (n=39)、専門職 (n=17)

性別、学生の認知度 (イベント)



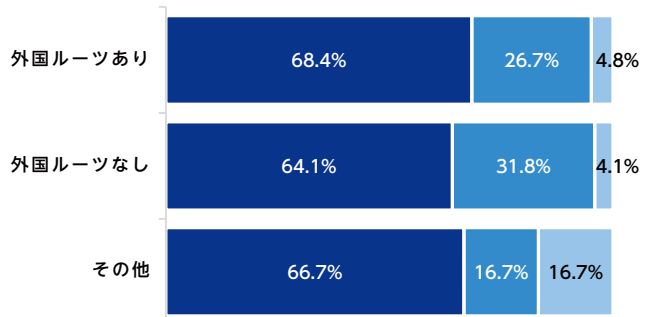
シス男性 (n=690)、シス女性 (n=667)、非シス (n=29)

性的指向別、学生の認知度 (イベント)



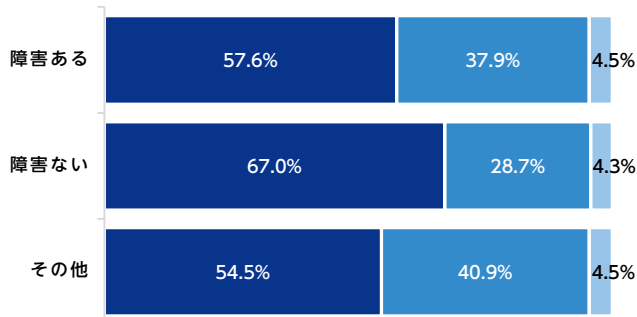
異性愛者 (n=1,052)、ゲイ・レズビアン (n=18)、バイセクシュアル (n=100)、
アセクシュアル (n=56)、その他 (n=20)

外国ルーツの有無と学生の認知度 (イベント)



外国ルーツあり (n=187)、外国ルーツなし (n=1,197)、その他 (n=6)

障害の有無と学生の認知度 (イベント)



障害ある (n=132)、障害ない (n=1,058)、その他 (n=22)

全体の集計結果

問3は中央大学ダイバーシティセンターが開催するイベントを知っているかどうかを尋ねました（学生）。「知らない」の割合がもっとも高く、64.6%でした。「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」は31.0%、「参加したことがあり、知っている」は4.4%でした。「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」と「参加したことがあり、知っている」を合わせても4割を超えないという結果でした。

属性による集計結果

■ 学年別による集計結果

1年生から3年生までは学年が上がるにしたがって「知らない」の割合が低くなる傾向がみられましたが、4年生以上と大学院生は「知らない」の割合が2年生より高いです。「参加したことがあり、知っている」は、もっとも高い2年生で6.1%、もっとも低い1年生で2.5%でした。

■ 学部・研究科別による集計結果

「知らない」の割合は、国情で36.8%、総政で46.4%、国経で56.0%、法で57.6%と比較的低く、専門職で94.1%、通教で92.3%、経済で82.2%、商で75.8%と比較的高く差がありました。「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」の割合は国情で63.2%、総政で42.4%、国経で41.8%と比較的高く、低いのは専門職で5.9%、通教で7.7%、経済で16.3%でした。「参加したことがあり、知っている」の割合は比較的高い総政で11.2%、法で6.1%でしたが、国情、通教、専門職では0.0%でした。

■ 性別による集計結果

「知らない」の割合は、非シスジェンダーで37.9%、シスジェンダーの女性で59.4%、シスジェンダーの男性で71.6%と差がありました。「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」の割合は、非シスジェンダーで55.2%、シスジェンダーの女性で34.3%、シスジェンダーの男性で26.1%でした。「知らない」の回答も合わせて、非シスジェンダー、女性、男性の順番で認知度が高いという傾向がみられました。「参加したことがあり、知っている」は非シスジェンダーとシスジェンダー女性で6%台、シスジェンダーの男性で2.3%でした。

■ 性的指向別による集計結果

「知らない」の割合は、ゲイ・レズビアン、バイセクシュアル、アセクシュアルで約50%、異性愛者で68.3%と20ポイント程度の差がありました。「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」は、バイセクシュアル、アセクシュアルで高く45%前後、異性愛者で低く27.8%でした。「参加したことがあり、知っている」は、ゲイ・レズビアンで16.7%、アセクシュアルで7.1%と比較的高く、異性愛者とバイセクシュアルで3%程度でした。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツがあるという回答で「知らない」の割合は、68.4%で、外国ルーツがないという回答と比べて約4ポイント高いです。外国ルーツがあるという回答で「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」の割合は約5ポイント低い一方で、「参加したことがあり、知っている」はほぼ差がないという結果でした。

■ 障害の有無による集計結果

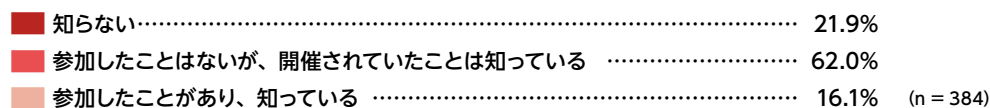
障害があるという回答で「知らない」の割合は障害がないという回答と比べて約9ポイント低いです。障害があるという回答で「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」の割合は9ポイント高く、「参加したことがあり、知っている」はほぼ差がないという結果でした。

取り組みの認知度 | ダイバーシティセンターのイベントに対する認知度 (問 3)

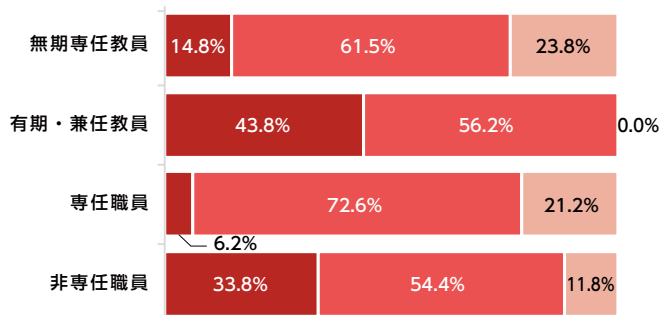
Question

03

あなたはダイバーシティセンターが開催している
イベントについて知っていますか。

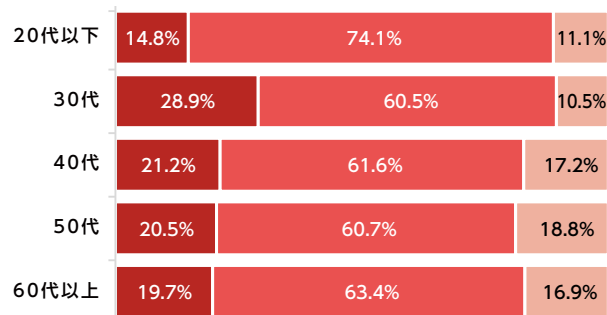


学内の立場別、教職員の認知度 (イベント)



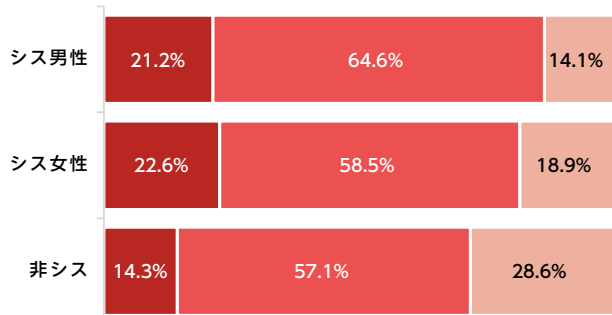
無期専任教員 (n=122)、有期・兼任教員 (n=73)、専任職員 (n=113)、
非専任職員 (n=68)

年齢別、教職員の認知度 (イベント)



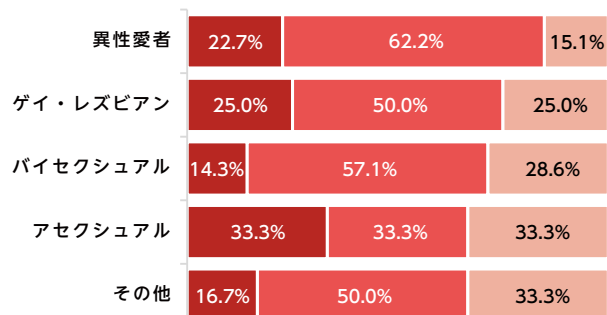
20代以下 (n=27)、30代 (n=38)、40代 (n=99)、50代 (n=117)、
60代以上 (n=71)

性別、教職員の認知度 (イベント)



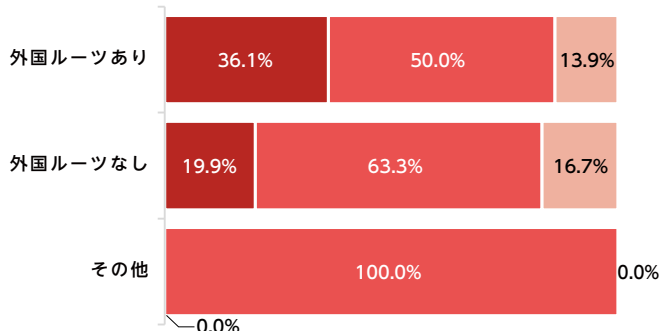
シス男性 (n=198)、シス女性 (n=164)、非シス (n=7)

性的指向別、教職員の認知度 (イベント)



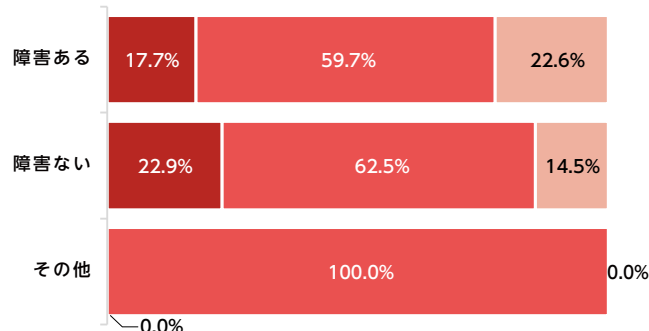
異性愛者 (n=304)、ゲイ・レズビアン (n=4)、バイセクシュアル (n=7)、
アセクシュアル (n=3)、その他 (n=6)

外国ルーツの有無と教職員の認知度 (イベント)



外国ルーツあり (n=36)、外国ルーツなし (n=341)、その他 (n=1)

障害の有無と教職員の認知度 (イベント)



障害ある (n=62)、障害ない (n=275)、その他 (n=2)

全体の集計結果

問 3 は中央大学ダイバーシティセンターが開催するイベントを知っているかどうかを尋ねました（教職員）。「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」がもっとも高く、62.0% でした。「知らない」が 21.9% で、「参加したことがあり、知っている」が 16.1% でした。「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」と「参加したことがあり、知っている」を合わせると 8 割弱という結果でした。

属性による集計結果

■ 学内の立場別による集計結果

「知らない」の割合は専任職員で 6.2%、無期専任教員で 14.8% と比較的 low、有期・兼任教員で 43.8%、非専任職員で 33.8% という結果でした。無期専任教員と専任職員では「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」の割合が 60% 台から 70% 台、有期・兼任教員と非専任職員 55% 前後でした。無期専任教員と専任職員で「参加したことがあり、知っている」が 20% 強でしたが、非専任職員で 11.8%、有期・兼任教員では 0.0% という結果でした。

■ 年齢別による集計結果

「知らない」の割合は、20 代以下で 14.8%、30 代で 28.9%、他の年代は 20% 前後でした。「参加したことはないが、知っている」は 20 代以下でもっとも高く 74.1% で、他の年代は 60% 代前半でした。「参加したことがあり、知っている」は 20 代以下と 30 代で 11% 前後、40 代、50 代、60 代以上で 17% 前後でした。

■ 性別による集計結果

非シスジェンダーで「知らない」の割合が 14.3% ともっとも低く、シスジェンダー男性と女性で 22% 前後と差がありました。「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」の割合がもっとも高いのはシスジェンダーの男性で 64.6%、他は 58% 前後でした。「参加したことがあり、知っている」は非シスジェンダーで 28.6%、シスジェンダー女性で 18.9%、シスジェンダー男性で 14.1% でした。

■ 性的指向別による集計結果

異性愛者以外の回答が少ないため傾向を確認することが困難ですが、異性愛者と比べて他の性的指向で「参加したことがあり、知っている」の割合が高いという傾向がみられました。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、外国ルーツがあるという回答では「知らない」の割合が 36.1% で、外国ルーツがないという回答と比べ約 16 ポイント高いです。外国ルーツがあるという回答で「参加したことはないが、開催されていたことは知っている」は約 13 ポイント低く、「参加したことがあり、知っている」は約 3 ポイント低いという結果でした。

■ 障害の有無による集計結果

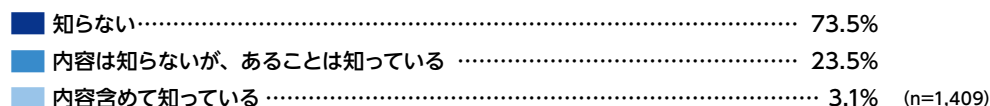
障害の有無で比較すると、障害があるという回答では「知らない」の割合が約 5 ポイント低い結果でした。「参加したことがあり、知っている」は、障害があるという回答で約 8 ポイント高い結果でした。

取り組みの認知度 | 「障害学生支援に関するガイドライン」に対する認知度 (問 4)

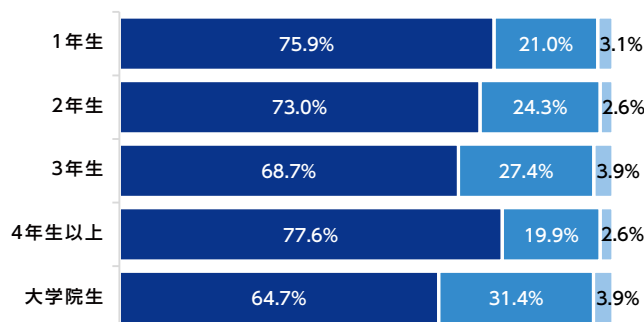
Question

04

あなたは「中央大学における障害学生支援に関するガイドライン」について知っていますか。

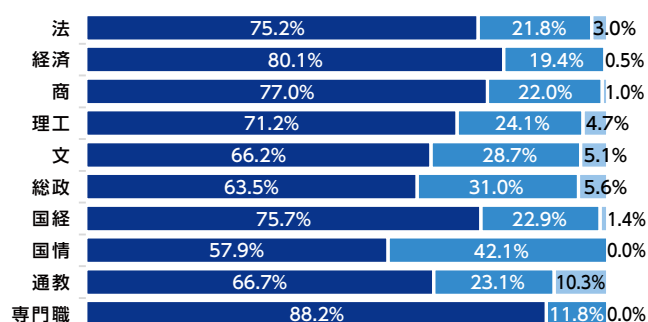


学年別、学生の認知度 (障害ガイドライン)



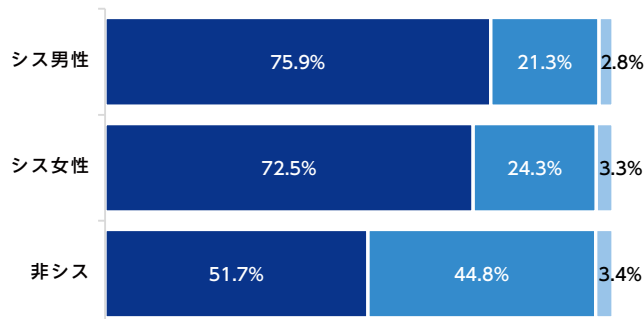
1年生 (n=556)、2年生 (n=345)、3年生 (n=281)、4年生以上 (n=156)、大学院生 (n=51)

学部・研究科別、学生の認知度 (障害ガイドライン)



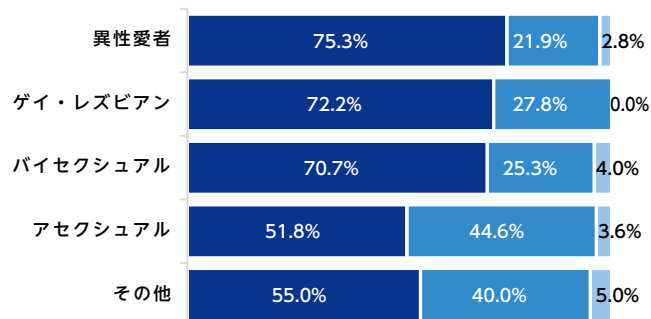
法 (n=427)、経済 (n=201)、商 (n=100)、理工 (n=170)、文 (n=136)、総政 (n=126)、国経 (n=140)、国情 (n=19)、通教 (n=39)、専門職 (n=17)

性別、学生の認知度 (障害ガイドライン)



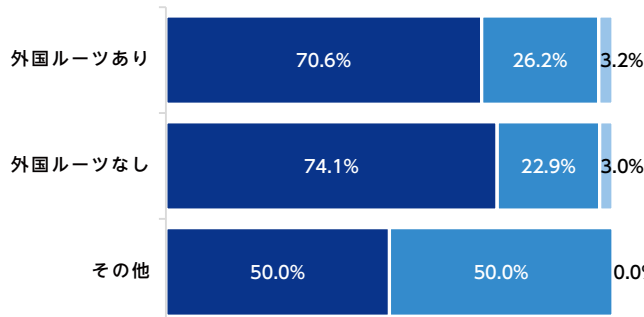
シス男性 (n=689)、シス女性 (n=668)、非シス (n=29)

性的指向別、学生の認知度 (障害ガイドライン)



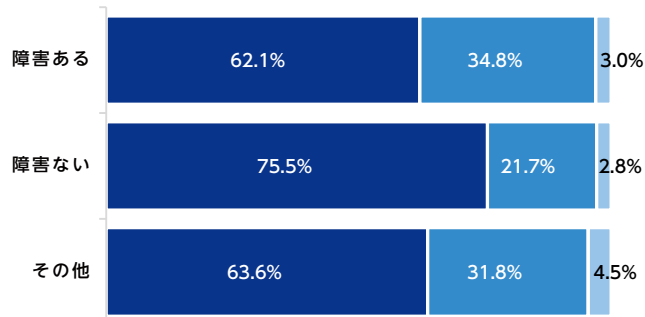
異性愛者 (n=1,054)、ゲイ・レズビアン (n=18)、バイセクシュアル (n=99)、アセクシュアル (n=56)、その他 (n=20)

外国ルーツの有無と学生の認知度 (障害ガイドライン)



外国ルーツあり (n=187)、外国ルーツなし (n=1,196)、その他 (n=6)

障害の有無と学生の認知度 (障害ガイドライン)



障害ある (n=132)、障害ない (n=1,057)、その他 (n=22)

全体の集計結果

問4は「中央大学における障害学生支援に関するガイドライン」を知っているかどうかを尋ねました（学生）。「知らない」がもっとも高く、73.5%でした。「内容は知らないが、あることは知っている」が23.5%で、内容含めて知っている」が3.1%でした。「内容は知らないが、あることは知っている」と「内容含めて知っている」を合わせても3割を超えないという結果でした。

属性による集計結果

■ 学年別による集計結果

4年生以上で「知らない」の割合が高いことを除くと、学年が上がるにしたがって低くなる傾向がみられました。「内容は知らないが、あることは知っている」は4年生以上の割合が低いですが、他は学年が上がるとうくなる傾向がみられました。「内容含めて知っている」は、全学年通じて3%前後でした。

■ 学部・研究科別による集計結果

「知らない」の割合は、国情で57.9%、総政で63.5%、文で66.2%、通教で66.7%と比較的低く、専門職で88.2%、経済で80.1%と差がありました。「内容は知らないが、あることは知っている」の割合は国情で42.1%、総政で31.0%と比較的高く、専門職で11.8%でした。「内容含めて知っている」の割合は、比較的高い通教で10.3%、総政で5.6%、文で5.1%でしたが、国情と専門職では0.0%と低い結果でした。

■ 性別による集計結果

「知らない」の割合は、非シスジェンダーで51.7%、シスジェンダーの女性と男性で70%台と20ポイント以上の差がありました。非シスジェンダーと回答した人の「内容は知らないが、あることは知っている」の割合は44.8%で、シスジェンダーの女性と男性が20%代前半だったのと比べ20ポイント以上高いです。「内容含めて知っている」はすべての性別を通じて3%前後で、あまり差がありませんでした。

■ 性的指向別による集計結果

「知らない」の割合は、もっとも低いアセクシュアルが51.8%でしたが、異性愛者、ゲイ・レズビアン、バイセクシュアルは70%台で、20ポイント程度の差がありました。「内容は知らないが、あることは知っている」の割合は、アセクシュアルでもっとも高く44.6%で、異性愛者、ゲイ・レズビアン、バイセクシュアルが20%台で20ポイント程度の差がありました。「内容含めて知っている」は、異性愛者、バイセクシュアル、アセクシュアルで3%前後、ゲイ・レズビアンで0.0%でした。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツがあるという回答で「知らない」の割合は70.6%で、外国ルーツがないという回答と比べて約4ポイント低いです。外国ルーツがあるという回答で「内容は知らないが、あることは知っている」の割合は26.2%で、外国ルーツがないという回答と比べ約3ポイント高いです。「内容含めて知っている」はいずれも約3%で差はありませんでした。

■ 障害の有無による集計結果

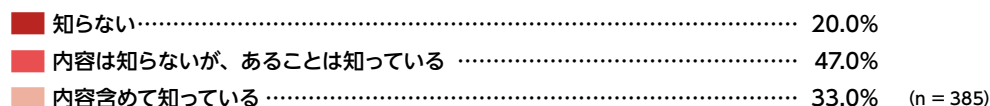
障害があるという回答で「知らない」の割合は62.1%で、障害がないという回答と比べて約13ポイント低いです。障害があるという回答で「内容は知らないが、あることは知っている」の割合は34.8%で約13ポイント高く、「内容含めて知っている」は約3%で差はありませんでした。

取り組みの認知度 | 「障害学生支援に関するガイドライン」に対する認知度 (問 4)

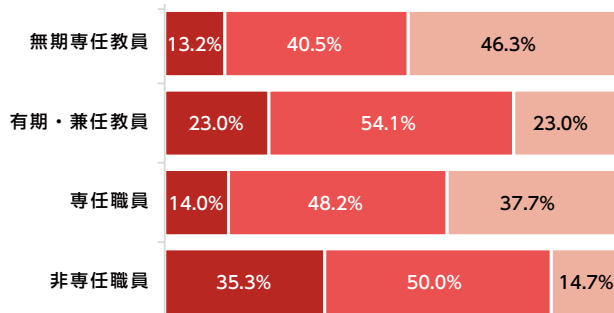
Question

04

あなたは「中央大学における障害学生支援に関するガイドライン」について知っていますか。

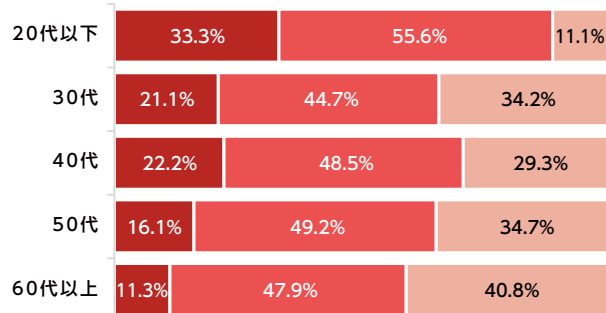


学内の立場別、教職員の認知度 (障害ガイドライン)



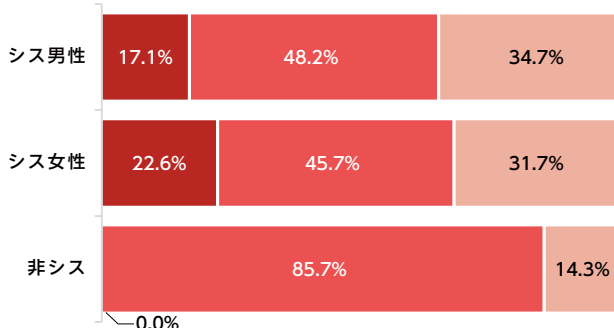
無期専任教員 (n=121)、有期・兼任教員 (n=74)、専任職員 (n=114)、非専任職員 (n=68)

年齢別、教職員の認知度 (障害ガイドライン)



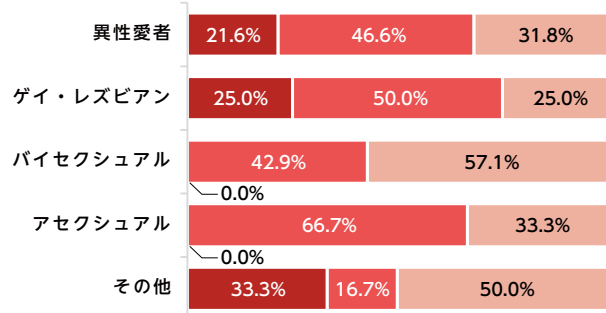
20代以下 (n=27)、30代 (n=38)、40代 (n=99)、50代 (n=118)、60代以上 (n=71)

性別、教職員の認知度 (障害ガイドライン)



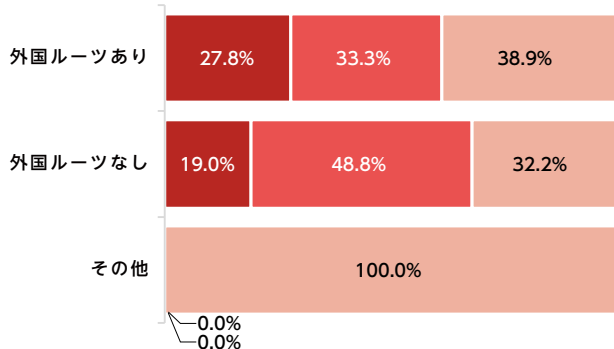
シス男性 (n=199)、シス女性 (n=164)、非シス (n=7)

性的指向別、教職員の認知度 (障害ガイドライン)



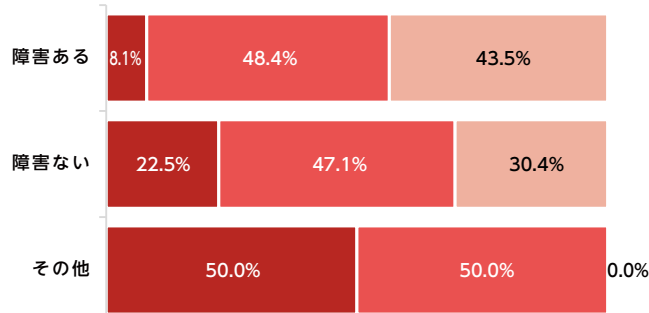
異性愛者 (n=305)、ゲイ・レズビアン (n=4)、バイセクシュアル (n=7)、アセクシュアル (n=3)、その他 (n=6)

外国ルーツの有無と教職員の認知度 (障害ガイドライン)



外国ルーツあり (n=36)、外国ルーツなし (n=342)、その他 (n=1)

障害の有無と教職員の認知度 (障害ガイドライン)



障害ある (n=62)、障害ない (n=276)、その他 (n=2)

全体の集計結果

問4は「中央大学における障害学生支援に関するガイドライン」を知っているかどうかを尋ねました(教職員)。「内容は知らないが、あることは知っている」がもっとも高く、47.0%でした。「内容含めて知っている」が33.0%で、「知らない」が20.0%でした。「内容は知らないが、あることは知っている」と「内容含めて知っている」を合わせると8割という結果でした。

属性による集計結果

■ 学内の立場別による集計結果

無期専任教員、専任職員で「知らない」が13～14%、有期・兼任教員で23.0%、非専任職員で35.3%と差がありました。「内容は知らないが、あることは知っている」は、有期・兼任教員が54.1%でもっとも高く、もっとも低い専任教員で40.5%でした。「内容含めて知っている」は、無期専任教員が46.3%でもっとも高く、非専任職員で14.7%ともっとも低いです。

■ 年齢別による集計結果

20代以下では「知らない」の割合が33.3%でしたが、おおむね年代が上がると割合が下がり、60代以上では11.3%でした。「内容は知らないが、あることは知っている」は20代以下が55.6%でもっとも高く、他の年代では約45%から40%台後半でした。「内容含めて知っている」は20代以下が11.1%でもっとも低く、他の年代では約30%から約40%でした。

■ 性別による集計結果

回答数の少なさを考慮する必要がありますが、非シスジェンダーでは「知らない」の割合が0.0%でした。シスジェンダーの男性で「知らない」の割合は17.1%、シスジェンダーの女性で22.6%でした。「内容は知らないが、あることは知っている」は非シスジェンダーで85.7%、シスジェンダー男性で48.2%、シスジェンダー女性で45.7%でした。「内容含めて知っている」は、シスジェンダーの男性と女性で30%台前半、非シスジェンダーで14.3%でした。

■ 性的指向別による集計結果

「知らない」の割合は、異性愛者とゲイ・レズビアンで20%から25%の間、バイセクシュアルとアセクシュアルで0.0%でした。どのカテゴリーも「内容は知らないが、あることは知っている」の割合が40%から70%の間でした。「内容含めて知っている」の割合は、もっとも高いバイセクシュアルで57.1%、他の性的指向では20%台後半から30%台前半でした。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、外国ルーツがあるという回答では「知らない」の割合が約9ポイント高い結果でした。「内容は知らないが、あることは知っている」では、外国ルーツがあるという回答で約16ポイント低いですが、「内容含めて知っている」では、外国ルーツがあるという回答で約7ポイント高いという結果でした。

■ 障害の有無による集計結果

障害の有無で比較すると、障害があるという回答では「知らない」の割合が約14ポイント低く、「内容含めて知っている」の割合が約13ポイント高い結果でした。「内容は知らないが、あることは知っている」はおおむね同じ結果でした。

取り組みの認知度 | 「GSハンドブック・ガイドブック」に対する認知度（問5）

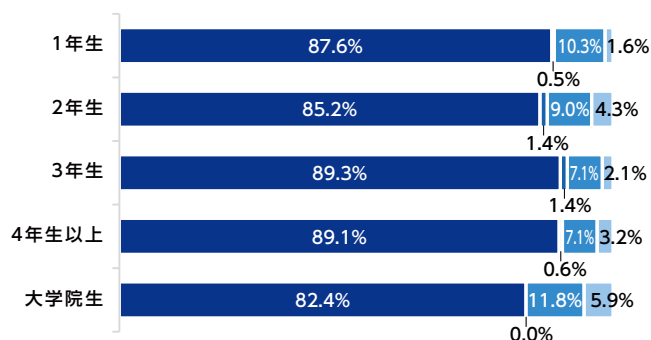
Question

05

あなたはダイバーシティセンターが発行している「学生のためのジェンダー・セクシュアリティに関するハンドブック」、「教職員のためのジェンダー・セクシュアリティに関するガイドブック（配慮と対応）」について知っていますか。

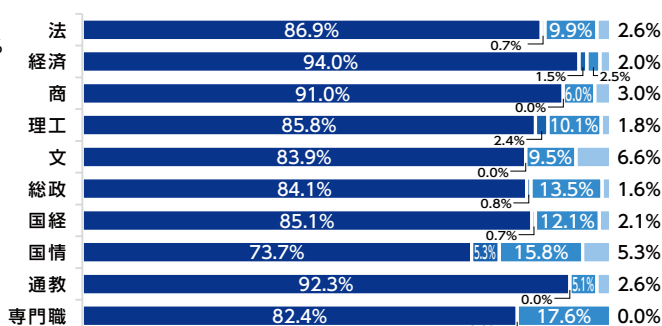
- 学生版と教職員版どちらも知らない 87.3%
- 教職員版は知っている（学生版は知らない） 0.9%
- 学生版は知っている（教職員版は知らない） 8.9%
- 学生版と教職員版どちらも知っている 2.8% （n=1,409）

学年別、学生の認知度（GSハンドガイド）



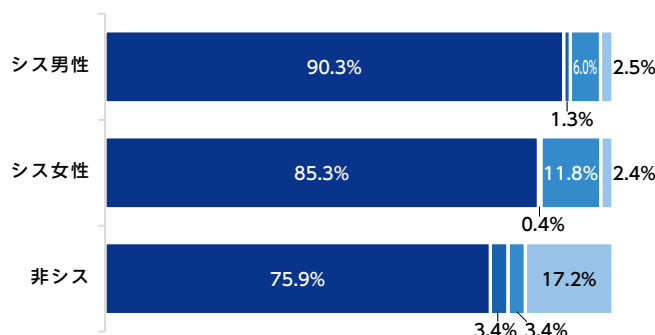
1年生（n=556）、2年生（n=345）、3年生（n=281）、4年生以上（n=156）、大学院生（n=51）

学部・研究科別、学生の認知度（GSハンドガイド）



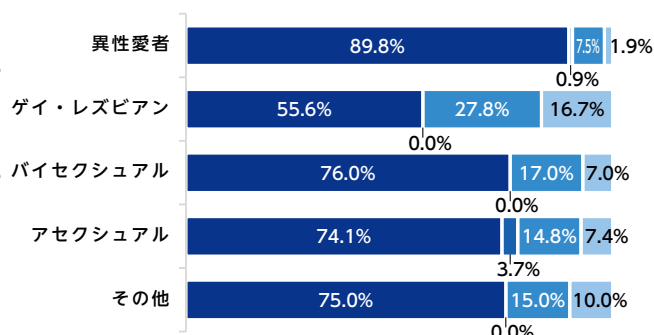
法（n=426）、経済（n=201）、商（n=100）、理工（n=169）、文（n=137）、総政（n=126）、国経（n=141）、国情（n=19）、通教（n=39）、専門職（n=17）

性別、学生の認知度（GSハンドガイド）



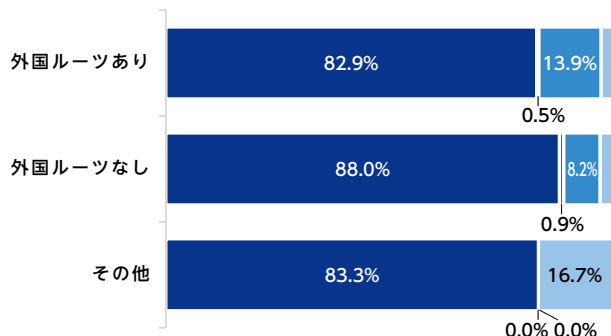
シス男性（n=689）、シス女性（n=668）、非シス（n=29）

性的指向別、学生の認知度（GSハンドガイド）



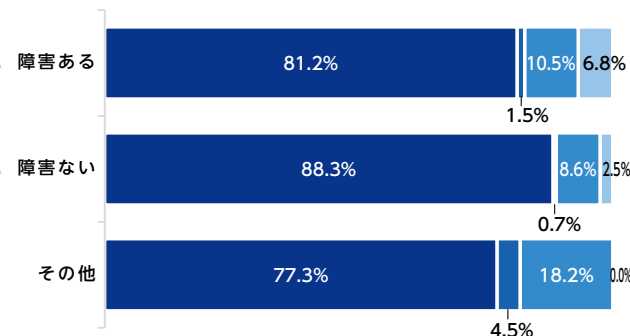
異性愛者（n=1,054）、ゲイ・レズビアン（n=18）、バイセクシュアル（n=100）、アセクシュアル（n=54）、その他（n=20）

外国ルーツの有無と学生の認知度（GSハンドガイド）



外国ルーツあり（n=187）、外国ルーツなし（n=1,196）、その他（n=6）

障害の有無と学生の認知度（GSハンドガイド）



障害ある（n=133）、障害なし（n=1,056）、その他（n=22）

全体の集計結果

問 5 は「学生のためのジェンダー・セクシュアリティに関するハンドブック」、「教職員のためのジェンダー・セクシュアリティに関するガイドブック（配慮と対応）」を知っているかどうかを尋ねました（学生）。「学生版と教職員版どちらも知らない」がもっとも高く、87.3% でした。「学生版は知っている（教職員版は知らない）」が 8.9% で、「学生版と教職員版どちらも知っている」が 2.8% でした。「教職員版は知っている（学生版は知らない）」、「学生版は知っている（教職員版は知らない）」、「学生版と教職員版どちらも知っている」を合わせても 1 割強でした。

属性による集計結果

■ 学年別による集計結果

「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合がもっとも低い大学院生で 82.4%、もっとも高い 3 年生で 89.3% と全学年通して 80% を超えました。「学生版と教職員版どちらも知っている」の割合は、もっとも高い大学院生で 5.9%、もっとも低い 1 年生で 1.6% でした。「学生版は知っている（教職員版は知らない）」はもっとも高い大学院生で 11.8%、もっとも低い 3 年生、4 年生以上で 7.1% でした。

■ 学部・研究科別による集計結果

「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合は国情で 73.7% と比較的低く、経済で 94.0% と比較的高いです。「学生版と教職員版どちらも知っている」の割合は文で 6.6% と比較的高く、専門職で 0.0%、総政で 1.6% と比較的低いです。「教職員版は知っている（学生版は知らない）」の割合は全学部通じて 6% 未満でした。「学生版は知っている（教職員版は知らない）」は、専門職で 17.6% と比較的高く、経済で 2.5% と比較的低いです。

■ 性別による集計結果

「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合は、非シスジェンダーで 75.9%、シスジェンダー女性で 85.3%、シスジェンダー男性で 90.3% と差がありました。「学生版と教職員版どちらも知っている」の割合は、非シスジェンダーで 17.2%、シスジェンダーの男性と女性と比べ 15 ポイントほどの差がありました。「学生版は知っている（教職員版は知らない）」の割合はシスジェンダー女性で 11.8%、シスジェンダー男性で 6.0%、非シスジェンダーで 3.4% と差がありました。

■ 性的指向別による集計結果

「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合は、もっとも高い異性愛者で 89.8%、もっとも低いゲイ・レズビアンで 55.6% と差がありました。「学生版と教職員版どちらも知っている」の割合は、異性愛者で他の性的指向と比べて約 5 ポイントから約 15 ポイントの差がありました。「学生版は知っている（教職員版は知らない）」の割合は、ゲイ・レズビアンで 27.8% ともっとも高く、バイセクシュアル、アセクシュアルで 10% 台、異性愛者で 7.5% でした。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツがあるという回答で「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合は約 5 ポイント低いです。「学生版は知っている（教職員版は知らない）」の割合は、外国ルーツがあるという回答で約 6 ポイント高い結果でした。

■ 障害の有無による集計結果

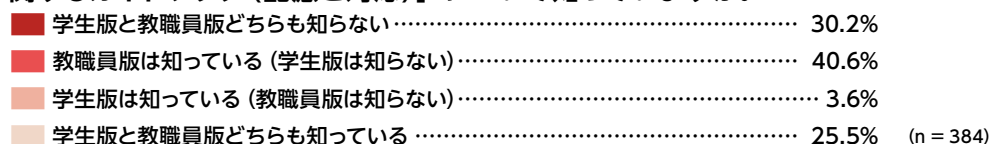
障害があるという回答で「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合は、障害がないという回答と比べて約 7 ポイント低く、「学生版と教職員版どちらも知っている」は約 4 ポイント高い結果でした。

取り組みの認知度 | 「GSハンドブック・ガイドブック」に対する認知度 (問 5)

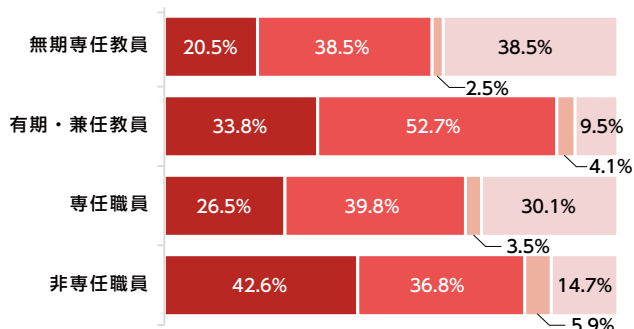
Question

05

あなたはダイバーシティセンターが発行している「学生のためのジェンダー・セクシュアリティに関するハンドブック」、「教職員のためのジェンダー・セクシュアリティに関するガイドブック（配慮と対応）」について知っていますか。

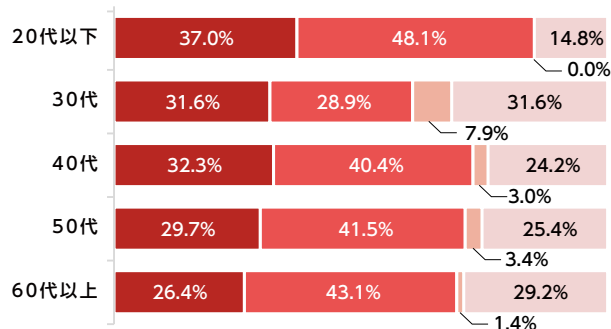


学内の立場別、教職員の認知度 (GSハンドガイド)



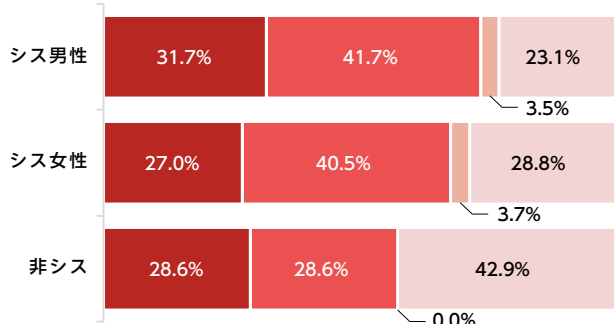
無期専任教員 (n=122)、有期・兼任教員 (n=74)、専任職員 (n=113)、非専任職員 (n=68)

年齢別、教職員の認知度 (GSハンドガイド)



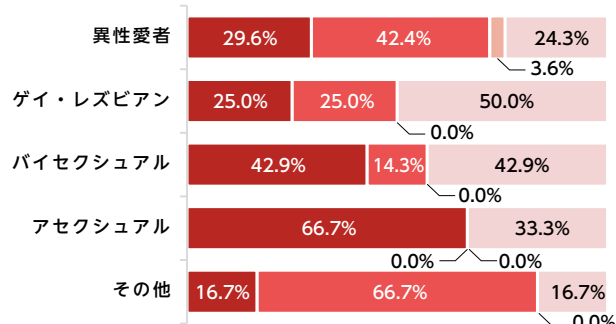
20代以下 (n=27)、30代 (n=38)、40代 (n=99)、50代 (n=118)、60代以上 (n=72)

性別、教職員の認知度 (GSハンドガイド)



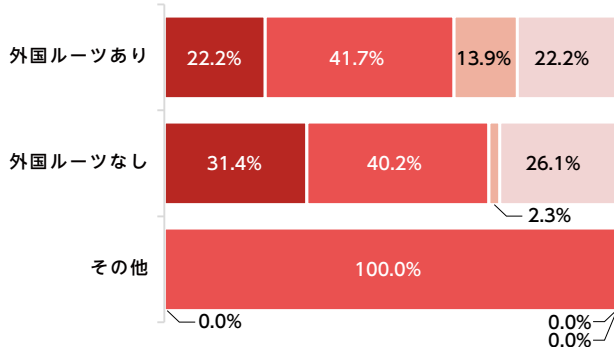
シス男性 (n=199)、シス女性 (n=163)、非シス (n=7)

性的指向別、教職員の認知度 (GSハンドガイド)



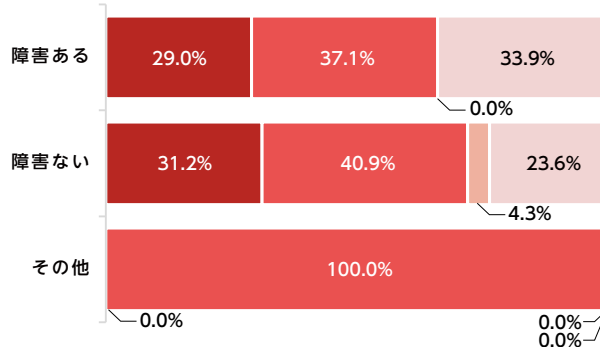
異性愛者 (n=304)、ゲイ・レズビアン (n=4)、バイセクシュアル (n=7)、アセクシュアル (n=3)、その他 (n=6)

外国ルーツの有無と教職員の認知度 (GSハンドガイド)



外国ルーツあり (n=36)、外国ルーツなし (n=341)、その他 (n=1)

障害の有無と教職員の認知度 (GSハンドガイド)



障害ある (n=62)、障害ない (n=276)、その他 (n=2)

全体の集計結果

問 5 は「学生のためのジェンダー・セクシュアリティに関するハンドブック」、「教職員のためのジェンダー・セクシュアリティに関するガイドブック（配慮と対応）」を知っているかどうかを尋ねました（教職員）。「教職員版は知っている（学生版は知らない）」がもっとも高く、40.6％でした。「学生版と教職員版どちらも知らない」が30.2％、「学生版と教職員版どちらも知っている」が25.5％でした。「教職員版は知っている（学生版は知らない）」、「学生版は知っている（教職員版は知らない）」、「学生版と教職員版どちらも知っている」を合わせ約 7 割でした。

属性による集計結果

■ 学内の立場別による集計結果

「学生版と教職員版どちらも知らない」はもっとも高い非専任職員で 42.6％、もっとも低い無期専任教員で 20.5％と差がありました。「学生版と教職員版どちらも知っている」は、無期専任教員が 38.5％でもっとも高く、もっとも低い有期・兼任教員で 9.5％でした。「教職員版は知っている（学生版は知らない）」は有期・兼任教員がもっとも高く 52.7％で、他の立場では 30％台後半でした。

■ 年齢別による集計結果

年齢別の「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合は、おおむね年齢が上がるごとに下がり、20 代以下で 37.0％、60 代以上では 26.4％でした。「学生版と教職員版どちらも知っている」は、もっとも低い 20 代以下で 14.8％、他の年代では 20％台半ばから 30％台前半でした。

■ 性別による集計結果

「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合は、シスジェンダー女性が 27.0％でもっとも低く、非シスジェンダーで約 2 ポイント、シスジェンダー男性で約 5 ポイント高いという結果でした。「学生版と教職員版どちらも知っている」が非シスジェンダーで 42.9％ともっとも高く、それと比べてシスジェンダー女性は約 14 ポイント、シスジェンダー男性は約 20 ポイント低い結果でした。「教職員版は知っている（学生版は知らない）」はシスジェンダーの男性と女性で 41％前後、非シスジェンダーで 28.6％でした。

■ 性的指向別による集計結果

「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合は、もっとも高いアセクシュアルで 66.7％、もっとも低いゲイ・レズビアンで 25％と差がありました。「学生版と教職員版どちらも知っている」の割合は、ゲイ・レズビアンとバイセクシュアルが 40％～50％、異性愛者とアセクシュアルで 20～30％強でした。「教職員版は知っている（学生版は知らない）」の割合は、異性愛者で 42.4％、バイセクシュアルとゲイ・レズビアンで 10～20％台、アセクシュアルは 0.0％でした。「学生版は知っている（教職員版は知らない）」は異性愛者で 3.6％、他は 0.0％でした。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツがあるという回答では「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合が約 9 ポイント低く、「学生版と教職員版どちらも知っている」は約 4 ポイント低いです。「学生版は知っている（教職員版は知らない）」では外国ルーツがあるという回答で約 12 ポイント高い結果でした。

■ 障害の有無による集計結果

障害があるという回答では「学生版と教職員版どちらも知らない」の割合が約 2 ポイント低く、「学生版と教職員版どちらも知っている」の割合が約 10 ポイント高いです。障害があるという回答で「教職員版は知っている（学生版は知らない）」が約 4 ポイント低く、「学生版は知っている（教職員版は知らない）」が約 4 ポイント低いです。

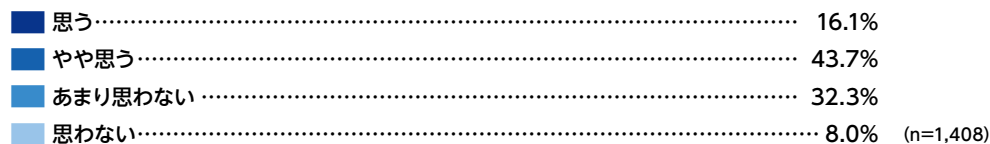
学内環境への意識 | 中央大学は障害のある方が不自由なく学ぶ／働くことができる環境だと思うか (問 6)

*本調査における「環境」は、施設等の物理的なものだけでなく、雰囲気・風土なども含みます

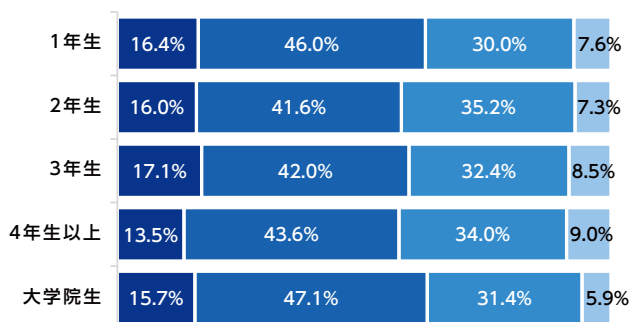
Question

06

あなたは中央大学が障害のある方が不自由なく学ぶ／働くことができる環境だと思いますか。

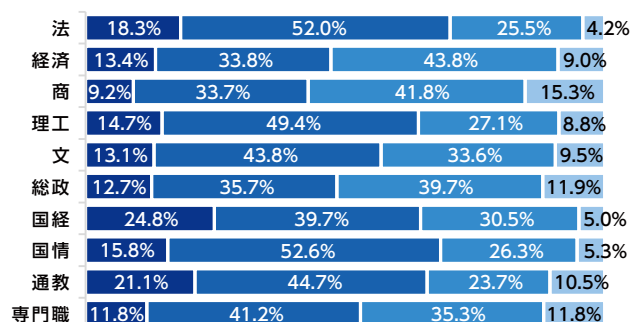


学年別、学生の学内環境意識 (障害)



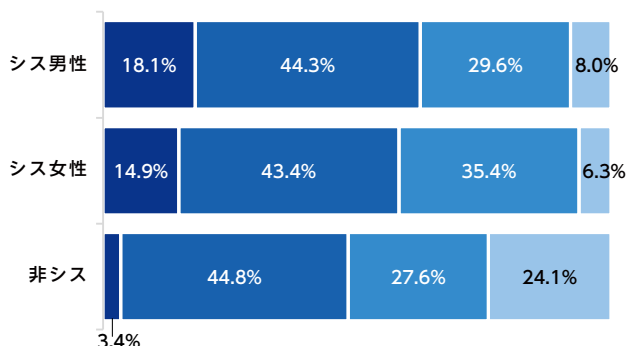
1年生 (n=556)、2年生 (n=344)、3年生 (n=281)、4年生以上 (n=156)、大学院生 (n=51)

学部・研究科別、学生の学内環境意識 (障害)



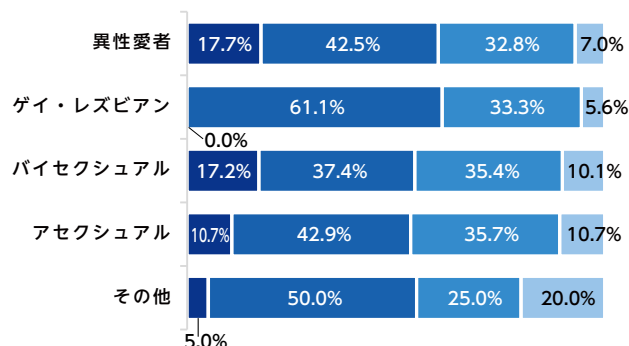
法 (n=427)、経済 (n=201)、商 (n=98)、理工 (n=170)、文 (n=137)、総政 (n=126)、国経 (n=141)、国情 (n=19)、通教 (n=38)、専門職 (n=17)

性別、学生の学内環境意識 (障害)



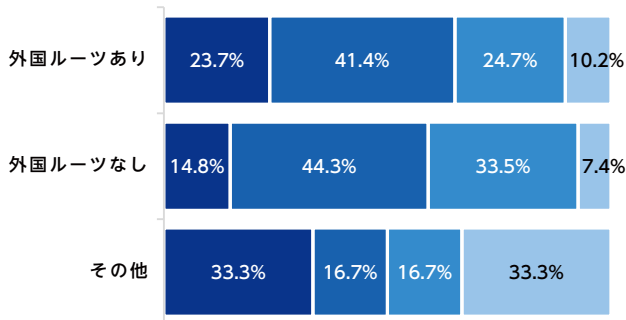
シス男性 (n=690)、シス女性 (n=666)、非シス (n=29)

性的指向別、学生の学内環境意識 (障害)



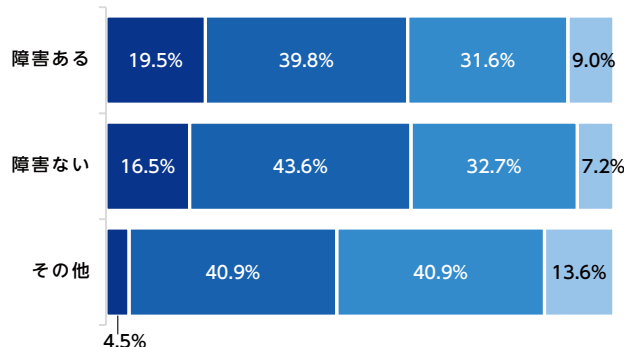
異性愛者 (n=1,052)、ゲイ・レズビアン (n=18)、バイセクシュアル (n=99)、アセクシュアル (n=56)、その他 (n=20)

外国ルーツの有無と学生の学内環境意識 (障害)



外国ルーツあり (n=186)、外国ルーツなし (n=1,196)、その他 (n=6)

障害の有無と学生の学内環境意識 (障害)



障害ある (n=133)、障害ない (n=1,055)、その他 (n=22)

全体の集計結果

問 6 で、中央大学は障害のある方が不自由なく学ぶ／働くことができる環境だと思うかどうかを尋ねました（学生）。「思う」が 16.1%、「やや思う」が 43.7% で、肯定的な回答が 6 割弱という結果でした。否定的な回答は、「思わない」が 8.0%、「あまり思わない」が 32.3% でした。肯定的な回答の方が多いという傾向がある一方、「思う」「思わない」と比べて、「やや思う」「あまり思わない」の方が多くなるという特徴がみられます。

学年別による集計結果

4 年生以上は「思う」の割合が他の学年と比べて 2 ポイント以上低く、1 年生と大学院生は「やや思う」の割合が 3 ポイントほど高いなどの軽微な差はあるものの、全体的には回答の傾向に学年による差はみられませんでした。

■ 学部・研究科別による集計結果

「思う」の割合は国経で 24.8% だった一方で、商では 9.2% で差がありました。法、理工、国情では「やや思う」が 5 割前後になり、他より高い傾向がありました。経済、商、総政は「あまり思わない」の割合が高く、4 割前後でした。「思わない」の割合がもっとも高いのは、商で 15.3% でした。

■ 性別による集計結果

シスジェンダーの男性と女性を比べると、女性の方が「思う」の割合が 3 ポイントほど低く、「あまり思わない」の割合が 6 ポイントほど高いという差がありました。非シスジェンダーはシスジェンダーの男性と女性と比べて、「思う」の割合が 10 ポイント以上低く、「思わない」の割合が 15 ポイント以上高いです。

■ 性的指向別による集計結果

ゲイ・レズビアンでは「やや思う」の割合が高い傾向がみられましたが、回答数が少ないため留意が必要です。また、バイセクシュアルとアセクシュアルで「思わない」の割合が 3 ポイント以上高い結果でした。回答数を考慮すると、全体的には回答の傾向に性的指向による差は大きくないかもしれません。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、外国ルーツがあるという回答では「思う」の割合が約 9 ポイント高く、「あまり思わない」の割合が約 9 ポイント低いことがわかりました。このように、外国ルーツがある回答では肯定的回答の割合がやや高い結果でした。

■ 障害の有無による集計結果

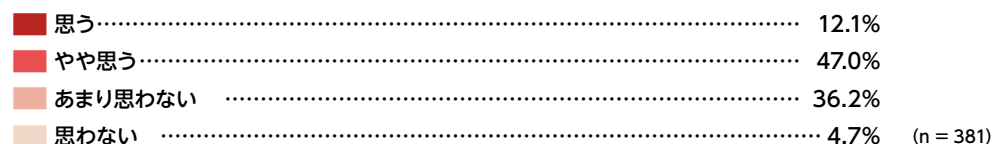
障害の有無で比較すると、障害があるという回答では「思う」の割合が 3 ポイント高く、「やや思う」の割合が 4 ポイントほど低い結果でしたが、全体的には回答の傾向に障害の有無による差はみられませんでした。

学内環境への意識 | 中央大学は障害のある方が不自由なく学ぶ／働くことができる環境だと思うか (問 6)

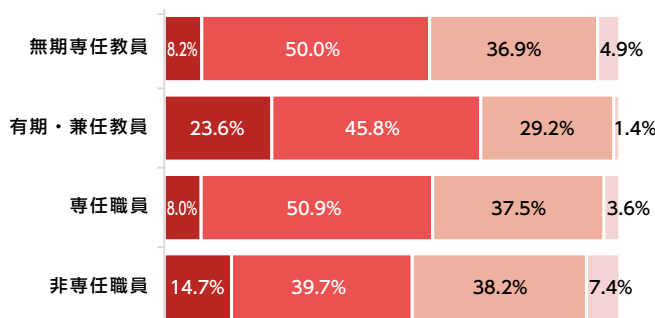
Question

06

あなたは中央大学が障害のある方が不自由なく学ぶ／
働くことができる環境だと思いますか。

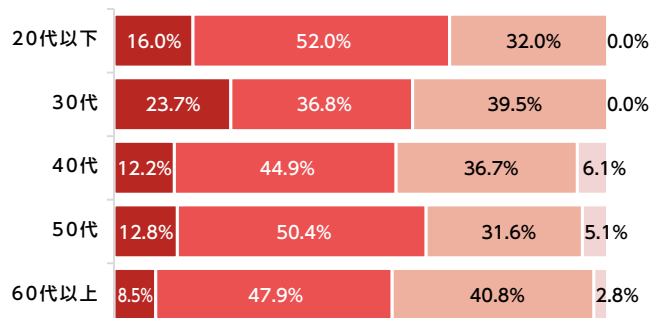


学内の立場別、教職員の学内環境意識（障害）



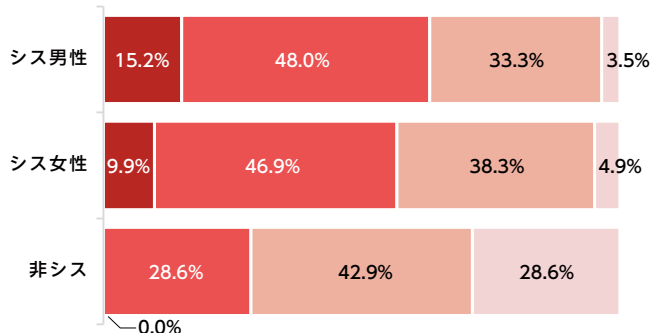
無期専任教員 (n=122)、有期・兼任教員 (n=72)、専任職員 (n=112)、
非専任職員 (n=68)

年齢別、教職員の学内環境意識（障害）



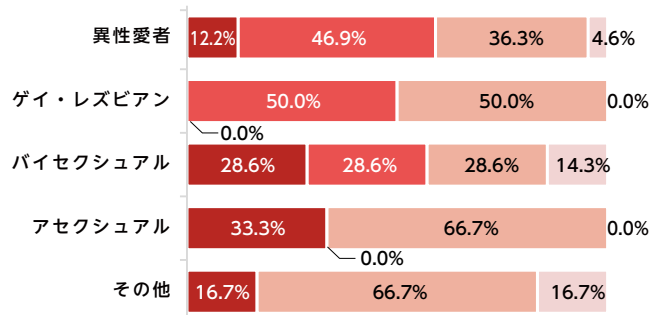
20代以下 (n=25)、30代 (n=38)、40代 (n=98)、50代 (n=117)、
60代以上 (n=71)

性別、教職員の学内環境意識（障害）



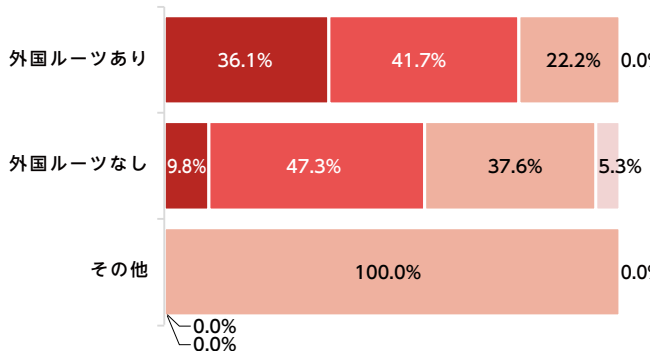
シス男性 (n=198)、シス女性 (n=162)、非シス (n=7)

性的指向別、教職員の学内環境意識（障害）



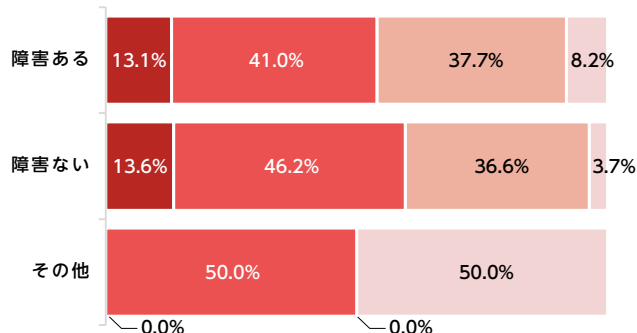
異性愛者 (n=303)、ゲイ・レズビアン (n=4)、バイセクシュアル (n=7)、
アセクシュアル (n=3)、その他 (n=6)

外国ルーツの有無と教職員の学内環境意識（障害）



外国ルーツあり (n=36)、外国ルーツなし (n=338)、その他 (n=1)

障害の有無と教職員の学内環境意識（障害）



障害ある (n=61)、障害ない (n=273)、その他 (n=2)

全体の集計結果

問 6 で、中央大学は障害のある方が不自由なく学ぶ／働くことができる環境だと思うかどうかを尋ねました（教職員）。「思う」が 12.1%、「やや思う」が 47.0% で、肯定的な回答が 6 割弱という結果でした。否定的な回答は、「思わない」が 4.7%、「あまり思わない」が 36.2% でした。肯定的な回答の方が多い結果でしたが、「思う」「思わない」と比べて、「やや思う」「あまり思わない」の方が多いという特徴がみられます。

学内の立場別による集計結果

「思う」の割合が、有期・兼任教員では 23.6%、無期専任教員と専任職員では約 8% でした。「やや思う」の割合は無期専任教員と専任職員どちらも約 50% でしたが、非専任職員では 39.7% でやや低いです。「あまり思わない」は 30% 台後半になるカテゴリーが多いですが、有期・兼任教員では 29.2% でした。有期・兼任教員は「思わない」の割合も低く、1.4% でしたが、非専任職員では 7.4% でした。肯定的な回答は有期・兼任教員が 70% 弱で、他では 50% 台でした。

■ 年齢別による集計結果

30 代では「思う」の割合が 23.7% で、他よりも 7 ポイント以上高いです。一方で、「やや思う」の割合は 36.8% で低い結果でした。他のカテゴリーの「やや思う」の割合は約 45% ～ 52% でした。「あまり思わない」の割合は全体的に 30 ～ 40% 程度で、「思わない」は 40 代で 6.1%、50 代で 5.1% でしたが、他では 3% 未満でした。肯定的な回答の割合が高いのは 20 代で 68.0%、低いのは 40 代と 60 代以上で約 56 ～ 57% という結果でした。

■ 性別による集計結果

シスジェンダーの男性と女性を比べると、女性の方が「思う」の割合が 5 ポイントほど低く、「あまり思わない」の割合が 5 ポイント高いという差がありました。非シスジェンダーは回答数の少なさを考慮する必要がありますが、肯定的な回答の割合が低く、否定的な回答の割合が高い傾向がみられます。

■ 性的指向別による集計結果

教職員の回答における性的指向別の集計は、異性愛者以外の回答が少ないため傾向を確認することが困難ですが、「思う」「思わない」と比べて「やや思う」「あまり思わない」の方が多いという傾向が異性愛者とゲイ・レズビアンではみられます。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、外国ルーツがあるという回答では「思う」の割合が約 26 ポイント高い結果でした。「やや思う」の割合は外国ルーツがある回答の方が 5.6 ポイント低いですが、全体としては外国ルーツがある回答の方が肯定的回答の割合は高いことがわかります。

■ 障害の有無による集計結果

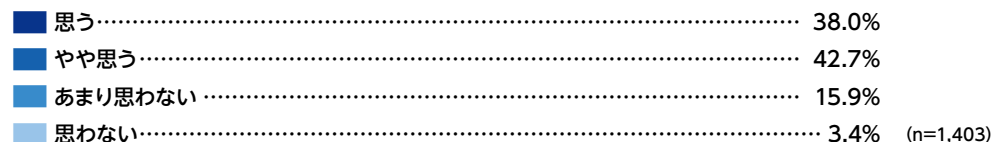
障害の有無で比較すると、障害があるという回答では「やや思う」の割合が 5 ポイントほど低く、「思わない」の割合は 5 ポイントほど高い結果でしたが、全体的には回答の傾向に障害の有無による大きな差はみられませんでした。

学内環境への意識 | 中央大学は性別や性のあり方に関係なく安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか (問 7)

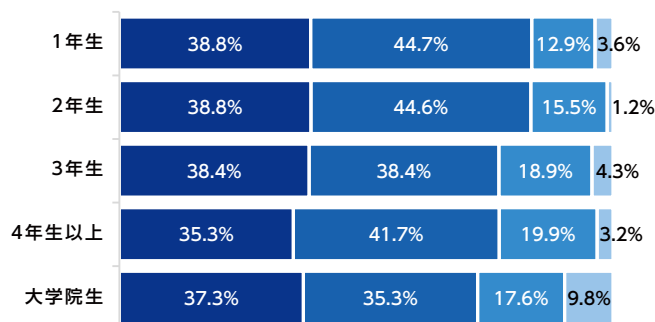
Question

07

あなたは中央大学が性別や性のあり方に関係なく
安心して学ぶ／働くことができる環境だと思いますか。

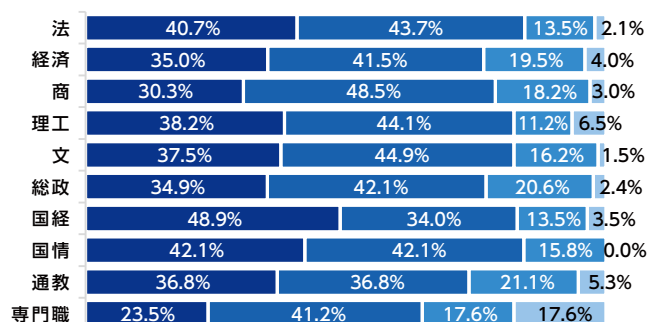


学年別、学生の学内環境意識 (性)



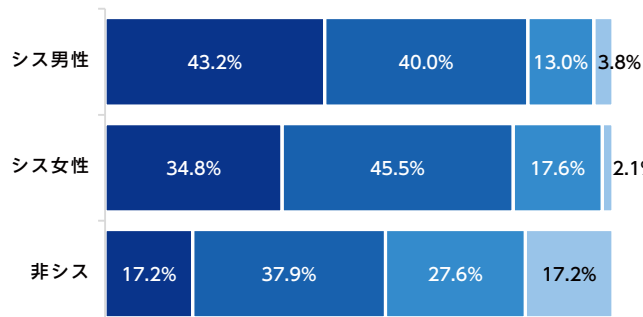
1年生 (n=552)、2年生 (n=343)、3年生 (n=281)、4年生以上 (n=156)、
大学院生 (n=51)

学部・研究科別、学生の学内環境意識 (性)



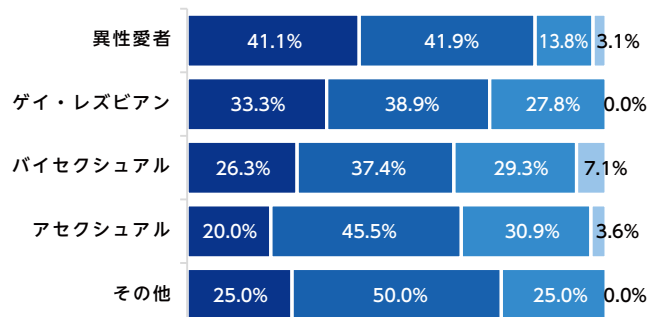
法 (n=423)、経済 (n=200)、商 (n=99)、理工 (n=170)、文 (n=136)、
総政 (n=126)、国経 (n=141)、国情 (n=19)、通教 (n=38)、専門職 (n=17)

性別、学生の学内環境意識 (性)



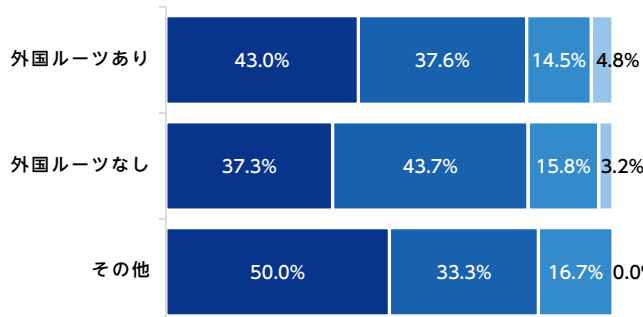
シス男性 (n=685)、シス女性 (n=666)、非シス (n=29)

性的指向別、学生の学内環境意識 (性)



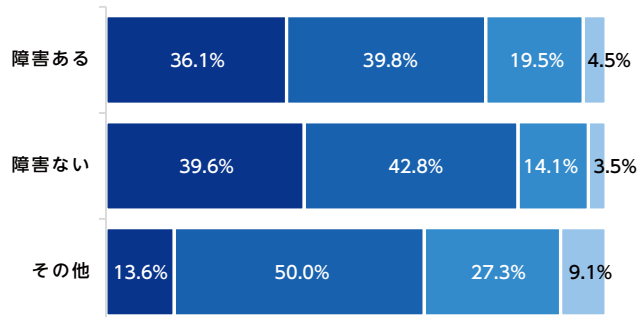
異性愛者 (n=1,049)、ゲイ・レズビアン (n=18)、バイセクシュアル (n=99)、
アセクシュアル (n=55)、その他 (n=20)

外国ルーツの有無と学生の学内環境意識 (性)



外国ルーツあり (n=186)、外国ルーツなし (n=1,191)、その他 (n=6)

障害の有無と学生の学内環境意識 (性)



障害ある (n=133)、障害ない (n=1,052)、その他 (n=22)

全体の集計結果

問 7 で、中央大学は性別や性のあり方に関係なく安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うかどうかを尋ねました（学生）。「思う」が 38.0%、「やや思う」が 42.7% で、肯定的な回答が約 8 割という結果でした。否定的な回答は、「思わない」が 3.4%、「あまり思わない」が 15.9% でした。このように、学生の回答における全体の傾向としては肯定的な回答が多いことがわかりました。

学年別による集計結果

「思う」の割合に差はありませんが、3 年生とそれ以上の学年では「やや思う」の割合がやや低い結果でした。結果として、1 年生と 2 年生は肯定的な回答の割合が 80% を超えた一方で、それより上の学年では 70% 台でした。しかし、全体的には回答の傾向に学年による大きな差はみられませんでした。

■ 学部・研究科別による集計結果

「思う」の割合は国経で 48.9%、国情で 42.1%、法で 40.7% だった一方で、商では 30.3% で差がありました（専門職で 23.5% でしたが回答数に留意が必要です）。「やや思う」は 40% 台が多いですが、国経は 34.0% でした。「あまり思わない」で 20% を超えたのは、総政と通教だけでした（経済 19.5%、商 18.2% で比較的高いです）。「思わない」は専門職を除くと、理工が 6.5% でもっとも割合が高いです。

■ 性別による集計結果

シスジェンダーの男性と女性を比べると、女性の方が「思う」の割合が 8 ポイントほど低く、「あまり思わない」の割合が約 4.5 ポイント高いという差がありました。非シスジェンダーはシスジェンダーの男性と女性と比べて、「思う」の割合が 17 ポイント以上低く、「あまり思わない」の割合が 10 ポイント以上、「思わない」は 13 ポイント以上高い結果でした。シスジェンダーの男性と女性の差よりも、シスジェンダーと非シスジェンダーの差の方が大きいことがわかります。

■ 性的指向別による集計結果

異性愛者で「思う」の割合が高く、一番割合が低いアセクシュアルとは 20 ポイント以上の差がありました。「やや思う」の割合がもっとも高い傾向は共通しており、40% 前後になるカテゴリーが多いです。「あまり思わない」の割合は異性愛者で低く、11 ポイント以上の差がありました。異性愛者では肯定的な回答が多くなる傾向がみられました。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツがあるという回答で「思う」の割合が約 6 ポイント高く、「やや思う」の割合が約 6 ポイント低い結果でした。そのため、肯定的な回答の割合はどちらも変わらないことがわかります。

■ 障害の有無による集計結果

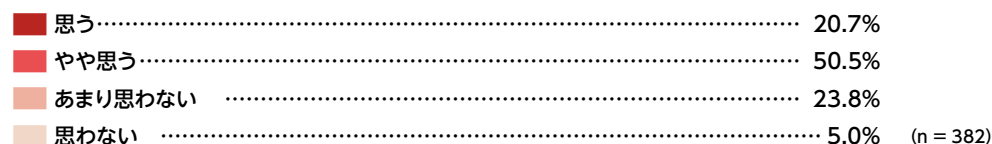
障害があるという回答では「思う」「やや思う」の割合がそれぞれ約 3 ポイント低く、「あまり思わない」の割合が 5 ポイントほど高いです。その結果、大きな差ではないものの、障害がないという回答の方が肯定的な回答の割合が高いことがわかりました。

学内環境への意識 | 中央大学は性別や性のあり方に関係なく安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか (問 7)

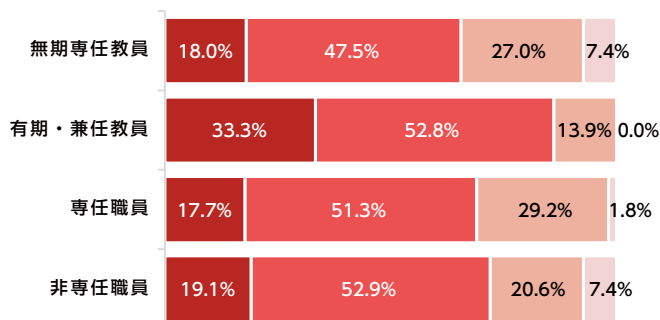
Question

07

あなたは中央大学が性別や性のあり方に関係なく
安心して学ぶ／働くことができる環境だと思いますか。

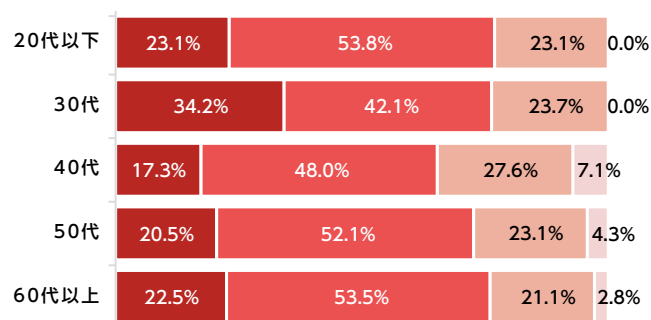


学内の立場別、教職員の学内環境意識 (性)



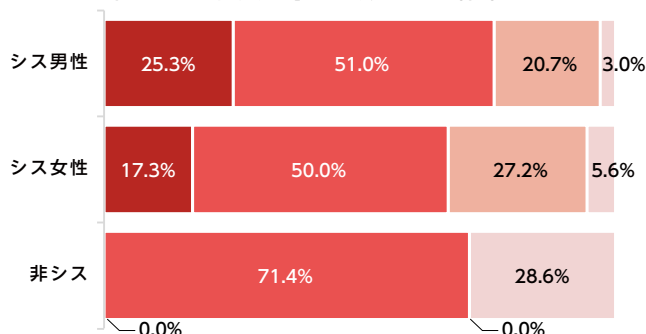
無期専任教員 (n=122)、有期・兼任教員 (n=72)、専任職員 (n=113)、
非専任職員 (n=68)

年齢別、教職員の学内環境意識 (性)



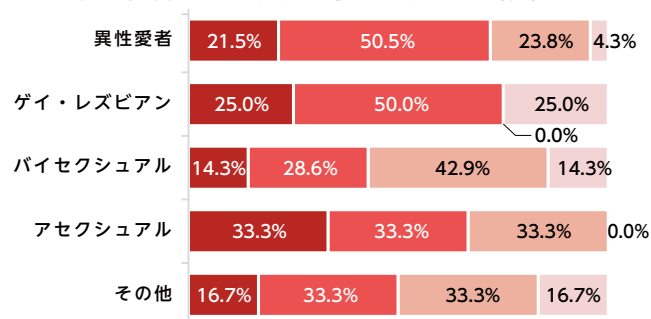
20代以下 (n=26)、30代 (n=38)、40代 (n=98)、50代 (n=117)、
60代以上 (n=71)

性別、教職員の学内環境意識 (性)



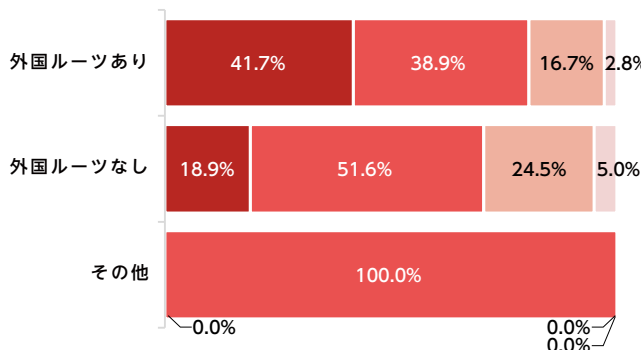
シス男性 (n=198)、シス女性 (n=162)、非シス (n=7)

性的指向別、教職員の学内環境意識 (性)



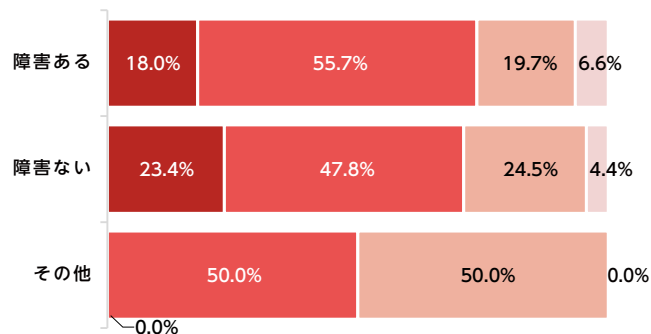
異性愛者 (n=303)、ゲイ・レズビアン (n=4)、バイセクシュアル (n=7)、
アセクシュアル (n=3)、その他 (n=6)

外国ルーツの有無と教職員の学内環境意識 (性)



外国ルーツあり (n=36)、外国ルーツなし (n=339)、その他 (n=1)

障害の有無と教職員の学内環境意識 (性)



障害ある (n=61)、障害ない (n=274)、その他 (n=2)

全体の集計結果

問 7 で、中央大学は性別や性のあり方に関係なく安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うかどうかを尋ねました（教職員）。「思う」が 20.7%、「やや思う」が 50.5% で、肯定的な回答が約 7 割という結果でした。否定的な回答は、「思わない」が 5.0%、「あまり思わない」が 23.8% でした。約 1/4 が「あまり思わない」と回答している一方で、教職員の回答における全体の傾向としては肯定的な回答が多いことがわかりました。

学内の立場別による集計結果

「思う」の割合が、有期・兼任教員では 33.3% でしたが、他は 20% 未満でした。「やや思う」は全てのカテゴリーで 50% 前後でした。「あまり思わない」は無期専任教員で 27.0%、専任職員は 29.2% でしたが、有期・兼任教員では 13.9% でした。「思わない」の割合は無期専任教員と非専任職員ではどちらも 7.4% で、高い傾向がありました。肯定的な回答は有期・兼任教員で 80% を超えましたが、他では 60% ～ 70% 台でした。

■ 年齢別による集計結果

30 代では「思う」の割合が 34.2% で、他よりも 11 ポイント以上高いです。一方で、「やや思う」の割合は 42.1% で低い結果でした。他のカテゴリーの「やや思う」の割合は約 48% ～ 54% でした。「あまり思わない」の割合は全体的に 20% 台で、「思わない」は 40 代で 7.1% で、他では 5% 未満でした。肯定的な回答の割合は 40 代で低く 65.3% でしたが、他は約 72 ～ 77% でした。

■ 性別による集計結果

シスジェンダーの男性と女性を比べると、女性の方が「思う」の割合が 8 ポイント低く、「あまり思わない」の割合が 7 ポイントほど高いという差がありました。非シスジェンダーは「やや思う」の割合が高いですが、回答数の少なさを考慮する必要があります。シスジェンダーの男性の方が肯定的な回答の割合が高いことがわかります。

■ 性的指向別による集計結果

教職員の回答における性的指向別の集計は、異性愛者以外の回答が少ないため傾向を確認することが困難なため、結果をみる際は考慮する必要があります。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツがあるという回答における「思う」の割合は 41.7% で、外国ルーツがない回答よりも約 23 ポイント高い結果でした。「やや思う」の割合は外国ルーツがある回答の方が約 13 ポイント低いですが、肯定的な回答の割合は外国ルーツがある回答の方が約 10 ポイント高いです。

■ 障害の有無による集計結果

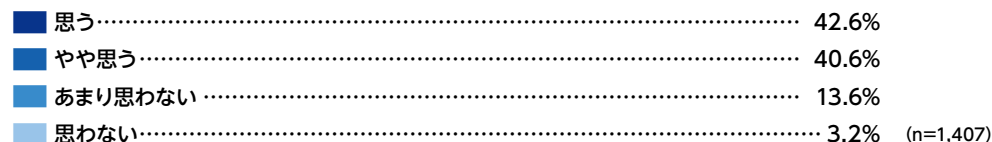
障害があるという回答で「思う」の割合が約 5 ポイント低い、「やや思う」の割合が約 8 ポイント高いなど軽微な差はありましたが、肯定的な回答の割合に大きな差はありませんでした。

学内環境への意識 | 中央大学は外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか（問 8）

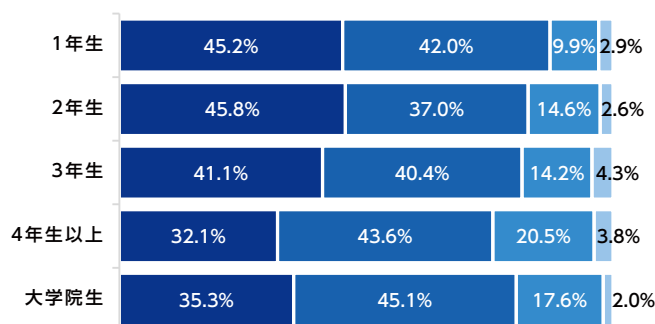
Question

08

あなたは中央大学が外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思いますか。

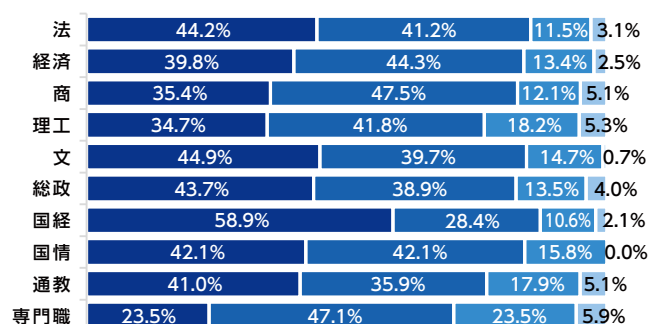


学年別、学生の学内環境意識（ルーツ）



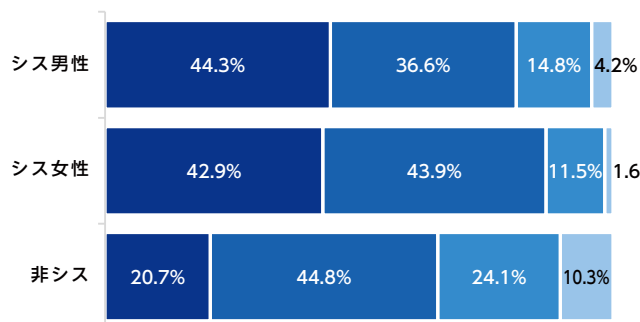
1年生 (n=555)、2年生 (n=343)、3年生 (n=282)、4年生以上 (n=156)、大学院生 (n=51)

学部・研究科別、学生の学内環境意識（ルーツ）



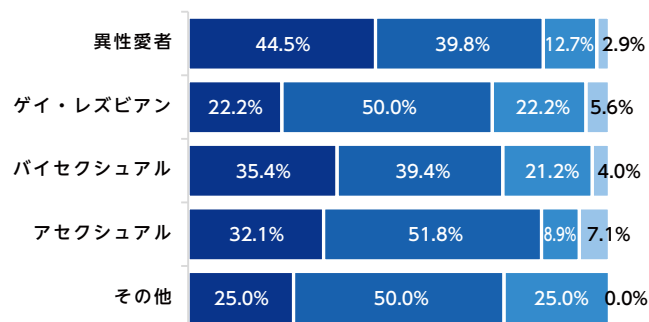
法 (n=425)、経済 (n=201)、商 (n=99)、理工 (n=170)、文 (n=136)、総政 (n=126)、国経 (n=141)、国情 (n=19)、通教 (n=39)、専門職 (n=17)

性別、学生の学内環境意識（ルーツ）



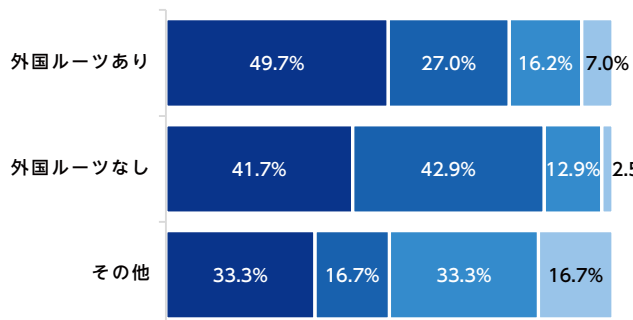
シス男性 (n=688)、シス女性 (n=667)、非シス (n=29)

性的指向別、学生の学内環境意識（ルーツ）



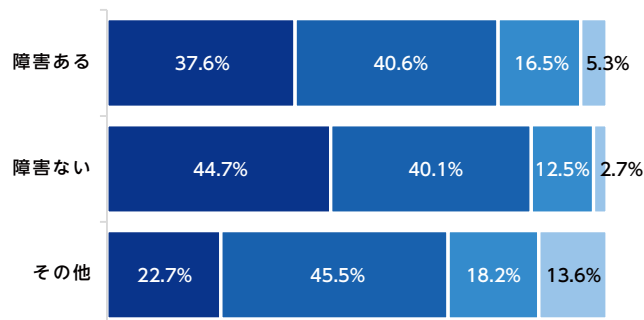
異性愛者 (n=1,052)、ゲイ・レズビアン (n=18)、バイセクシュアル (n=99)、アセクシュアル (n=56)、その他 (n=20)

外国ルーツの有無と学生の学内環境意識（ルーツ）



外国ルーツあり (n=185)、外国ルーツなし (n=1,196)、その他 (n=6)

障害の有無と学生の学内環境意識（ルーツ）



障害ある (n=133)、障害ない (n=1,055)、その他 (n=22)

* 本調査における「外国に（も）ルーツを持つ方」は、国籍・出身地域・民族・人種・名前・言語（発音を含む）に関して、日本以外に（も）繋がりがある人を指します。日本で生まれ育った人も、外国で生まれ育った人も含みます。

全体の集計結果

問 8 で、外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うかどうかを尋ねました（学生）。「思う」が42.6%、「やや思う」が40.6%で、肯定的な回答が8割以上という結果でした。否定的な回答は、「思わない」が3.2%、「あまり思わない」が13.6%でした。学生の回答における全体の傾向としては肯定的な回答が多いことがわかります。

■ 学年別による集計結果

「思う」の割合が1～3年生は約41～46%で、4年生以上と大学院生よりも約6から14ポイント高い値でした。否定的回答の割合がもっとも高いのは4年生以上で、25%弱という結果でした。他の学年は10%台でした。低学年の方が肯定的な回答の割合がやや高い傾向があるといえるかもしれません。

■ 学部・研究科別による集計結果

「思う」の割合は国経で58.9%だった一方で、商と理工ではそれぞれ35.4%と34.7%で差がありました（専門職で23.5%でしたが回答数に留意が必要です）。「やや思う」は商と専門職がそれぞれ47.5%と47.1%で高い一方で、国経は28.4%でした。「あまり思わない」で20%を超えたのは専門職だけで、他は10%台でした。肯定的な回答の割合は、理工・通教・専門職では70%台でしたが、他は80%台になりました。

■ 性別による集計結果

シスジェンダーの男性と女性を比べると、女性の方が「やや思う」の割合が7ポイントほど高く、「あまり思わない」と「思わない」の割合が3ポイントほど低いです。肯定的な回答の割合は女性の方が5ポイント以上高い結果でした。非シスジェンダーはシスジェンダーの男性と女性と比べて、「思う」の割合が22ポイント以上低く、「あまり思わない」の割合が9ポイント以上、「思わない」は6ポイント以上高い結果でした。シスジェンダーの男性と女性の差よりも、シスジェンダーと非シスジェンダーの差の方が大きいことがわかります。

■ 性的指向別による集計結果

異性愛者で「思う」の割合が高く、一番割合が低いゲイ・レズビアンとは22ポイント以上の差がありました（回答数が少ない点に留意が必要です）。異性愛者以外は、「やや思う」の割合がもっとも高い傾向があり、50%以上になるカテゴリーが多いです。「あまり思わない」の割合はアセクシュアルと異性愛者で低く、これらのカテゴリーは肯定的な回答が多くなる傾向がみられました。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、外国ルーツがある回答で「思う」の割合が8ポイント高い一方で、「やや思う」の割合が約16ポイント低い結果でした。否定的な回答の割合は、外国ルーツがある回答の方が8ポイントほど高いことがわかります。

■ 障害の有無による集計結果

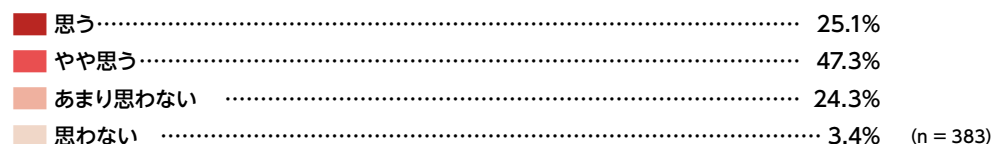
障害の有無で比較すると、障害がある回答では「思う」の割合が7ポイントほど低く、「やや思う」は障害の有無で差がありませんでした。否定的な回答の割合は、障害がある回答が6ポイント以上高いため、障害がある回答の方がやや肯定的な回答の割合が低いことがわかります。

学内環境への意識 | 中央大学は外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか（問 8）

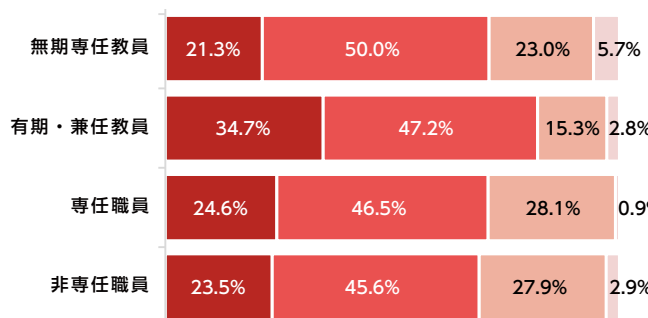
Question

08

あなたは中央大学が外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思いますか。

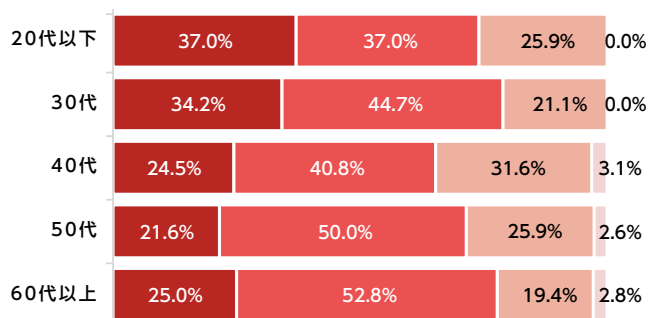


学内の立場別、教職員の学内環境意識（ルーツ）



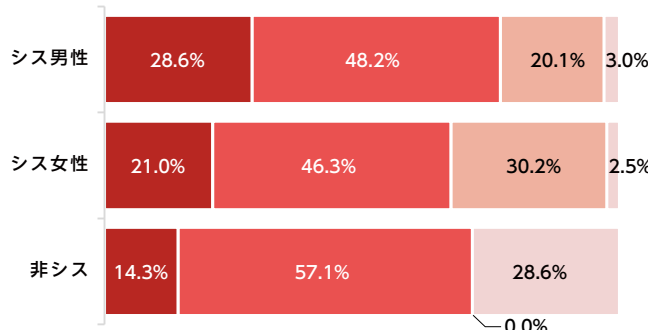
無期専任教員 (n=122)、有期・兼任教員 (n=72)、専任職員 (n=114)、非専任職員 (n=68)

年齢別、教職員の学内環境意識（ルーツ）



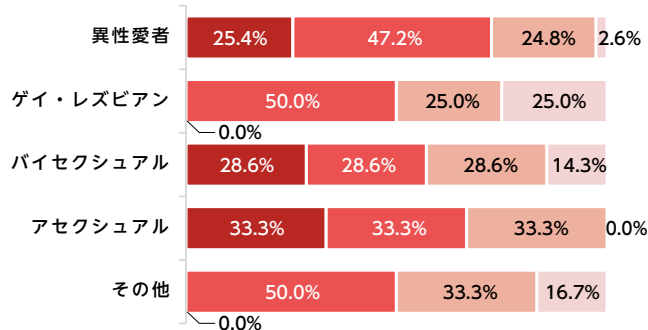
20代以下 (n=27)、30代 (n=38)、40代 (n=98)、50代 (n=116)、60代以上 (n=72)

性別、教職員の学内環境意識（ルーツ）



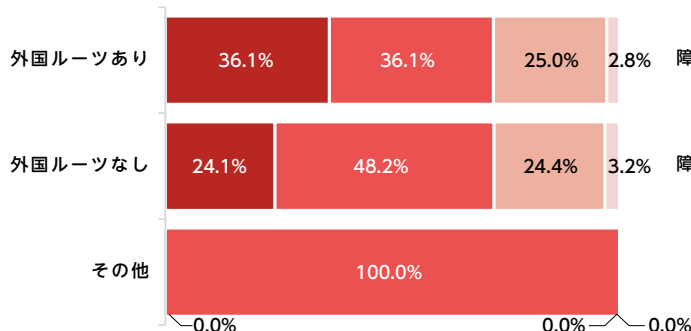
シス男性 (n=199)、シス女性 (n=162)、非シス (n=7)

性的指向別、教職員の学内環境意識（ルーツ）



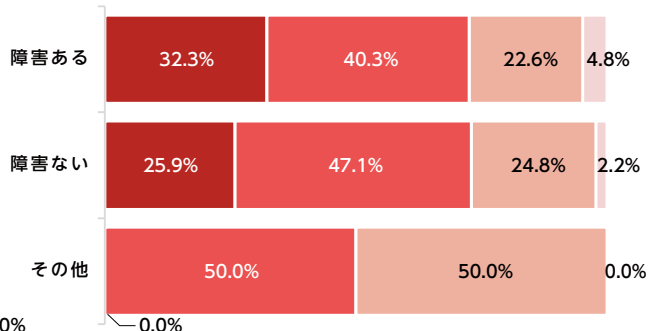
異性愛者 (n=303)、ゲイ・レズビアン (n=4)、バイセクシュアル (n=7)、アセクシュアル (n=3)、その他 (n=6)

外国ルーツの有無と教職員の学内環境意識（ルーツ）



外国ルーツあり (n=36)、外国ルーツなし (n=340)、その他 (n=1)

障害の有無と教職員の学内環境意識（ルーツ）



障害ある (n=62)、障害ない (n=274)、その他 (n=2)

* 本調査における「外国に（も）ルーツを持つ方」は、国籍・出身地域・民族・人種・名前・言語（発音を含む）に関して、日本以外に（も）繋がりがある人を指します。日本で生まれ育った人も、外国で生まれ育った人も含みます。

全体の集計結果

問 8 で、外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うかどうかを尋ねました（教職員）。「思う」が 25.1%、「やや思う」が 47.3% で、肯定的な回答が約 7 割という結果でした。否定的な回答は、「思わない」が 3.4%、「あまり思わない」が 24.3% でした。約 1/4 が否定的な回答をしている一方で、教職員の回答における全体の傾向としては肯定的な回答が多いことがわかります。

学内の立場別による集計結果

「思う」の割合が、有期・兼任教員では 34.7% でしたが、他は 10 ポイント以上低い値でした。「やや思う」は全てのカテゴリーで約 45 ～ 50% でした。「あまり思わない」は専任教員で 28.1%、非専任教員は 27.9% でしたが、有期・兼任教員では 15.3% でした。「思わない」の割合は無期専任教員が 5.7% で、他では 3% 未満でした。肯定的な回答は有期・兼任教員で 80% を超えましたが、他では 70% 前後でした。

■ 年齢別による集計結果

20 代と 30 代では「思う」の割合が 30% 台でしたが、それ以上の年代は 20% 台でした。一方で、「やや思う」の割合は上の年代の方が高い結果でした。ただ、40 代は「やや思う」の割合が 40.8% で 20 代以下と近い値でした。「あまり思わない」の割合は 40 代で 31.6% でもっとも高く、他よりも 5 ポイント以上の差がありました。肯定的な回答の割合は 40 代で低く 65.3% でしたが、他は 71 ～ 79% でした。

■ 性別による集計結果

シスジェンダーの男性と女性を比べると、女性の方が「思う」の割合が 8 ポイントほど低く、「あまり思わない」の割合が 10 ポイントほど高いという差がありました。非シスジェンダーは、シスジェンダーの男性と女性と比べて「思わない」の割合が高いですが、回答数の少なさを考慮する必要があります。シスジェンダーの男性の方が肯定的な回答の割合が高いことがわかります。

■ 性的指向別による集計結果

教職員の回答における性的指向別の集計は、異性愛者以外の回答が少ないため傾向を確認することが困難なため、結果をみる際は考慮する必要があります。

■ 外国ルーツの有無による集計結果

外国ルーツの有無で比較すると、外国ルーツがある回答で「思う」の割合は 36.1% で、外国ルーツがない回答よりも約 12 ポイント高い結果でした。「やや思う」の割合は外国ルーツがある回答の方が約 12 ポイント低いですが、肯定的な回答の割合は外国ルーツの有無で差はみられませんでした。

■ 障害の有無による集計結果

障害の有無で比較すると、障害がないという回答で「思う」の割合が約 6 ポイント低く、「やや思う」の割合が約 7 ポイント高いなど軽微な差はありましたが、肯定的な回答の割合に大きな差はありませんでした。

Question

09

ここまでにお聞きした内容に関連した経験や
あなたの考えや思いなどを以下の自由記述欄に入力してください。

問 9 では、ここまでの質問に関連した経験、考え、思いなどを尋ねました（自由記述）。学生の回答数は 369 件でした。なお、回答が報告書に掲載されることを希望しない場合は問 10 でチェックを入れてもらうという形で、報告書掲載の可否を尋ねました。ここでは、全回答から「類似の内容が複数ある場合、重要な意見と考えて代表的なものを取り上げる」、「本学の現状を具体的に示しており、DE&I の取り組みに資すると認められる具体的な記述を取り上げる」などの選定基準に従って一部の回答を掲載しています。選定の基準の詳細については、〈自由記述の選定〉(p.13)をご覧ください。なお、記入者の匿名性を確実にし、また報告書として読みやすくするために、文章の一部で、回答の部分抜粋・表記の調整などの加工を行っています。

1. キャンパス環境におけるバリア

教室の席と席の間が狭いので車椅子の人などが利用しづらいと思う。
階段や段差が多く、バリアフリーの観点では、身体的に不自由がある人などにとってあまり便利ではないと思う。
多摩キャンパスの教室棟まではずっと上り坂であり、教室の扉のほとんどは重く、引くの力がいる。そのため、車椅子を使っている人だったり、お年寄りの方は利用しにくい作りになっていると考える。また、階段を使用しないルートはあるにはあるが、かなりの遠回りになるため、バリアフリーであるとは言えない。
足を骨折したとき、多摩キャンパスは段差や階段が多く、逆にエレベーターは少なく、大変苦労した。車いすの視点から見たとき、授業のある教室に行くまでに時間がかかると感じた。
インフラ面に関して感じることは多い。新しくできた建物やエリアは広くインクルーシブなイメージがあるが、ヒルトップや古い建物などは通路やエレベーターも狭く、階段も多いと感じる。しばらく前、新しくトイレを設置したという張り紙をみたが、狭く男女が分かれたトイレだったことにはびっくりした。個室式（性的マイノリティの人も利用しやすい）で多機能（車椅子の人も利用しやすい、育児中の学生・教職員も赤ちゃんを座らせられたりおむつ替えができる）なトイレの数も多くないと、そのために長距離を授業の合間に移動しなくてはならず、事実上インクルーシブな大学とは言えなくなってしまう。
ダイバーシティセンターがいつ設立された組織かはわからないが、少なくとも最新のキャンパスである茗荷谷キャンパスは、車椅子利用者にとっては幅が狭く使いにくい、エレベーターの台数が少ない、視覚障害者にとっては点字ブロックがないと感じた。茗荷谷キャンパス設計時にその配慮をする必要があったと思う。
茗荷谷キャンパスはできたばかりだと言うのに、教室の扉は重く、車椅子の人が入りやすい（例えば引き戸など）ものではない。
茗荷谷キャンパスではエレベーター横のスクリーンなどにダイバーシティセンターの情報が掲示されているので、イベントなどの情報を得やすいと感じている。

食堂で英語表記がなくて、留学生の友達が苦勞していた。私もアレルギーの障がいがあるため、食物アレルギー表示がたまにされていないことがあったり、付け合わせに卵が入っているのに卵が入っていないと表示されたりと困ることが多くある。
設備などの説明はできるだけ多くの言語で記載したり、ハラル食品を用意してそのことを示したり、礼拝するための場所を確保するなど、宗教への理解と配慮を進めるべきだと思う。
中央大学の国際化を実現するべく食堂のメニューの多様化や看板や案内掲示板等の多言語表記を増やすべきだ。
図書館には、パソコンを使っていい場所と使ってはいけない場所がある。何気なく机に座ると、日本語で「ここではパソコンを利用してはいけません」と書いてあった。このように至る所で、日本語でのみの表記が目立つ気がする。

2. 授業や課外活動におけるバリア

スポーツや他の部活動で日本人コミュニティができ、留学生が参加しにくいと聞いたことがある。
性別に関して差別や偏見はほぼないと感じるが、様々なルーツを持つ学生が多くないためルーツが特殊になってしまい疎外感を感じる学生は多いのではないかと感じる。
留学生だが、大体の授業は一般的に、先生は外国人がいる前提で授業を進めず、学生を日本人だと想定しながら授業を進める気がする。（留学生を気にかけてくださる先生もいる。）留学生は語学を頑張らないといけないのは当然だが、もう少し先生からたとえばクラスメイトへの紹介やサポートがあるとありがたい。
授業中に自身の性別やルーツに関する発言を求められたり授業の「便宜上」区別されることが多く、違和感がある。
帰国子女の様なバックグラウンドを持つ日本人として、たまに「外人」扱いされる事がある（例えば「外人」と陰口をいわれる）。このような“outsider”とみられる事は悲しい事である。加えて、英語で開講されている授業があまりないのも少し辛い。
セクシュアリティについて、アウティングされたことがある。大学がダイバーシティ宣言やセンターの設置を進めていても、学生や教職員のダイバーシティについての意識が低い（多様な人々がいることが前提となっていない）と感じることが多い。低いばかりでなく、ダイバーシティに対して（明確な理由があるわけではないが）反発を示す学生も周囲におり、そのような人の発言やマイクロアグレッションを受けてしんどいと感じるときがある。ジェンダーやセクシュアリティだけでなく、障害や病気、ルーツに関することでも同様である。
ある授業で恋愛について取り扱ったときに、恋愛対象を「異性」としていた事が辛かった。また、ある教員がくん・さんで呼び分けており、自分の呼ばれたい敬称ではなかったのが苦しくなった。
教員のジェンダー比率が偏りすぎている。女子学生にとってロールモデルに接する機会があまりに少ない。
中央大学に限らないことだが、女性が人の前に自主的に立つ機会が少ないように思う。ある授業の発表でも、学期を通じて自ら発表した女子学生はほんの数人だった。部活においても、部長や副部長などの立場は男性が未だ行っていることから、男女差の壁は大きいと感じる。
初年次演習の担当教員が、男の学生に対して「男たるもの運動するべきではないんですか」と発言していた。また女の学生には～さん、男の学生には～君と使い分けていた。男女に二分されて、気分が良くなかった。
教員が学生を呼ぶ際に～さんで統一するという話を入学ガイダンスで聞いたが、実践している教員が少ない。

3. 取り組みの認知と啓蒙の必要性

ダイバーシティセンターという名称から、そこで行っていることや掲げていることと自分の生活とがあまり関わり合っていないと感じるため、気にすることがなかった。
中央大学のダイバーシティ宣言についてあまり関心を持ってなかったのも、そのようなことにもアンテナを張っておきたいと思った。
ダイバーシティセンターの存在は知っているし興味はあるが、どこから情報を取ってくればいいのか分からない。
ざっくりと「ダイバーシティ」という言葉は耳にするけどあまり内容については知らないなと質問に答える中で気づいた。
茗荷谷キャンパスはエスカレーターやエレベーターが完備されており、障害を持つ方も学びやすい環境が整っていると感じる。しかしながら、ダイバーシティに関する宣言や部署があることは周知されているとは思わないため、積極的に自ら情報を収集する必要がある。
フォレストゲートウェイの掲示などで、宣言やイベントのことを知った。障害や性に関わらず学んだり働ける設備・制度は整っていると思う。一方、人数が多いため、中には理解がなかったり、配慮が足りない人もいると思うので、皆の理解等がもっと広がり深まってほしい。
ダイバーシティセンターの存在は知っているが、具体的な活動内容等に関してよく知らないのも、学内掲示板など誰もが目に留まる場所にチラシを張ってほしい。もっと公な活動を増やし、ダイバーシティに積極的に取り組む様子を学内、学外問わず発信するべきだと思う
中央大学の取り組みは調べないと出てこないものばかりであるように感じる。多様性への取り組みを行っているとは知らなかった。また、性別の多様性を認めている活動も特に目立っている様子はなく、障害のある方が移動しやすい、座りやすい、楽にいられる校舎だとも思わない。
企業のサステナビリティ経営を促す業務に携わっているが、今回のアンケートで初めて中央大学ダイバーシティセンターの存在を知った。早くに知っていれば学生としてもっと協力をしたかった。
ダイバーシティセンターについては全く知らなかった。障害や性の在り方、外国にルーツがあるか否かに関わらず安心して学ぶことのできる環境は必要であると思う。

4. 取り組みや大学への感想・意見・要望

以前ダイバーシティセンターに一瞬立ち寄った際に話した職員が、先日テレビのLGBTQ+の番組に出ていて驚いた。ただそのように接点を増やしてもらうことで、考えるきっかけになった。生理用品のトイレ配布には本当に助かっている。周りでもよく思っている子が多い印象なので、そういった活動をもっと推進して欲しい。もっと生理用品の種類を増やして欲しい。
以前フォレストゲートウェイを利用するときに、ダイバーシティセンター前を通ることがあった。部屋の前にぬいぐるみが置いてあったり案内文が貼られていたり、温かみのある入りやすい雰囲気であると感じた。
障害がある学生にはSA（スチューデント・アシスタント）がサポートをしており、外国に（も）ルーツがある留学生にはピアサポーターがいるため、安心して学んだり働くことができると思うが、性別や性のあり方についての支援制度がまだ不足ではないか。
学内で身体に障害を持つ学生がそうでない学生と共に生活している姿を見たり、一部科目について外国出身の教員が講義をする姿を見ると、本学は教職員や学生の障害の有無や出自、性的指向などに囚われず、純粋に学問的向上心を評価していると感じる。

車椅子の学生が茗荷谷の施設を利用されている光景を見て、ますますダイバーシティーな環境に配慮しなければならないと感じた。
教員が事情があつてお子さんを連れて講義をしている時があり、良いと思った。
通信教育課程では、世代や職業などの環境を超えて学べる風土や環境が整っていると感じる。
ダイバーシティーセンターという専門の組織があることが素晴らしいと思う。他大学の取り組みはあまり知らないが、専門の部屋もあり、多様性に富んでいるように感じる。
学生は全体的に近年の性別などの多様性を広く認めることができていると思う。そこで、障害を持っている方や外国の方を皆が認めた上で少しも特別な眼差しを向けることがないようにすることが大切だと思う。バリアフリー化のより積極的な導入や、普通の学生の授業にそう言った方々がいるのが当たり前になるようなキャンパスになればいいと思う。
様々なバックグラウンドを持つ人たちに平等に学んだり、働いたりする機会を与えようという姿勢を持つことが大事だと思った。
外資の企業に勤めているのでダイバーシティーへの理解は深いと思っている。中小企業の方や学生は自身の興味がないと理解が深まらないと思うので、半強制的に機会を提供することが大事だと思う。例えば必須の履修科目にするなど、もっと広く目に触れるプロモーション、メッセージアウトが必要だろう。意識の改革は、本当に時間がかかるので、学ぶ意欲のある方、若い方に対して学校はもっとインプットして欲しい。
ダイバーシティーセンターで得られたつながりは安心できる人が多く、その点についてはダイバーシティーセンターという拠点があることのメリットを強く感じている。コーディネーターの方の存在も安心につながっている。

Question

09

ここまでにお聞きした内容に関連した経験やあなたの考えや思いなどを以下の自由記述欄に入力してください。

問 9 では、ここまでの質問に関連した経験、考え、思いなどを尋ねました（自由記述）。教職員の回答数は 128 件でした。なお、回答が報告書に掲載されることを希望しない場合は問 10 でチェックを入れてもらうという形で、報告書掲載の可否を尋ねました。ここでは、全回答から「類似の内容が複数ある場合、重要な意見と考えて代表的なものを取り上げる」、「本学の現状を具体的に示しており、DE&I の取り組みに資すると認められる具体的な記述を取り上げる」などの選定基準に従って一部の回答を掲載しています。選定の基準の詳細については、〈自由記述の選定〉(p.13)をご覧ください。なお、記入者の匿名性を確実にし、また報告書として読みやすくするために、文章の一部で回答の部分抜粋・表記の調整などの加工を行っています。

1. キャンパス環境におけるバリア

多摩キャンパスは、建物がいろいろとあり、移動のためのエレベーターの位置がわかりにくく、スロープも少なく感じる。そのため、車椅子を使われる方には不便ではないかと感じる。また、英語表記が少なく、日本語のわからない方にとって難しいのではないかと感じる。
以前車椅子の学生の補助をしてエレベーターに乗ろうとしたら満員で、健常者の学生が誰も降りてくれず、一台待たなければならなかった。障害者がどのような助けを必要としているかについての教育が不十分だと思ったし、自分が「降りてください」とはっきり言えなかったことについても反省させられた。
アップダウンの多い環境であるのにエレベーター等の access が悪く、建物間の移動が困難。
棟によっては誰でもトイレの整備が数・位置ともに不十分なので、障害のある人・男女別トイレに抵抗がある人にとっては長時間居づらいキャンパスになっているのではないかと感じる。
AI 等を活用して、キャンパス内の表示の多言語化と点字表示を増やしてほしい。
施設のデザインが例えば車いすでの移動には多くの経路が狭く、また弱視に対応した積極的なデザインが確認できていない。開放的なことも重要だが、誰であれ、ある程度プライバシーの守られる形で食事はしたい、複雑な問題を話合いたい、ちょっと一人でボーっとしたいなど、そうした人々の想いは尊重されていないように感じる。そうした中で、「多様性は尊重されるべき」ということだけが強調されると、ちょっとした本音や疑問を発することが難しくなり、何もしないことにより問題化をさける空気が広まる可能性もあるのではと危機感を感じることはある。
山にありバリアフリーとは行かないことが多くあり、その他環境が整ってるとも言い難いが、ダイバーシティセンターの普及啓発により、構成員一人ひとりのマインドは変わりつつあると思う、私もその一人として施設の不備をなげくのではなく、どうしたら解決するか、より良くなるかを常に考えるようになった。
学生もスタッフも人数が多いことは、学生同士や職員同士の助け合いが出来ることにもつながるのではないかと感じる。

2. 授業、学生対応等におけるバリア

教員が学生に外見と国籍が合わない、という旨の発言をし、ルーツについて尋ねる、学生が自らのルーツを周囲に知られたくないと感じる、留学生との交流を希望する学生が欧米諸国からの留学生限定での交流を希望するなど、問題を感じることがある。
情報発信がどうしても日本人学生向けになってしまい、留学生に対して十分な情報を提供できているかがわからない。
障害のある複数の学生が、善意のある教職員のサポートは得られたものの、そのサポートは決して十分ではなく、その学生の要求に大学は応えられていないという経験をした。
性的マイノリティの学生がゼミを移らざるをえない例や、先生がそのような学生に対し冷静で公平な態度をとれない例を知っている。学生たちも多様な性別や性のあり方に理解がある者とそうでない者がいて、その差がなかなか埋まらない。
ダイバーシティセンターを設け、明確なメッセージを打ち出していることは価値ある取り組みであると考え。一方で障がい学生が授業の中で公平に学ぶことができているかと問われれば、完全にバリアを払しょくすることは難しく、教員として葛藤を抱えたこともある。例えば、グループディスカッションの際、他の学生との発話の速度やインタラクションで限界があり、教員として周囲の学生に関わり方を示したものの、自然な形でサポートを期待することは困難だった。性的マイノリティについては授業の中で学習内容として扱ったところ、学生から「友人からカミングアウトがあったので、どうしてよいかわからなかった。授業で学べて助かった」というコメントがあった。
障がいを持つ入学希望者への対応経験より、ダイバーシティを意識して予め対策を検討し、実施する体制が本学にはないこと、受け入れる際には教員にそれなりの負担がかかるものの、それをサポートする体制が不十分であることを実感した（on demand 体制）。
学部1年次からキャリア教育をするのも大切なことと思うが、人権・ジェンダー・労働問題・包括的性教育など個人が社会を生きていく上での基盤となる教育をすべきではないか（特に大学院教育について専門教育と合わせて実施するべきと思う）。教職員も余裕がなく、短期的な数字に追われている中でこういった問題が後退していると思う（教育としても、自分たちに関わる問題としても）。教職員も定期的に研修を受講するべきではないか。教員・学生はこれらの問題について意識・見識がある、なしの格差が大きすぎる。主催イベントも残念ながら全学的なイベントになっているとはいいがたい（どうすれば学生・教職員の参加者が増えるか。参加してほしい学生、教職員こそ不参加の現実）。

3. 職場環境におけるバリア

高齢に伴い障害を得た教職員が早期退職する例を複数見ており、自分がそうなってサポートを得ながら働きたいと思ったときに、サポートを得られる職場であるのか、疑念を持っている。
単純に、女性の教職員・学生の数が少ない。女性にとって働きやすい・学びやすい環境とは何かについて、ごく基本的なことから情報共有することが必要。男性の視点からは気づきにくいことがある。
育児や介護を担っている教職員が働きやすい環境ではない。土曜の勤務が頻繁にあること、当該教職員が必ず出席しなければならない委員会が多い、17 時以降の講義が少なくない。
性別が関係ない場面で性別欄の記載があること（例えば履修者リスト）、扶養家族がいるときの補助に事実婚は含まれているのに同性パートナーが含まれていないこと、など性的マイノリティに対する配慮がないことは当事者として非常に腹立たしく思う。
結婚しなかったり、子供を持たない生き方に対して、なぜそういう選択肢を選ばないのかと言われることがある。時代錯誤の考え方だと思うし、正直その度に、大多数が選択してこなかった選択を選ばなかった自分の生き方がおかしいのではないかと、落ち込んだり傷つくことがある。多様性と言われる時代がきて、とても生きにくい組織だと感じる。
学科全体の教員打ち合わせで、何年も女性教員が自分を含め 1 ～ 3 人（しかも全員兼任）しかいないのを見るたびに非常に残念に思う。10 年以上この状態で、女性の常勤教員が増える未来はあるのだろうか、と疑問に思う。
外国籍の教員が日本国籍の教員と同等に扱われないことがある。（英語回答）
日本語のみの案内、通知が大半であるため、日本語を十分に理解できない方への配慮が不十分。障害のある方については、改善はしつつあるが、「不自由なく」にはまだ至っていないと思う。

4. 取り組みや大学への感想・意見・要望

ジェンダーバイアスなどについて、意識的な働きかけをしないと変わらない場合が多いと思うが、働きかけの取組は弱いと思う。困っている人の窓口はあるが、困っていない多くの人への働き掛けも必要だと考える。
あまり本学の制度は知らないが、同性パートナーシップを結んだ教職員に対して、結婚休暇やお祝い金を付与する制度はあるのか。民間企業では、こういう制度を設けている企業が多くなっているとニュースで見たことがあり、本学の場合はどうなっているのかと疑問に思った。
学生への働きかけは比較的進んでいると思うが、年齢の高い層に関してはほとんど実態を伴っておらず、今後の積極的取り組みを望む。例えば、教職員の構成において上位管理職（学長や学部長含む）に女性が少ない、外国語教育において欧米系以外の native 講師が少ない（いない？）、など、無意識の偏見に基づいて多様性が損なわれていると感じる。
ダイバーシティを推進することはよいことだが、名前だけでなく内実を充実してほしい。例えば授業時に配慮すべきことなど具体的に提示、教示してほしい。
立場によりその不便さは理解されないことも多く、聞いて初めてわかることも多かった。今回のアンケートでも、相互理解が進むことを期待する。
本学はまだ研究教育も含めてダイバーシティ推進を進める余地があると思う。障害に関する施設的なバリアは改善されているが、少数者の受容は構成員の意識にかかっている。現状でも大きな問題を感じるわけではないが、さらに取り組みを進めてほしい。（英語回答）

Question

11

学 生

教職員

属性 | 学生か教職員か (問 11)

あなたにあてはまるものを以下から選択してください。

中央大学の学生（大学院生、留学生含む）

78.6%

学校法人中央大学の教職員

21.4%

n=1,800

■ 集計結果

問 11 では、中央大学の学生（大学院生、留学生含む）であるか、学校法人中央大学の教職員であるかを尋ねました。総回答数 1,800 のうち、78.6% が学生、21.4% が教職員という結果でした。本報告書では、この質問への回答によって学生と教職員を分けて集計しています。それぞれの回収率については、＜回収状況＞(p.7)のページを参照してください。

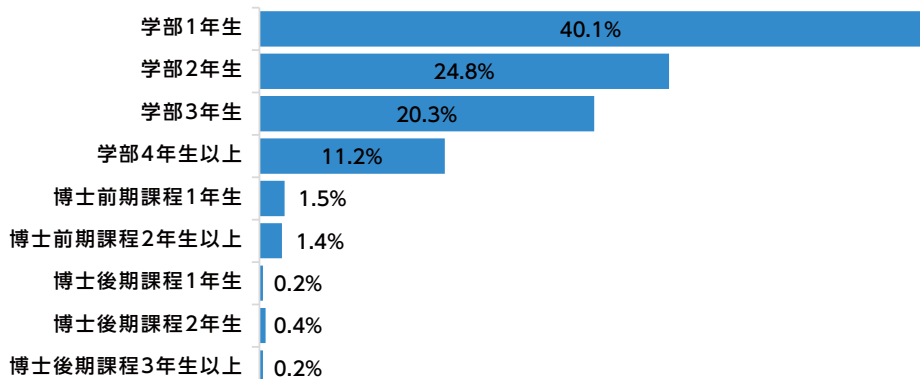
Question

12a

学 生

属性 | 学生 | 学年 (問 12a)

あなたの学年を教えてください。



n=1,392

* 休学等の事情を考慮し、最終学年の後に「以上」を加えて尋ねました。

■ 集計結果

問 12a は、問 11 で「中央大学の学生（大学院生、留学生含む）」を選択した場合に、現在の学年を尋ねました。その結果、学部は1年生が40.1%、2年生が24.8%、3年生が20.3%、4年生以上が11.2%でした。博士前期課程は1年生と2年生以上を足して2.9%、博士後期課程は1年生、2年生、3年生以上を足して0.8%という結果でした。このように、本調査は学部生からの回答が95%以上を占め、学部生の中では1年生からの回答が多かったことがわかります。

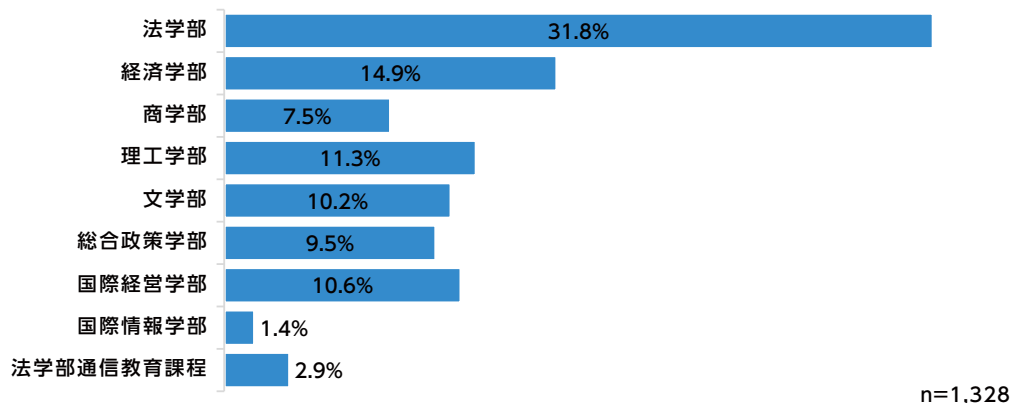
Question

13a1

学生

属性 | 学生 | 学部 (問 13a1)

あなたの所属を 1 つだけ選んでください。



■ 集計結果

問 13a1 は、問 12a で「学部 1 年生」「学部 2 年生」「学部 3 年生」「学部 4 年生以上」と回答した場合に、所属学部を尋ねました。その結果、もっとも多かったのが「法学部」で 31.8% でした。二番目に多かったのが、「経済学部」で 14.9%、三番目に多かったのが「理工学部」で 11.3% でした。その他に 10% を超えたのは、「国際経営学部」(10.6%) と「文学部」(10.2%) でした。学部ごとに回答数に違いがあることがわかります。

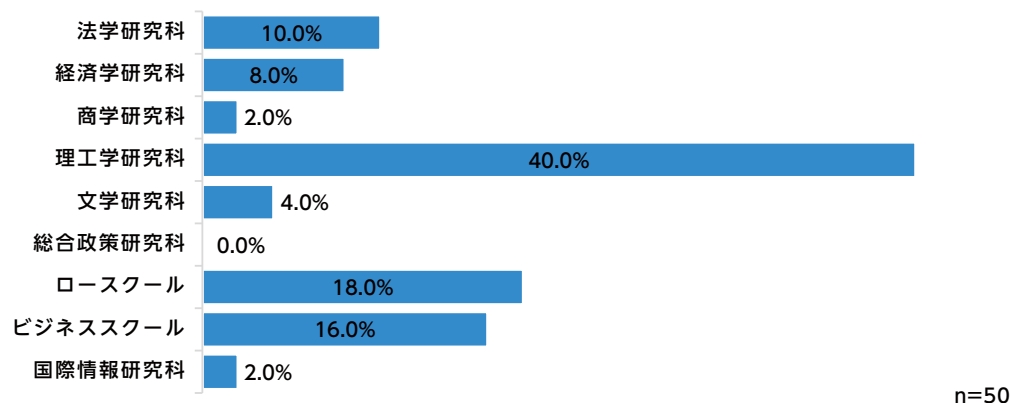
Question

13a2

学生

属性 | 学生 | 研究科 (問 13a2)

あなたの所属を 1 つだけ選んでください。



■ 集計結果

問 13a2 は問 12a で「博士前期課程 1 年生」「博士前期課程 2 年生以上」「博士後期課程 1 年生」「博士後期課程 2 年生」「博士後期課程 3 年生以上」と回答した場合に、所属研究科を尋ねました。その結果、もっとも多かったのが「理工学研究科」で 40.0% でした。二番目に多かったのが、「ロースクール」で 18.0%、三番目に多かったのが「ビジネススクール」で 16.0% でした。その他に 10% 以上になったのは、「法学研究科」(10.0%) でした。研究科ごとに回答数に違いがあることがわかります。

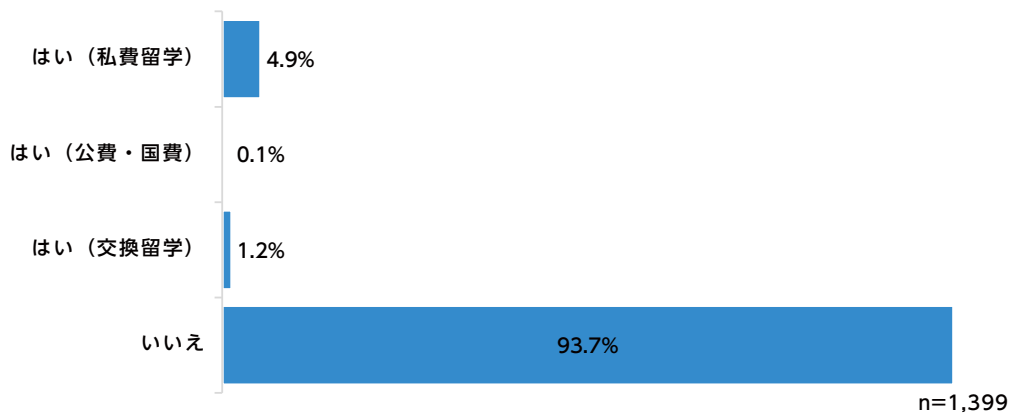
Question

属性 | 学生 | 留学生 (問 14a)

あなたは留学生にあてはまると思いますか。

14a

学生



■ 集計結果

問 14a は、問 11 で「中央大学の学生（大学院生、留学生含む）」を選択した回答に、留学生にあてはまるかどうかを尋ねました。その結果、「いいえ」が 93.7% でした。留学生にあてはまるという回答の中では、「はい（私費留学）」がもっとも多く 4.9% で、「はい（交換留学）」は 1.2%、「はい（公費・国費）」は 0.1% という結果でした。本調査における学生の回答は、9 割以上が留学生ではないことがわかります。

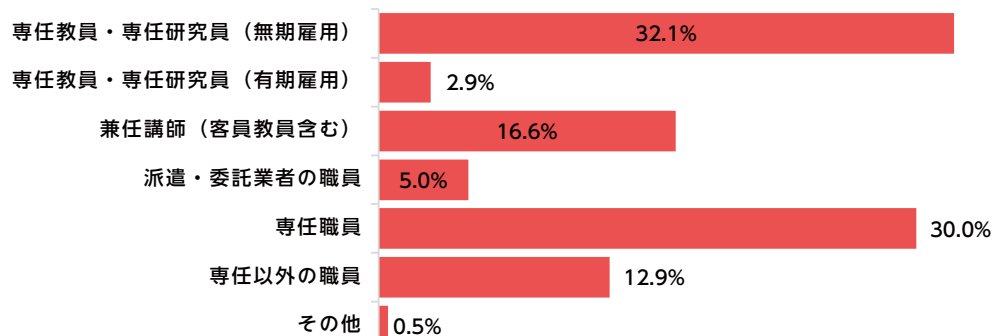
Question

属性 | 教職員 | 学内の立場 (問 12b)

あなたの立場を教えてください。

12b

教職員



■ 集計結果

問 12b は、問 11 で「学校法人中央大学の教職員」を選択した回答に、学内での立場を尋ねました。教員や研究員の結果からみると、「専任教員・専任研究員（無期雇用）」が 32.1%、「専任教員・専任研究員（有期雇用）」が 2.9%、「兼任講師（客員教員含む）」が 16.6% でした。一方、職員は「専任職員」が 30.0%、「専任以外の職員（中央大学に直接雇用されている職員：室員・嘱託職員・パートタイム職員・教育技術員等）」が 12.9%、「派遣・委託業者の職員」が 5.0% でした。そして、「その他」は 0.5% でした。このように、本調査における教職員の回答は、教員または研究員と職員がおおむね近い割合であることがわかります。

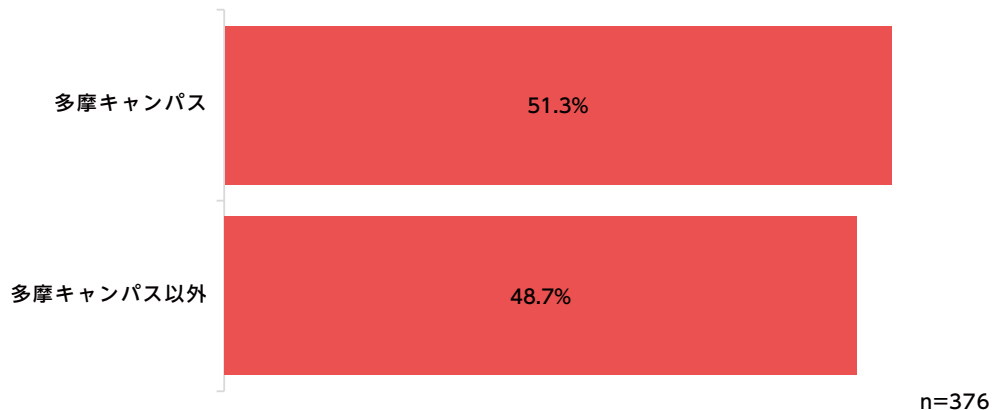
Question

13b

教職員

属性 | 教職員 | 勤務地 (問 13b)

あなたの勤務地を教えてください。



*調査票で、勤務地が複数ある場合は主な勤務する場所を選ぶように案内しました。

■ 集計結果

問 13b は、問 11 で「学校法人中央大学の教職員」を選択した回答に、勤務地を尋ねました。その結果、「多摩キャンパス」が 51.3%、「多摩キャンパス以外」は 48.7% という割合になりました。「多摩キャンパス以外」は複数の勤務地を含んでいるため、「多摩キャンパス」の割合が高いことがわかります。

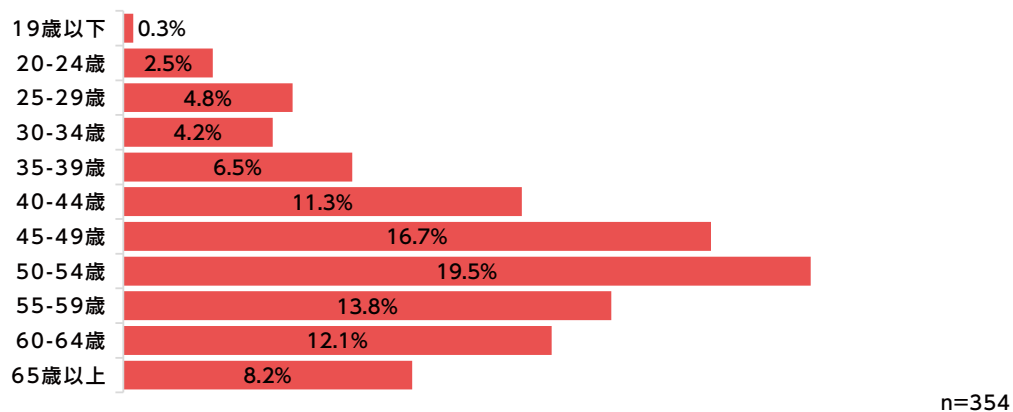
Question

14b

教職員

属性 | 教職員 | 年齢 (問 14b)

あなたの年齢を教えてください。



■ 集計結果

問 14b は、問 11 で「学校法人中央大学の教職員」を選択した回答に、年齢を尋ねました。年齢は「19 歳以下」と「65 歳以上」以外は 5 歳刻みで選択肢を用意しました。

結果として、「19 歳以下」は 0.3%、20 代は「20-24 歳」が 2.5%、「25-29 歳」が 4.8%、30 代は「30-34 歳」が 4.2%、「35-39 歳」が 6.5% でした。40 代は「40-44 歳」が 11.3%、「45-49 歳」が 16.7%、50 代は「50-54 歳」が 19.5%、「55-59 歳」が 13.8% でした。そして、「60-64 歳」は 12.1%、「65 歳以上」は 8.2% でした。このように、40 代以上で約 8 割、50 代以上で約 5 割になることがわかります。

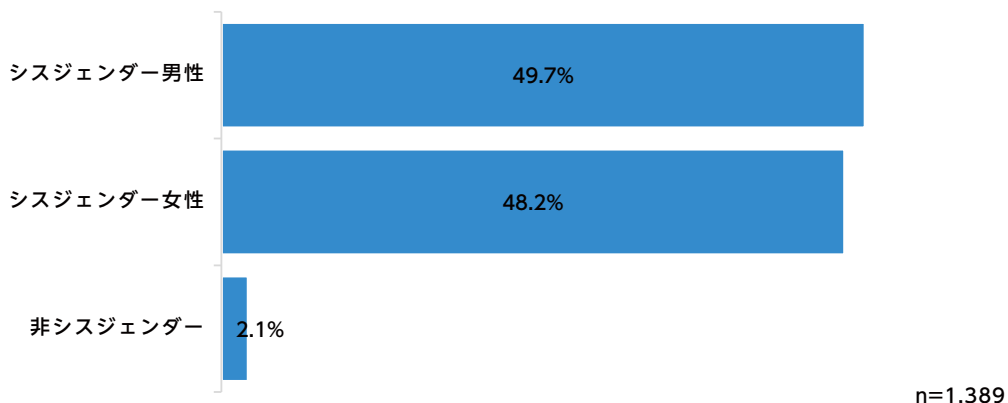
Question

15/16

学 生

学生 | 性別 (問 15、16)

*本調査では、問 15「あなたの今の認識にもっとも近い性別を選んでください。」と問 16「あなたは今の自分の性別を、出生時に判断された性別と同じだと思いますか。」の結果の組み合わせにより、「シスジェンダー男性」「シスジェンダー女性」「非シスジェンダー」という 3 つのカテゴリーで集計しました。組み合わせの詳細については、<性別> (p.11) をご覧ください。



■ 集計結果

学生の回答における性別の分布は、「シスジェンダー男性」が 49.7%、「シスジェンダー女性」が 48.2%、「非シスジェンダー」が 2.1% という結果でした。このように、回答の大半がシスジェンダーであり、シスジェンダー男性とシスジェンダー女性の割合に差はみられませんでした。

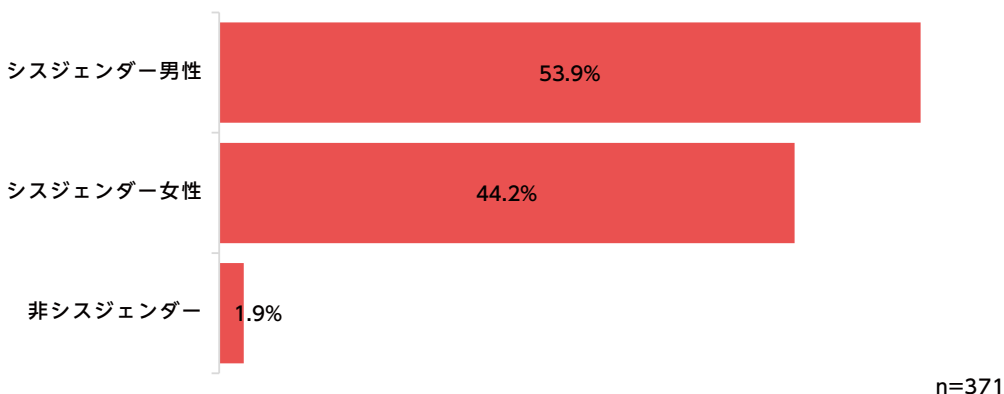
Question

15/16

教職員

教職員 | 性別 (問 15、16)

*本調査では、問 15「あなたの今の認識にもっとも近い性別を選んでください。」と問 16「あなたは今の自分の性別を、出生時に判断された性別と同じだと思いますか。」の結果の組み合わせにより、「シスジェンダー男性」「シスジェンダー女性」「非シスジェンダー」という 3 つのカテゴリーで集計しました。組み合わせの詳細については、<性別> (p.11) をご覧ください。



■ 集計結果

教職員の回答における性別の分布は、「シスジェンダー男性」が 53.9%、「シスジェンダー女性」が 44.2%、「非シスジェンダー」が 1.9% という結果でした。このように、回答の大半がシスジェンダーであり、シスジェンダーの中では男性の方が女性よりも 10 ポイントほど割合が高いことがわかります。

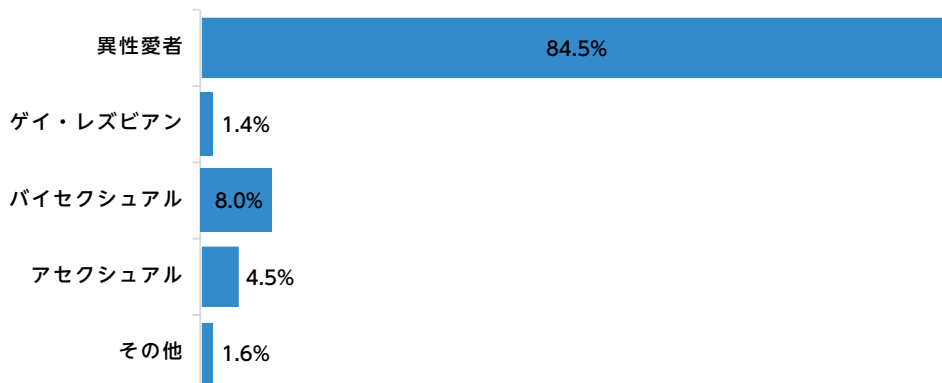
Question

17

学生

学生 | 性的指向 (問 17)

次の中であなたは次のどれにあてはまると思いますか。



n=1,249

* 認知度の差を考慮し、調査では性的指向という用語を使用せず、「次の中であなたは次のどれにあてはまると思いますか。」と質問しました。

■ 集計結果

問 17 で、性的指向（性愛の対象となる性別）を尋ねました（学生）。その結果、84.5% が異性愛者、ゲイ・レズビアンが 1.4%、バイセクシュアルが 8.0%、アセクシュアルが 4.5%、その他が 1.6% でした。異性愛者が 8 割以上になる一方、それ以外の回答も一定数あることがわかります。異性愛者以外では、バイセクシュアルを選んだ割合が高い結果でした。

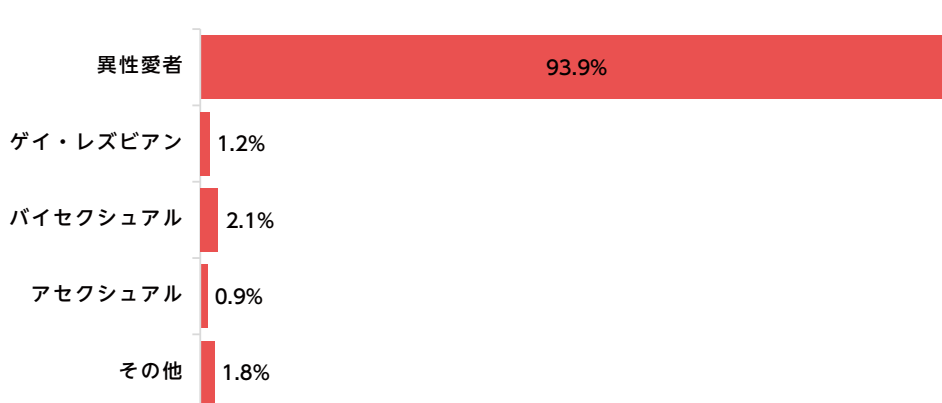
Question

17

教職員

教職員 | 性的指向 (問 17)

次の中であなたは次のどれにあてはまると思いますか。



n=326

* 認知度の差を考慮し、調査では性的指向という用語を使用せず、「次の中であなたは次のどれにあてはまると思いますか。」と質問しました。

■ 集計結果

問 17 で、性的指向（性愛の対象となる性別）を尋ねました（教職員）。その結果、93.9% が異性愛者、ゲイ・レズビアンが 1.2%、バイセクシュアルが 2.1%、アセクシュアルが 0.9%、その他が 1.8% でした。異性愛者が 9 割以上になる一方、それ以外の回答も一定数あることがわかります。異性愛者以外では、バイセクシュアルを選んだ割合が高い結果でした。

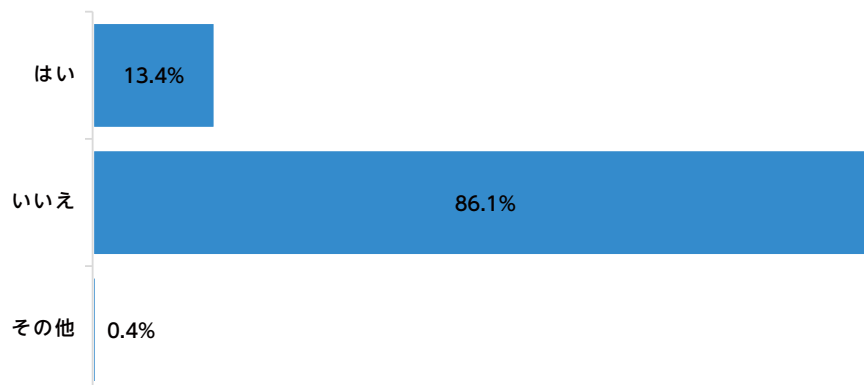
Question

18

学生

学生 | 外国ルーツ (問 18)

あなたは外国に（も）ルーツを持っていますか。



n=1,392

*本調査における「外国に（も）ルーツを持つ方」は、国籍・出身地域・民族・人種・名前・言語（発音を含む）に関して、日本以外に（も）繋がりがあある人を指します。日本で生まれ育った人も、外国で生まれ育った人も含みます。

■ 集計結果

問 18 で、外国に（も）ルーツを持っているかどうかを尋ねました（学生）。その結果、外国に（も）ルーツを持っているという回答（「はい」）が 13.4%、持っていないという回答（「いいえ」）が 86.1%、その他が 0.4% でした。学生の回答の 1 割以上が外国に（も）ルーツを持っていることがわかります。

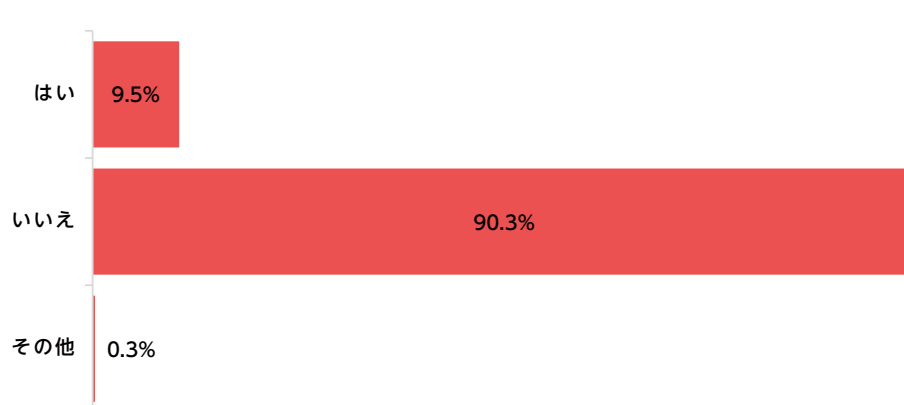
Question

18

教職員

教職員 | 外国ルーツ (問 18)

あなたは外国に（も）ルーツを持っていますか。



n=380

*本調査における「外国に（も）ルーツを持つ方」は、国籍・出身地域・民族・人種・名前・言語（発音を含む）に関して、日本以外に（も）繋がりがあある人を指します。日本で生まれ育った人も、外国で生まれ育った人も含みます。

■ 集計結果

問 18 で、外国に（も）ルーツを持っているかどうかを尋ねました（教職員）。その結果、外国に（も）ルーツを持っているという回答（「はい」）が 9.5%、持っていないという回答（「いいえ」）が 90.3%、その他が 0.3% でした。教職員の回答の 1 割弱が外国に（も）ルーツを持っていることがわかります。

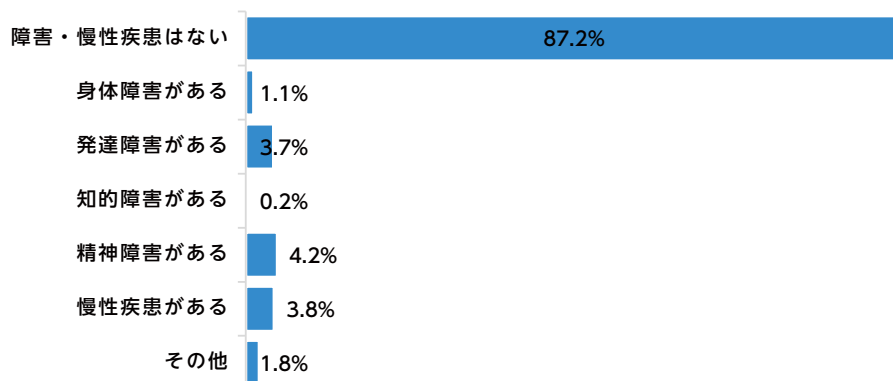
Question

19

学生

学生 | 障害 (問 19)

障害や慢性疾患がありますか。(複数選択可)



n=1,214

*調査票に、本調査における障害は障害者手帳や診断の有無は問わないことを案内しました。

■ 集計結果

問 19 で、障害や慢性疾患があるかどうかを複数回答で尋ねました（学生）。その結果、「障害・慢性疾患はない」の割合がもっとも高く、87.2% でした。「身体障害がある」は 1.1%、「発達障害がある」は 3.7%、「知的障害がある」は 0.2%、「精神障害がある」は 4.2% でした。「慢性疾患がある」は 3.8%、「その他」は 1.8% という結果でした。このように、学生の回答の「障害・慢性疾患はない」が 9 割近くになる一方、「障害・慢性疾患はない」以外では「発達障害がある」「精神障害がある」「慢性疾患がある」の回答が比較的多く、4% 前後になることがわかります。

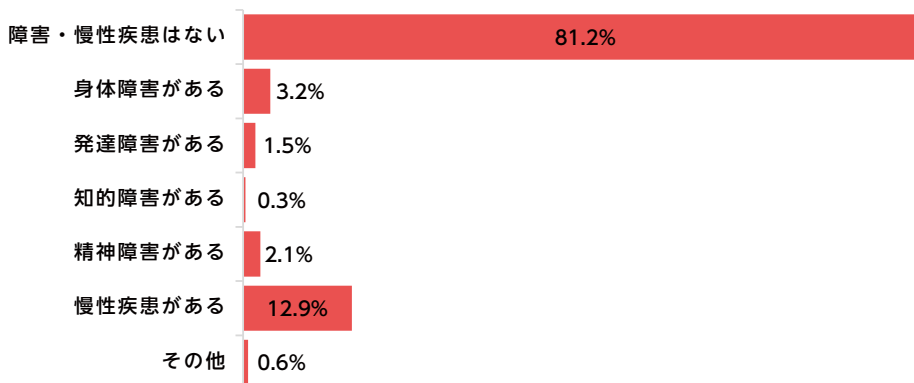
Question

19

教職員

教職員 | 障害 (問 19)

障害や慢性疾患がありますか。(複数選択可)



n=341

*調査票に、本調査における障害は障害者手帳や診断の有無は問わないことを案内しました。

■ 集計結果

問 19 で、障害や慢性疾患があるかどうかを複数回答で尋ねました（教職員）。その結果、「障害・慢性疾患はない」の割合がもっとも高く、81.2% でした。「身体障害がある」は 3.2%、「発達障害がある」は 1.5%、「知的障害がある」は 0.3%、「精神障害がある」は 2.1% でした。「慢性疾患がある」は 12.9%、「その他」は 0.6% という結果でした。このように、教職員の回答の「障害・慢性疾患はない」が約 8 割になる一方、「障害・慢性疾患はない」以外では「慢性疾患がある」の割合がもっとも高く、10% 以上になることがわかります。

Question

20

本アンケートに関するご意見などがございましたら、
以下の自由記述欄に入力してください。

問 20 は、調査に対する意見等を尋ねました（自由記述）。学生の回答数は 62 件ありました。なお、回答が報告書に掲載されることを希望しない場合は問 21 でチェックを入れてもらうという形で、報告書掲載の可否を尋ねました。ここでは、全回答から選定基準に従って抜粋・加工した一部の回答を掲載しています。選定の基準の詳細については、〈自由記述の選定〉(p.13)をご覧ください。

1. アンケート自体への意見

個人が特定されないような本アンケートの実施により、意見する機会を得る者を創出できる点において高く評価する。
このような取り組みはダイバーシティセンターを知るきっかけにもなりそこから考えを広げていけると感じた。
SNS で告知されているのを見かけて回答した。manaba 上での通知のみだと気づきづらいので、良い取り組みだと思う。
アンケートの題名を改善すべきだと思う。ダイバーシティ推進のアンケートと言われても、何に対するアンケートなのかひと目で分からない。
選択肢の文言が性的マイノリティの人などに配慮していて良かった。
性的マイノリティや障害、国籍など、それぞれの数を把握してどうするつもりなのか。なぜ聞かれないといけないのか、把握してどうするつもりなのかという違和感や不快感を持った。
属性（ルーツ等）に関しての質問が多かったが、そうした事柄に対する公的な統計（？）は見る機会が少ないので、多様性に対して学生・教職員が理解を深めるためにもこのような調査が今後も継続することを期待する。

2. 本学の取り組みについての期待や要望

具体的にどういう取り組みをしているのかもっと張り紙などでもアピールしてほしい。中央大学は広いので、何か活動があっても一部にしか知られない傾向にあると思う。海外関係は留学生の方を見かけたりするので充実していそうだが、性別や障害に関して動きがあるようには見えなかった。
中央大学は留学生と関わることができる機会が少ないように感じる。もしかしたら茗荷谷では人数が少ないのかもしれない。しかし、せっかくの大学生活なので国内の様々な出身地の人達だけでなく多様な国の人と関わりたい。
中央大学のダイバーシティについて、現在ほとんど知らないなので、今後知っていきたいし、利用できることがあれば利用していきたい。

Question

20

本アンケートに関するご意見などがございましたら、
以下の自由記述欄に入力してください。

問 20 は、本調査に対する意見等を尋ねました（自由記述）。教職員の回答数は 36 件ありました。なお、回答が報告書に掲載されることを希望しない場合は問 21 でチェックを入れてもらうという形で、報告書掲載の可否を尋ねました。ここでは、全回答から選定基準に従って抜粋・加工した一部の回答を掲載しています。選定の基準の詳細については、〈自由記述の選定〉(p.13)をご覧ください。

1. アンケート自体への意見

本アンケートの実施に感謝する。大学全体を動かす可能性を秘めた、貴重なアンケートだと思う。

キャンパスの構成員にどんな方がいるのかわかるのはいいことだと思う。悩みを抱えている方が多いのであれば、より生きやすいキャンパスのあり方を考える一助になるのではと思いながら回答した。

このようなアンケートを繰り返し実施することで、少しでも風土が変わってもらうことを期待したい。民間企業からは周回遅れだと感じる。

このアンケートだと「具体的にどこに問題があるのか？」を浮かび上がらせるのが難しいのではないかな

環境的な問題点を掘り上げるためのアンケートであるにもかかわらず、回答者の性的指向等の属性を尋ねてくることに疑問を感じた。当事者であっても無くても問題点は指摘できると考える。組織内にどれだけ当事者が存在するのかを把握したいならばそのためのアンケートを実施すればよいのではとも思う。

2. 本学の取り組みについての期待や要望

障がい、性的マイノリティや外国にルーツを持つ学生のほか、帰国生も支援の対象になりうると考えるが、具体的な取り組みなどはあるのだろうか。レポート作成を英語で許可する、日本語サポート教室を用意するなど。また、複合的なマイノリティ性をもつ学生 / 職員もいることが想定されるので、カテゴリーカルではない支援の体制（柔軟なサポートシステムの運用や連携など）があるとよいと思う。

最終的な所管はダイバーシティセンターになるとしても、学内のあちこちに受け皿となるようなスポットがあるのが理想ではないかと思う。ユニバーサルな視点で学内制度や施設の充実が進むことを祈っている。センターの益々の活躍を応援している。

Ⅲ 結果から見えること

本調査は、中央大学で初めて学内における DE&I の現状把握を試みたアンケート調査です。したがって、結果を比較できる類似の調査は学内にはありません。また、回答率は学生約 5%、教職員約 10% にとどまり、その中でも所属組織やキャンパスによる偏りもあるため、この結果から見えることがすなわち大学全体の現状であると言えるわけではありません。そうした限界を踏まえた上で、集められたデータの分析と考察を行いました。

【取り組みの認知度】

学生より教職員の方がダイバーシティ推進の取り組みに対する認知度が高くなりました。この背景として、教職員は業務として学内の取り組みについて把握することを促される可能性と、教職員の立場に在ることにより情報が集まりやすい構造が考えられます。例えば、学生は入学時のガイダンス等を除いて、自身で調べるか、学内の掲示物や学内システムに掲載されている内容を選んで読む必要があります。一方で、教員は教授会、職員は回覧資料などを通して知る機会が多い可能性があります。無期雇用の専任教職員と比べて、それ以外の教職員では認知度が低いことも、同様の背景があるかもしれません。

GS ハンドガイドの認知度が低くなりました。これについては、他の取り組みと比べて、冊子について知る機会が少ないことがあげられます。ダイバーシティセンター自体はキャンパスによっては偶然目にする機会もありますし、イベントなどはポスターなどを見かけたりすることがありますが、冊子は特定の機会がないと知らないままになる可能性があります。

学生の回答で、性別や性的指向についてマイノリティ性があると考えられる属性（非シスジェンダーや異性愛者以外の性的指向、シスジェンダー女性も）で全般に認知度が高くなりました。同様の傾向は障害についての属性でも確認されました。ダイバーシティ推進の取り組みとその属性に何らかの相関関係がある可能性があります。例えばその属性と関連した経験からダイバーシティ推進に関心を持ちやすい可能性や、大学生活に困難を抱えているため情報を入手する必要があるといった可能性が考えられます。

【学内環境への意識】

全ての質問において、学内環境について肯定的に捉える回答が否定的な回答を一定程度上回りました。学内環境にダイバーシティ推進の観点でどのような問題や課題があると認識して回答しているのか、本調査だけではわかりません。肯定的な評価と否定的な評価がそれぞれどのような経験や意識に基づいており、どのような課題を示しているのかを把握するには、更なる調査が必要です。

障害、性、外国ルーツで比較すると、障害に関連する環境に対しては、肯定的な回答の割合がやや低くなりました。障害は物理的なバリア（段差や階段など）という形で学内環境の課題を認識しやすいことが回答に影響した可能性があります。物理的なバリアのみが学内環境における課題ではないため、課題が可視化されやすいか否かという視点でさらに検証する必要があります。同様に、性や外国ルーツは障害に比べて環境としての課題が可視化されていない可能性もあります。性や外国ルーツについての知識・理解の差によって、学内環境への評価が変わるかもしれません。本調査では、学年が上がることで性や外国ルーツに関連する環境について肯定的な回答が減る傾向がみられましたが、これもその可能性を検討する意義を示すものです（知識の差ではなく、学内外での経験が増えることで認識が変わる可能性もあります）。

教職員の立場でみると、有期・兼任教員で学内環境に肯定的な回答が多い傾向がありました。学生や他の教職員と接する機会、ないし学内の状況を知る機会の多寡が関係していることも考えられます。例えば、有期・兼任教員は学生と授業を中心に関わることが多く、専任教職員と比較すると、担当する業務や学内で利用する施設が限定される傾向にあると考えられます。結果として、学内の状況を知る機会に差ができ、他の教職員と比べて回答傾向に違いがみられたと解釈することができます。

性別や性的指向について学内環境への意識をみると、認知度と同様に、マイノリティ性があると考えられる属性（例えば非シスジェンダーや異性愛者以外の性的指向。シスジェンダー女性も）において肯定的な回答が少ない結果でした。マイノリティ性があることで、学内環境についてより問題や課題を見つけやすい、または学内で困難を経験しやすいために評価が低くなるなど、様々な解釈が可能です。学生の回答では、同様のことが外国ルーツのある回答にもみられました。一方で、外国ルーツがある教職員で必ずしも同様の傾向はみられず、より詳細な検討が必要です。障害の有無についても、性別や性的指向と同じような回答傾向の違いは確認されませんでした。属性と回答傾向の関連は複雑な面があると考えられます。（マイノリティ性があると考えられる属性の回答数にも留意する必要があります。）

【自由記述について】

自由記述では、特に学生の回答で、キャンパスにおける物理的バリア（段差や階段など）を指摘する回答の数が他の内容の回答数を大きく上回りました。これも、物理的なバリアとしての課題が可視化されやすく認識されやすい可能性を示唆すると考えられます。

同じく学生の回答で、障害、性、外国ルーツという設問に対応する形で、そのうちのどれかについては課題や取り組みを認識しているが、それ以外については知らないという回答が複数ありました。個々の構成員において環境や取り組みが領域横断的に認識されておらず、自身の経験や属性、関心に基づく部分のみが可視化されている可能性があります。

【今後について】

今回の調査結果は、今後の学内における DE&I 施策を進める上で、貴重なデータとして参照していきます。

学生における認知度の結果から、学生への情報発信および啓発をさらに進める必要があります。その際、関心がある、ニーズがある学生に情報を届けることはもちろん、全ての学生が知る機会を得ることが求められます。多様な方法で情報にアクセスできるよう、より効果的な発信や啓発の方法を検討します。

教職員における認知度の結果から、立場によって情報の入手しやすさに差ができないよう工夫することが必要です。無期雇用の専任教職員以外の教職員がアクセスしやすい環境を整えることが求められます。

各領域（障害、性、外国ルーツ）において、課題が認識されやすいものとされにくいものがある可能性に留意し、領域による差も考慮に入れながら取り組みを計画する必要があります。

学生、教職員共に、自由記述において属性についての質問への抵抗感を記したものがありました。属性によって大学環境の経験に差異があるか、あるとしたらどのようなものかを知るために属性について踏み込んだ質問を組み込みましたが、マイノリティ性があると考えられる属性を明らかにすることへの忌避感について更なる考察が必要と考えます。

本調査の結果をうけて、結果の解釈や調査の意義について議論するために継続的な取り組み（調査報告会の実施、調査の定期実施化の検討を含む）をしていく予定です。

Ⅳ 質問票

中央大学ダイバーシティ推進のためのアンケート 2023 / Survey on Chuo University Diversity Promotion 2023

中央大学ダイバーシティセンターは、どのような背景をもつ人に対しても学生生活において平等な機会を提供できるよう、支援と環境づくりをしています。この取り組みをより一層推進するために、アンケート調査「中央大学ダイバーシティ推進に関する調査 2023」を実施することになりました。本調査で得られた結果をもとに、今後の学内環境の整備に努めてまいります。

Chuo University Diversity Center provides support and creates an environment for equal opportunities in student life for people with a variety of backgrounds. In order to further develop these efforts, the Center is conducting this survey, "Survey on Chuo University Diversity Promotion 2023". Based on the results obtained from this survey, we will strive to improve the campus environment of Chuo in the future.

中央大学ダイバーシティセンターの取り組みについては以下をご覧ください。

For more information on the activities and services of Chuo University Diversity Center, please visit this webpage: <https://www.chuo-u.ac.jp/campuslife/diversity/>

ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

Thank you very much for your cooperation.

■ 調査について / Overview of this Survey

- 調査実施主体：中央大学ダイバーシティセンター

Conducted by: Chuo University Diversity Center

- 調査対象：中央大学に所属する全ての学生（大学院生、留学生含む）および教職員

For: all students (including graduate students and international students), faculty members and staff of Chuo University

- * 対象の方だけ回答できます

Only those above can answer.

- 調査目的：①ダイバーシティに関連する学内の取り組みに関する認知度を把握する
②ダイバーシティに関連する学内環境に対する意識を把握する

Purpose: to understand 1) the level of awareness of diversity-related initiatives on campus, and 2) perceptions of the campus environment in terms of diversity.

- 調査期間：2023 年 10 月 1 日～ 10 月 31 日

Survey period: October 1 - October 31, 2023

- 本調査に関するお問い合わせは、下記をお願いします。

For inquiries regarding this survey, please contact:

- 中央大学ダイバーシティセンター Chuo University Diversity Center (Tel. 042-674-4554)
- お問合せフォーム Inquiry form <https://www.chuo-u.ac.jp/inquiry/form/?id=134>

■ 必ずお読みください

Please make sure to read this section before completing the survey below.

- 本アンケートは無記名で集計・保管されます。回答は任意です。

The results of this survey will be tabulated and stored anonymously. Responses are voluntary.

- 本アンケートで得られた結果は、実態を調査する目的のために使用され、個人が特定できないように加工したうえで報告書等の形で公開されます（インターネット上の公開含む）。

The results obtained from this survey will be used to investigate the actual situation at the university, and will be made public in the form of a web report and/or by other means, after being processed to make sure that individuals cannot be identified.

- ほとんどの質問は自由回答です（一部必須項目あり）。答えたくない、わかりづらい質問は飛ばして問題ありません。

*あなたの属性や所属、個人的な経験について何う質問もあります

Most questions are optional (some are required) . If you do not wish to answer an optional question, or if you find it difficult to understand, you may skip it. Some questions will ask about your attributes, affiliations, and/or personal experiences.

- 前のページに戻る場合は、フォーム上の「戻る」ボタンを押してください。

To return to the previous page, please click the “Back” button on the form, not on your browser.

- 一般的な回答時間は 5 分～ 10 分です。

The typical response time is 5 to 10 minutes.

- 下記「次へ」ボタンへのクリックをもって、本調査への協力に同意いただいたものといたします。

By clicking the “Next” button below, you agree to the conditions of this survey.

■ 中央大学におけるダイバーシティの取り組みについて／

Activities and initiatives for diversity at Chuo University

【1】あなたは中央大学の「ダイバーシティ宣言」を知っていますか。

Are you aware of the ‘Chuo University Declaration in Support of Diversity’ ?

- 内容含めて知っている／ Yes. I know its contents.
- 内容は知らないが、あることは知っている／ Yes. I know there is a declaration but I do not know its contents.
- 知らない／ No.

【2】あなたは中央大学の「ダイバーシティセンター」を知っていますか。

Are you aware of the Chuo University Diversity Center?

- 利用したことがあり、知っている／ Yes. I have used or visited it.
- 利用したことはないが、何をしている部署かは知っている／ Yes. I know what services it provides but I have not used or visited it.
- 利用したことはないが、あることは知っている／ Yes. I know it exists but I have not used or visited it.
- 知らない／ No.

【3】あなたはダイバーシティセンターが開催しているイベントについて知っていますか。

Are you aware of the events organized by the Diversity Center?

- 参加したことがあり、知っている／ Yes. I have participated in some of them.
- 参加したことはないが、開催されていたことは知っている／ Yes. I know about the events but I have not participated in any.
- 知らない／ No.

【4】あなたは「中央大学における障害学生支援に関するガイドライン」について知っていますか。

Are you aware of Chuo University's 'Guidelines for Support of Students with Disabilities'?

- 内容含めて知っている／ Yes. I know their contents.
- 内容は知らないが、あることは知っている／ Yes. I know there are guidelines but I do not know their contents.
- 知らない／ No.

【5】あなたはダイバーシティセンターが発行している「学生のためのジェンダー・セクシュアリティに関するハンドブック」、「教職員のためのジェンダー・セクシュアリティに関するガイドブック（配慮と対応）」について知っていますか。

Are you aware of the 'Gender and Sexuality Handbook for Students' and/or the 'Gender and Sexuality Guidebook for Faculty and Staff' issued by the Diversity Center?

- 学生版は知っている（教職員版は知らない）／ Yes, I am aware of the 'Handbook for Students' but not the 'Guidebook for Faculty and Staff'.
- 教職員版は知っている（学生版は知らない）／ Yes, I am aware of the 'Guidebook for Faculty and Staff' but not the 'Handbook for Students'.
- 学生版と教職員版どちらも知っている／ Yes, I am aware of both.
- 学生版と教職員版どちらも知らない／ No, I am not aware of them.

■ 中央大学の現状について／ **The current situation at Chuo University**

以下の質問の「環境」は、施設等の物理的なものだけでなく、雰囲気・風土なども含みます

The 'environment' referred to in the following questions includes not only physical facilities but also the atmosphere, 'climate', etc of the university.

【6】あなたは中央大学が障害のある方が不自由なく学ぶ／働くことができる環境だと思いますか。

Do you agree with the following statement: Chuo University provides an environment in which people with disabilities can study/work without difficulties.

- 思う／ Agree
- やや思う／ Somewhat agree
- あまり思わない／ Somewhat disagree
- 思わない／ Disagree

【7】あなたは中央大学が性別や性のあり方に関係なく安心して学ぶ／働くことができる環境だと思いますか。

Do you agree with the following statement: Chuo University provides a safe environment to study/work regardless of one's gender and/or sexuality.

- 思う／ Agree
- やや思う／ Somewhat agree
- あまり思わない／ Somewhat disagree
- 思わない／ Disagree

【8】あなたは中央大学が外国に（も）ルーツを持つ方が安心して学ぶ／働くことができる環境だと思いますか。

Do you agree with the following statement: Chuo University provides a safe environment for people with foreign roots to study/work.

外国に（も）ルーツを持つ方＝国籍・出身地域・民族・人種・名前・言語（発音を含む）に関して、日本以外に（も）繋がりがあある人を指します。日本で生まれ育った人も、外国で生まれ育った人も含みます。

People who have roots in a foreign country = Those who have connections outside of Japan in terms of nationality, region of origin, ethnicity, race, name, and language (including accent) . This includes both those who were born and raised in Japan and those who were born and raised in a foreign country.

- 思う／ Agree
- やや思う／ Somewhat agree
- あまり思わない／ Somewhat disagree
- 思わない／ Disagree

【9】ここまでにお聞きした内容に関連した経験やあなたの考えや思いなどを以下の自由記述欄に入力してください。

Please tell us about your experiences, thoughts and feelings related to the questions above, in the space below.

入力いただいた具体的な記述は、個人が特定できないように加工したうえで、調査結果報告書に記載する場合があります。記載を希望しない場合は次の質問を必ずチェックしてください。

Your answer may be quoted in the report of the survey results, after being processed to make sure that individuals cannot be identified. If you do not wish your answer to be quoted in the

report, please be sure to check the box in the next question.

ここまでの質問：ダイバーシティセンターに関して知っていること（宣言、イベント、ハンドブックなど）、中央大学が障害、性別や性のあり方、外国に（も）ルーツがあるか否かにかかわらず安心して学ぶ／働くことができる環境だと思うか。

Questions so far: What do you know about the Diversity Center (declaration, events, handbook, etc) ; do you think Chuo University is a safe environment to study/work in regardless of disability, gender or sexuality, or having foreign roots?

【10】 9 の内容を報告書等に記載することを希望「しない」場合は、その旨を必ずチェックしてください。

If you do not wish your answer to Question 9. to be quoted in the report, please check the box below.

記載しても構わないという方は次の質問にお進みください。

If you agree to be quoted, please proceed to the next question.

☒ 個人が特定できないように加工した場合であっても、記載を希望しない。

I do NOT wish to be quoted, even if my answer is processed so that individuals cannot be identified.

■ 回答しているあなたについて / About yourself

【11】 あなたにあてはまるものを以下から選択してください。* 必須項目

Please select which of the following options applies to you.

- 中央大学の学生（大学院生、留学生含む） / Student of Chuo University (including graduate and international students) (【12a】に進む)
- 学校法人中央大学の教職員 / Faculty or staff of Chuo University. (【12b】に進む)

■ 回答しているあなたについて（学年） / About yourself (grade)

あなたの属性や所属などについて伺いますが、ここまでの問いと同様に、答えたくない、わかりづらい質問は飛ばして問題ありません。

Questions about your personal attributes and affiliations will follow. As with the previous questions, you may skip any questions that you do not wish to answer or that are difficult to understand.

【12a】 あなたの学年を教えてください。

What is your grade?

- 学部 1 年生 / First-year undergraduate student (【13a1】に進む)
- 学部 2 年生 / Second-year undergraduate student (【13a1】に進む)
- 学部 3 年生 / Third-year undergraduate student (【13a1】に進む)
- 学部 4 年生以上 / Fourth-year or above undergraduate student (【13a1】に進む)
- 博士前期課程 1 年生 / First-year masters student (【13a2】に進む)

- 博士前期課程 2 年生以上／ Second-year or above masters student (【13a2】に進む)
 - 博士後期課程 1 年生／ First-year doctoral student (【13a2】に進む)
 - 博士後期課程 2 年生／ Second-year doctoral student (【13a2】に進む)
 - 博士後期課程 3 年生以上／ Third-year or above doctoral student (【13a2】に進む)
- (＊無回答の場合は【14a】に進む)

■ 回答しているあなたについて (学部) / **About yourself (faculty affiliation)**

あなたの属性や所属などについて伺いますが、ここまでの問いと同様に、答えたくない、わかりづらい質問は飛ばして問題ありません。

Questions about your personal attributes and affiliations will follow. As with the previous questions, you may skip any questions that you do not wish to answer or that are difficult to understand.

【13a1】あなたの所属を 1 つだけ選んでください。

Please select your affiliation from one of the options below.

- 法学部 Faculty of Law
- 経済学部 Faculty of Economics
- 商学部 Faculty of Commerce
- 理工学部 Faculty of Science and Engineering
- 文学部 Faculty of Letters
- 総合政策学部 Faculty of Policy Studies
- 国際経営学部 Faculty of Global Management
- 国際情報学部 Faculty of Global Informatics
- 法学部通信教育課程 Distance Learning Division, Faculty of Law

(【14a】に進む)

■ 回答しているあなたについて (研究科) / **About yourself (graduate program)**

あなたの属性や所属などについて伺いますが、ここまでの問いと同様に、答えたくない、わかりづらい質問は飛ばして問題ありません。

Questions about your personal attributes and affiliations will follow. As with the previous questions, you may skip any questions that you do not wish to answer or that are difficult to understand.

【13a2】あなたの所属を 1 つだけ選んでください。

Please select your affiliation from one of the following options.

- 法学研究科 / Graduate School of Law
- 経済学研究科 / Graduate School of Economics
- 商学研究科 / Graduate School of Commerce

- 理工学研究科／ Graduate School of Technology and Science 文学研究科／ Graduate School of Letters
- 総合政策研究科／ Graduate School of Policy Studies
- ロースクール／ Law School (Chuo Law School)
- ビジネススクール／ Business School (Chuo Graduate School of Strategic Management)
- 国際情報研究科／ Graduate School of Global Informatics

■ 回答しているあなたについて（留学生）／ **About yourself (international students)**

あなたの属性や所属などについて伺いますが、ここまでの問いと同様に、答えたくない、わかりづらい質問は飛ばして問題ありません。

Questions about your personal attributes and affiliations will follow. As with the previous questions, you may skip any questions that you do not wish to answer or that are difficult to understand.

【14a】あなたは留学生にあてはまると思いますか。

Do you consider yourself to be an international student?

- はい（私費留学）／ Yes. I am a privately-funded international student.
- はい（公費・国費）／ Yes. I am a publicly or nationally-funded international student.
- はい（交換留学）／ Yes. I am an exchange student.
- いいえ／ No.

（【15】に進む）

■ 回答しているあなたについて（教職員）／ **About yourself (faculty and staff)**

あなたの属性や所属などについて伺いますが、ここまでの問いと同様に、答えたくない、わかりづらい質問は飛ばして問題ありません。

Questions about your personal attributes and affiliations will follow. As with the previous questions, you may skip any questions that you do not wish to answer or that are difficult to understand.

【12b】あなたの立場を教えてください。

Please select your position.

- 専任教員・専任研究員（無期雇用）／ Full-time faculty (permanent) 専任教員・専任研究員（有期雇用）／ Full-time faculty (limited term) 兼任講師（客員教員含む）／ Part-time faculty
- 専任職員／ Full-time administrative staff employed by Chuo University (permanent)
- 専任以外の職員（中央大学に直接雇用されている職員：室員・嘱託職員・パートタイム職員・教育技術員等）／ Other types of administrative staff employed by Chuo University (e.g. contract staff, part-time staff, educational engineers)
- 派遣・委託業者の職員／ Dispatch and outsourced staff
- その他／ Other

【13b】 あなたの勤務地を教えてください。

Please select your work location.

- 勤務地が複数ある場合は主な勤務する場所を選んでください。／ If you have more than one place of work, please select the main place where you work.
- 多摩キャンパス／ Tama campus
- 多摩キャンパス以外／ Other than Tama campus

【14b】 あなたの年齢を教えてください。

Please select your age.

- 19 歳以下／ 19 years old and under
- 20-24 歳／ 20-24 years old
- 25-29 歳／ 25-29 years old
- 30-34 歳／ 30-34 years old
- 35-39 歳／ 35-39 years old
- 40-44 歳／ 40-44 years old
- 45-49 歳／ 45-49 years old
- 50-54 歳／ 50-54 years old
- 55-59 歳／ 55-59 years old
- 60-64 歳／ 60-64 years old
- 65 歳以上／ 65 years old and above

■ 回答しているあなたについて（属性）／ About yourself (attributions)

あなたの属性や所属などについて伺いますが、ここまでの問いと同様に、答えたくない、わかりづらい質問は飛ばして問題ありません。

Questions about your personal attributes and affiliations will follow. As with the previous questions, you may skip any questions that you do not wish to answer or that are difficult to understand.

【15】 あなたの今の認識にもっとも近い性別を選んでください。

Please select the gender that most closely matches your current identification.

- 男性／ male
- 女性／ female
- 男性・女性どちらでもない／ neither male or female
- その他：

【16】 あなたは今の自分の性別を、出生時に判断された性別と同じだと思いますか。

Do you consider your current gender to be the same as the gender you were assigned at birth?

- 同じだと思う／ I think it is the same.

- 同じだと思わない／ I don't think it is the same.

【17】次の中であなたは次のどれにあてはまると思いますか。

Which of the following do you think applies to you?

- 異性愛者(=ゲイ・レズビアンなどではない)【ほかの性別の人に性愛感情をもつ人】／ Heterosexual(i.e., not gay, lesbian, etc.) [a person who is sexually attracted only to people of the other gender].
- ゲイ・レズビアン(同性愛者)【おなじ性別の人にだけ性愛感情をもつ人】／ Gay or lesbian (homosexual) [a person who is sexually attracted only to people of their own gender].
- バイセクシュアル(両性愛者)・パンセクシュアル(全性愛者)【二つ以上の性別に性愛感情を持つ人】／ Bisexual or Pansexual [a person who is sexually attracted to more than one gender].
- アセクシュアル(無性愛者)【誰に対しても性愛感情をもたない人】／ Asexual [a person who is not sexually attracted to anyone].
- その他：

【18】あなたは外国に(も)ルーツを持っていますか。

Do you have roots in a foreign country?

外国に(も)ルーツを持つ=国籍・出身地域・民族・人種・名前・言語(発音を含む)に関して、日本以外に(も)繋がりがあある人を指します。日本で生まれ育った人も、外国で生まれ育った人も含みます。

People who have roots in a foreign country = Those who have connections outside of Japan in terms of nationality, region of origin, ethnicity, race, name, and language (including accent) . This includes both those who were born and raised in Japan and those who were born and raised in a foreign country.

- はい／ Yes
- いいえ／ No
- その他：

【19】障害や慢性疾患がありますか。(複数選択可)

Do you have a disability and/or chronic illness? Select all that apply.

障害者手帳や診断の有無は問いません。

No certificate or diagnosis is required.

- 障害・慢性疾患はない／ No. I don't have a disability or chronic illness.
- 身体障害がある／ Yes. I have a physical disability.
- 発達障害がある／ Yes. I have a developmental disability.
- 知的障害がある／ Yes. I have an intellectual disability.
- 精神障害がある／ Yes. I have a mental disability.
- 慢性疾患がある／ Yes. I have a chronic illness.
- その他：

【20】本アンケートに関するご意見などがございましたら、以下の自由記述欄に入力してください。

If you have any comments or suggestions regarding this survey, please write them below.

入力いただいた具体的な記述は、個人が特定できないように加工したうえで、調査結果報告書に記載する場合があります。記載を希望しない場合は次の質問を必ずチェックしてください。

Your answer may be quoted in the report of the survey results, after being processed to make sure that individuals cannot be identified. If you do not wish your answer to be quoted in the report, please be sure to check the box in the next question.

【21】20の内容を報告書等に記載することを希望「しない」場合は、その旨を必ずチェックしてください。

If you do not wish your answer in Question 20. to be quoted in the report, please check the box below.

記載しても構わないという方は次にお進みください。

If you agree to be quoted, please proceed to the next section of the survey.

☒ 個人が特定できないように加工した場合であっても、記載を希望しない。

I do NOT wish to be quoted, even if my answer is processed so that individuals cannot be identified.

最後に／ Finally...

- 本アンケートに関するお問い合わせ、質問項目に盛り込まれた内容や関連する事項についてご相談を希望される場合は下記からご連絡ください。

If you have any queries about this survey or wish to discuss any of the items in the survey or related matters, please contact us at:

中央大学ダイバーシティセンター Chuo University Diversity Center:

Tel. 042-674-4554

お問合せフォーム Inquiry form <https://www.chuo-u.ac.jp/inquiry/form/?id=134>

- 中央大学のダイバーシティ推進に関する取り組みは中央大学のホームページからご覧いただくことができます。

Please visit Chuo University's website to learn more about the university's activities to promote diversity.

<https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/diversity/>

- 調査結果は2024年4月ごろにダイバーシティセンターのホームページで公開予定です。

It is planned to publish the report of the survey on the Diversity Center website around April 2024.

<https://www.chuo-u.ac.jp/campuslife/diversity/>

アンケートは以上です。This is the end of the survey.

下の送信ボタンを押してください。Please click the "Send" button below.

ご協力いただき、ありがとうございました。Thank you for your cooperation.

中央大学
ダイバーシティ推進のためのアンケート 2023 調査報告書

発行：2024 年 3 月（2023 年 10 月調査実施）

発行者：中央大学ダイバーシティセンター

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

Tel.042-674-4554

